

# 教室年報 2022



岩手医科大学医学部外科学講座

Iwate Medical University, School of Medicine  
Department of Surgery: Annual Report 2022

巖刀会(外科学講座同門会)



白鳥のV字飛行

### 外科学講座の歴史

本学は昭和3年、岩手医科大学の前身である岩手医学専門学校が設立され、昭和26年に学校法人岩手医科大学が発足するに至った。

外科学講座の歴史は古く昭和4年、副島鎮雄の教授就任まで遡る。その後、昭和5年に三宅徳三郎、昭和13年には永松之幹、そして昭和19年には瀬田孝一が教授に昇任した。昭和31年に外科学第一講座と名称を変え、瀬田は在任35年間にわたり当教室の基礎を築き、大きな発展をもたらした。

昭和54年の瀬田の退職後、同年東北大学第2外科助教授であった森昌造が教授に赴任。昭和61年に東北大学第2外科教授へ転任となるまで、疾患別のグループ制度を導入することで各分野の専門性を確立し、研究活動にも大きな躍進がみられた。

昭和62年6月に斎藤和好が外科・内科において初の母校出身の教授に昇任し、良き伝統と誠の医師としての真摯な態度を継承、内視鏡手術など外科学の更なる進歩に貢献した。

平成17年に斎藤の退職後、同年9月慶應義塾大学外科学専任講師であった若林剛が教授に就任、患者様を中心とした最良の治療が選択・実践可能な「チーム医療」を基盤として北東北での肝移植を実現した。

平成27年8月に同科准教授の佐々木章が教授に就任。肥満外科手術の指導的施設として国内外に情報を発信するとともに、各分野の内視鏡外科手術を中心とした患者様に低侵襲で良質な治療を提供できるよう研究、教育そして診療に取り組んでおります。



こちらのQRコードを読み取ってホームページにアクセスできます



当科では我々がやっている医療を一般の方、あるいは医学生や研修医の先生をはじめとするさまざまな医療関係者の方にご理解をいただくために、ホームページの充実を図っております。最新医療をトピックスとして提供するとともに、スタッフのプロフィールも公開しております。「主治医の顔と人となり」を少しでもご理解していただくことで、良好な信頼関係を築く一助になることを期待しております。また、私どもが主催する市民公開講座や研究会等、各種イベントのご案内も随時更新しております。このホームページが、理想的な医療体制の実現に向けて、私どもと皆様をつなぐ架け橋となるよう願っております。

# 教室年報 (2022年)

岩手医科大学医学部外科学講座同門会

## CONTENTS

### 巻頭言

教室年報2022 発刊にあたって …… 外科学講座教授 佐々木 章

### 特別寄稿

「多価不飽和脂肪酸の外科学分野への導入」 …… 学長 祖父江憲治  
「教室年報2022」に寄せて …… 医学部長 佐々木真理

### 教室の今年1年

教室の一年 …… 外科学講座教授 新田 浩幸  
2022年の1年をふり返って …… 外科学講座准教授 片桐 弘勝  
さらなる教室の発展のためにできること …… 外科学講座准教授 梅邑 晃

### 016 外科学講座スタッフ紹介・日常風景

### 020 チーム紹介

上部消化管チーム/下部消化管チーム/肝胆脾・内分泌代謝外科チーム/  
乳腺チーム/小児外科チーム/  
高度救命救急センター《救急・災害・総合医学講座 救急医学分野》

### 030 2022年診療状況

入院患者分類/手術件数/関連病院手術件数/  
関連病院発表業績件数/外科専門医制度修練指定施設・関連施設/  
日本消化器外科学会専門医制度指定修練施設(認定施設)

### 032 新教室員紹介

小山 亮太/菅野 正紀/清川 真緒/琴畑 洋介

### 034 表彰の栄誉

令和4年度自治体立優良病院総務大臣表彰 受賞報告 …… 吉田 徹  
JACCRO 臨床試験への功績 …… 高金 明典  
始まりは県立宮古病院の外科研修から …… 伊藤 達朗  
Surgery Today 第6回Best Reviewer Award 受賞報告 …… 梅邑 晃  
第122回日本外科学会 研修医優秀演題 受賞報告 …… 口田 脩太  
第47回日本外科系連合  
～Wada Award 受賞・JDDW 若手奨励賞 受賞報告 …… 熊谷 秀基  
[第47回日本外科系連合学会学術集会 Wada Award Session Silver Prize]と  
[JDDW 若手奨励賞]を受賞して …… 菊地 晃司  
令和4年度主理会学術振興会共同研究助成受賞 報告 …… 梅邑 晃  
肝臓内視鏡外科研究会 最優秀演題受賞 報告 …… 木村 拓

### 040 学位取得者(博士)

学位論文報告 …… 屋成 信吾・橋元 麻生

### 043 学会報告

第47回日本外科系連合学会学術集会を主宰して …… 佐々木 章  
第44回日本臨床栄養学会総会を主宰して …… 佐々木 章  
会長講演 外科と栄養 ～未来のために今何をすべきか～ …… 佐々木 章

### 046 新聞記事紹介

### 050 2022年アルバム紹介

### 056 関連病院だより

岩手県立二戸病院・岩手県立軽米病院・岩手県立久慈病院・盛岡赤十字病院・  
盛岡市立病院・岩手県立釜石病院・岩手県立宮古病院・北上済生会病院・  
岩手県立千厩病院・岩手県立江刺病院・函館五稜郭病院・能代厚生医療センター・  
八戸赤十字病院・かづの厚生病院

### 066 外科紹介医療機関

### 071 研究業績

### 084 スタッフ名簿

### 086 編集後記

### 087 協賛広告



岩手医科大学医学部外科学講座  
教授

佐々木 章

Akira Sasaki, M.D., Ph.D.  
Professor and Chairman

## 教室年報2022 発刊にあたって

2022年1月より12月までの岩手医科大学外科学講座の教育・研究・診療活動をまとめ、「教室年報2022」を作製しました。2015年から教室運営を行い、8回目の発刊となります。

COVID-19は、今年も世界で猛威をふるい、わが国そして岩手医科大学でも深刻な状況となりました。2020年1月に釜山で開催されたメタボリックサージェリーに関する東アジア3か国会議（TEAMS）のシンポジウムに座長として参加、COVID-19については帰国後に知ることになりましたが、感染リスクが高かったことから恐怖感を毎日感じていたことを思い出します。コロナ禍で学会もオンライン開催、現地開催にライブやオンデマンド配信を併用したハイブリッド開催が主流となりました。学会のオンライン化は、利便と効率上で有用ですが、特に若手の人的交流

と共同体意識の涵養の場が失われていると思います。しかし、2021年に施行した日本外科学会の学術集会のオンライン開催に関するアンケート調査では、質疑応答に改善の余地があるものの、オンライン開催で勤務の合間に視聴できる利便性やオンデマンドで視聴の機会が増えたとの意見が多く、アフターコロナの開催形式はハイブリッドなどでオンライン参加も可能とすることを希望する意見が大多数でした。現地開催による対面形式を残しつつ、オンライン開催も残さなければ会員が満足しないということです。学会形式については賛否両論あると思いますが、2023年3月9日～10日に沖縄で開催された第59回日本腹部救急医学会総会では、過去最多の1,691題の演題が集まりました。私も座長と呼ばれましたが、感染対策も緩和された中で多く

# k i r a S A S A K I

M.D., Ph.D. Professor and Chairman

の参加者で盛会でした。

コロナ禍では、医療現場の感染対策などの負担が問題となっていますが、同時に働き方改革の取り組みが進みつつあります。しかし、医師の働き方改革が勤務時間の短縮や業務の効率化を重要視するあまり、研究力を低下させる可能性があります。実際に世界における英文論文数の報告では、わが国のトップ10%の補正論文数は1998～2000年で4位・2008～2010年で6位・2018～2020年で12位と低下しています。教室における英文論文数は横ばいの状態です。アフターコロナも厳しい労働環境が考えられますが、働き方改革と研究力向上の両立を目指したいと思います。現在、実際に行っている研究費獲得に向けた定期的なリサーチプロポーザルの継続、そして今後は研究補助員と学内外協力者の増員による業務軽減と効率化を進めていきます。

教室の人事では、准教授と講師が大きく変わりましたが、各診療チーム間における教育・研究・診療の連携は維持できています。患者のご紹介やご相談については、鈴木 信准教授（2000年卒、小児外科チーム長）、片桐弘勝准教授（2004年卒、肝胆膵・内分泌代謝外科チーム）、梅邑 晃准教授（2005年卒、肝胆膵・内分泌代謝外科チーム）、馬場誠朗講師（2004年卒、上部消化管外科チーム長）、八重樫瑞典講師（2009年卒、下部消化管外科チーム長）、石田和茂助教（2005年卒、乳腺外科チーム長）に、気軽にお声がけいただければ幸いです。

関連病院の人事では、2023年3月現在、伊藤達朗先生（国民健康保険葛巻病院）、吉田 徹先生（県立中部病院）、坂下伸夫先生（県立釜石病院）、

川村秀司先生（県立江刺病院）、葛西敏史先生（県立軽米病院）、川村英伸先生（県立宮古病院）、佐藤 一先生（県立千厩病院）、石川 徹先生（県立大槌病院）、遠野千尋先生（県立久慈病院）、瀧山郁雄先生（八幡平市立病院）、小原 眞先生（西和賀さわうち病院）が、教室の関連病院で病院長として活躍されており、2023年4月からは阿部 薫先生が県立山田病院長に就任されます。教室からの出張医師の調整を行い、外科医の地域偏在のないよう各病院と連携しながら地域医療を支えていきます。

2023年の学会活動では、5月20日に第34回内視鏡外科フォーラム in 盛岡（アイーナ）、7月6日に第29回侵襲とサイトカイン研究会（シェンバツハ・サボー）を主宰します。少しでもアフターコロナを感じられるような現地開催を目指して準備に邁進してまいりますので、多くの皆様方にご参加いただけますようお願いいたします。

2028年3月に退職予定と時間が限られています。自らの健康を確保し安全で質の高い医療を提供しながら、次の時代を先導する教室員の育成を目標に誠心誠意努力してまいります。巖刀会と関連病院の皆様方には、今後とも一層のご指導ご鞭撻を賜りますよう何卒よろしくお願い申し上げます。

# 特別寄稿



岩手医科大学  
学長

祖父江 憲治

Kenji Sobue, M.D., Ph.D.  
President

## 「多価不飽和脂肪酸の外科学分野への導入」

2021年度の初頭からコロナ感染症が急増し、ロシアによるウクライナ侵略、元首相の暗殺とそれにからむ宗教問題など、暗い問題をかかえた1年でした。ここではこれ迄に、日本の医療体制の長期展望から本学の将来へ向けた方向性、医局のあり方などについて述べさせて頂きました。今回は少し指向を変え、外科学領域への栄養学導入という話をさせて頂きます。

本学外科学講座では佐々木章教授を先頭に、肥満外科学分野で栄養学を導入した先進医療で実績を挙げておられます。先生方がこれ迄に充分御認識のことではありますが、多価不飽和脂肪酸(polyunsaturated fatty acid, PUFAs)の外科学分野へ導入の可能性について話を致します。

### PUFAsの代謝と役割

近年、PUFAsはテレビなどマスコミ媒体のCMで、サプリメントとしてその有用性が盛んにPRされています。PUFAsの中でもC末端から3番目あるいは6番目に不飽和結合有する脂肪酸を、 $\omega$ -3(n-3)あるいは $\omega$ -6(n-6)脂肪酸と呼んでいます(図1)。不飽和度が高い(不飽和結合が多い)ほど脂肪酸として屈曲性が高く、つまり柔らかい脂肪酸ということになります。

細胞膜は主に膜タンパク質(糖たんぱく質も含む)と脂質より形成されていますが、この脂質の中で飽和脂肪酸(不飽和度0の脂肪酸)が多い細胞膜は固く、不飽和度の高いPUFAsの多い脂肪酸(不飽和度が1から2,3,4,6の脂肪酸)で形成される細胞膜は、柔らかくて細胞膜流動性が高く細胞機能が活発です。

$\omega$ -3と $\omega$ -6PUFAsおよびその代謝産物は、細胞に対し多様な生物活性を示します(図2)。興味深いのは、 $\omega$ -3と $\omega$ -6PUFAsとで全く逆の生物活性を示すことです。 $\omega$ -3PUFAsの代謝産物は、いずれも生物活性では有効に作用をしますが、 $\omega$ -6PUFAs代謝産物は生体にとって有害作用を示す例が多いのです。 $\omega$ -3PUFAsは $\alpha$ -リノレン酸からEPAやDHAが形成され、さらにプロテクチンやリソルビンが造られます。 $\omega$ -6PUFAsはリノール酸からアラキドン酸を経由してプロスタグランジン類やトロンボキサン類へと代謝されます。 $\omega$ -3PUFAs代謝産物が健康にとって有効であれば、その前駆物質である $\alpha$ -リノレン酸を大量摂取すればいいこととなります。所が、ヒトを含む哺乳動物では $\alpha$ -リノレン酸からEPAやDHAが合成される酵素活性は低く、従ってEPAやDHAを直接摂取する必要があります。EPAやDHAを豊富

# Kenji SOBUE

M.D., Ph.D. President

に合成し含有しているのはプランクトンで、このプランクトンをエサとする魚介類を、さらにマグロ、カツオ、サバ、サンマ、イワシ、貝などの青魚が捕食して体内に蓄積され、それを人間が摂取するという壮大な食物連鎖が行われています(図3)。マグロ、カツオ、サバ、サンマなど大型の青魚にはDHA、イワシやアンチョビのような小型の青魚はEPAが豊富に存在します。少し横道へ逸れますが、サケは白身の魚ですが大型青魚と同等にDHAが豊富で、かつサケの身が赤いのは生物界最強の抗酸化剤であるアスタキチン酸によるものです(アスタキチン酸もプランクトンから摂取される)。偏見かもしれませんが、サケは魚の中で最も有用な食物かも知れません。さて図2に示しましたように、 $\omega$ -3と $\omega$ -6PUFAの代謝産物ともにそれぞれの方向へ逆の生産物活性を示しますが、これを根拠に栄養学分野では $\omega$ -3/ $\omega$ -6のPUFA比率で評価することがあります。健康のバロメーターからすると、 $\omega$ -3値の高い方が健康に良いということになります。

先述しましたようにDHA/EPA製剤が市場でサプリメントとして活況を呈していますが、これはなぜでしょう。エスキモーやイヌイットの人々が動脈硬化症になりにくいのは、「あざらし」の生肉と生血を摂取するからだと言われてきました。これが、DHA/EPAは動脈硬化症に有効ではないかと注目されたのです。あざらしは小魚を餌とします。実際、EPA(エパデール)は動脈硬化症治療薬として市場に出ました。最近、DHAもロトリガという名で薬剤として流通しています。現在のところ、臨床治験としてDHA/EPAの有効性が報告されているのは動脈硬化症のみです。他の脳卒中、心筋梗塞症、うつ病、アルツハイマー病、痴呆症などへの効果が期待されつつも、未だ確たる成果が得られておりません(図4)。これはヒト臨床、動物実験、細胞実験でも同様です。いずれも、有効性の指標とその有効性の分子レベルの解析根拠が欠落している為です。もう一つ大きな点は、DHA/EPAが治験というプロセスを飛ばし、サプリメントとして飛躍的拡大をし、その地位を確立してしまったことにあります。

我々は12年前より、日本の大魚場である三陸沿岸の青魚有用性の分子メカニズムの解析をスタートしました。指標としたのは、我々の得意とする神経細胞の分化さらにシナプス形成です、神経細胞は分化すると、神経軸索(axon)と

いう1本の長い突起物と数本の樹状突起(dendrite)から成る非対象型細胞です(神経細胞の極性と呼んでいます)。この軸索と樹状突起が出会い接着構造が造られたものがシナプスで、神経細胞間情報伝達の要となる構造です(図4)。我々は、DHAが軸索の伸長を促進することを見出し、その分子メカニズムはDHAが神経細胞内でAkt/mTOR系シグナルを活性化し、軸索伸長に必要なタウ蛋白質とCRMP2という蛋白質の合成を促進(特殊な翻訳活性化)によることを解明しました(図5,6,7)。Akt/mTORシグナルは細胞内情報伝達系の中でも、細胞の分化や細胞の寿命維持(細胞死とは反対の働き)などに重要な役割を果たしており、今後DHAやEPAの分子機構が、神経軸索の伸長のみでなくより多くの細胞機能で広く関与するメカニズムが明らかになることが期待されます。

## $\omega$ -3PUFAsの臨床応用

EPAは成体内では不安定で、直ちに代謝・分解されます。前述したように、エパデールカプセルは動脈硬化症予防、改善薬として使われていますが、イヌイットがあざらしの生肉や生血液の摂取過剰になると、EPAの血小板凝集抑制作用により出血傾向を来します。イヌイットでは脳内出血なども報告されており、EPAの過剰投与はさけなければなりません。DHAは生体内で摂取された後、トリグリセロールのアシル体として安定して体内で存在しており、必要に応じてDHAへと代謝されます。DHAの大量服用でも、副作用の報告はありません。これまでの臨床知見では、DHA/EPA混合カプセル(DHA>EPA)で5~6g/日量までは使用されています。但し、効果の程は報告により様々です。

短腸症候群や腸管不全関連肝機能障害の新生児で、中心静脈栄養により $\omega$ -3PUFAsが有効性を発揮したという報告があり注目されています。これはOmegavenという商品名で、魚油を原料とした $\omega$ -3系脂肪乳剤として欧州を中心に市販されています。我が国では未だに薬事承認が得られておらず、医師主導型治験の段階です。国内外の報告によると有効性の報告はあり、胆汁うっ滞の改善などの有効性も認める症例もありますが、中心静脈栄養による細胞感染に伴う敗血症や肝機能障害といった問題点も指摘されています。

国内で市販されている大豆油による中心静脈栄養法は、

エネルギーの補給などに有効ですが $\omega$ -6PUFAsの主体とするため、図2のように、生体にとって不利な作用が多いことも考えなければなりません。

いずれにしても、中心静脈栄養法により量的に大量投与が可能ではありますが、投与時には細心の注意を要する(注入時間、0.1g/時間:細菌感染)などの制約が多いのも事実です。さらに、魚油にしても大豆油にしても乳剤として使用するため、乳化剤の種類や乳化方法など今後検討すべき点は多い。

魚油ではなく部分精製したDHA乳剤を早産児(在胎29週未満)の気管支肺異形成症に対する治療目的で、早産児に経腸栄養法で投与して異形成症リスク軽減を期待したが、むしろリスク増大の可能性が示唆されています。

このように臨床医療分野で $\omega$ -3PUFAsの応用例が報告されています(図8)。経口投与例が最も安全ですが、経口は投与量に限界があり、投与方法を含めまだ解決しなければならない問題点があります。中心静脈栄養法について言えば、 $\omega$ -3PUFAsあるいはDHAをどのような乳化剤でどのようにしてミセル化し使用するかなどをクリアする必要があります。また、どの疾患に適応し、効果の指標をどこにおくかなど解決しなければならない問題は山積しています。但し、図2,3で示したように、 $\omega$ -3PUFAsは生体にとって多方面に有効作用を示す可能性を秘めており、外科学の先生方も是非目を向けて頂き、新たな外科学分野への臨床応用、治療法開発に繋げて頂ければ幸いです。

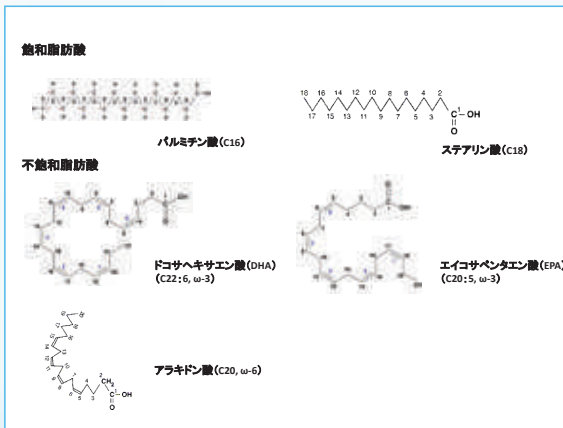


図1

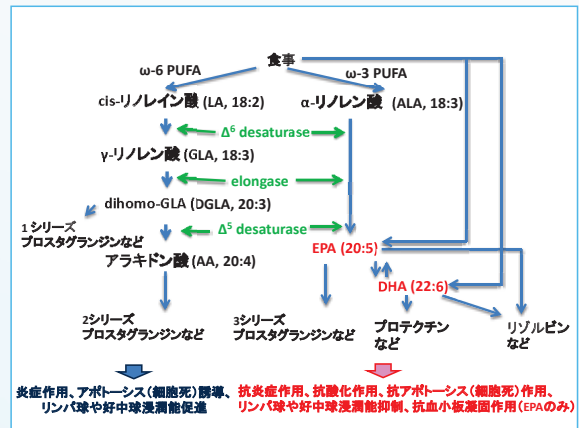


図2



図3

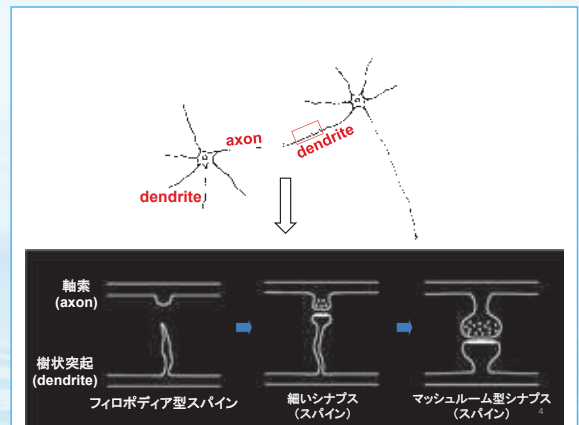


図4



# Kenji SOBUE

M.D., Ph.D. President

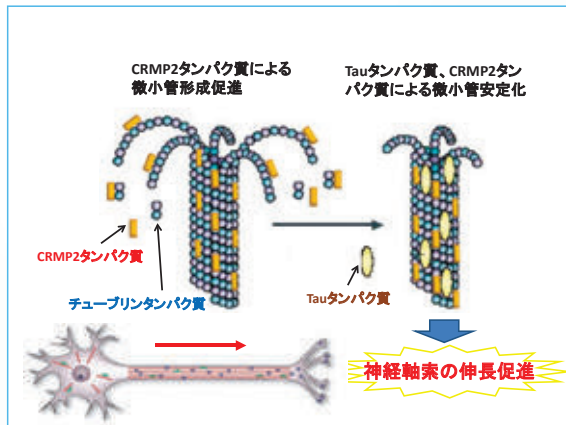


図5

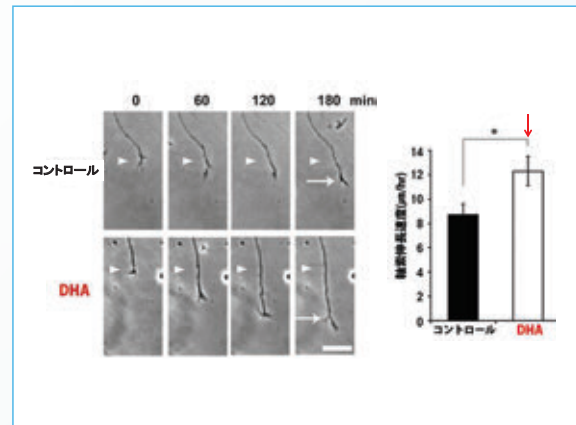


図6

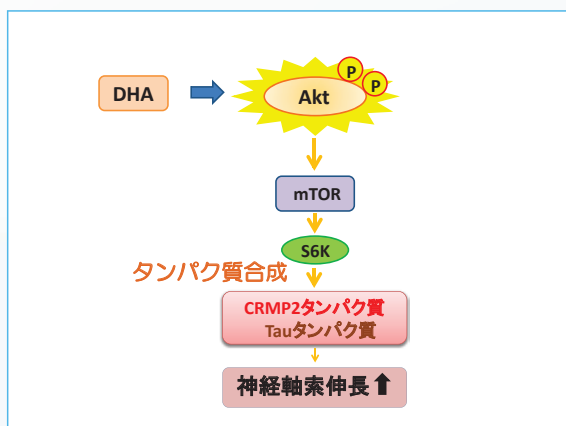


図7

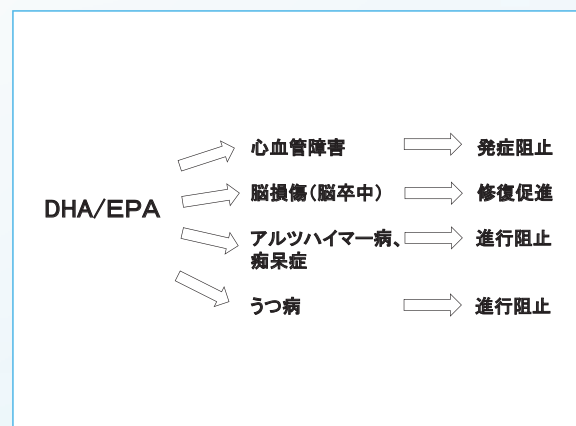


図8

図1. 脂肪酸の構造

飽和脂肪酸は直鎖で、屈曲性のない固い構造。

不飽和脂肪酸は炭素鎖間に不飽和結合(図の二重結合)を有し、不飽和結合が多いもの程屈曲率が高く、柔らかい構造。

図2.  $\omega$ -3と $\omega$ -6PUFAsの代謝とその代謝産物の生物活性

図3.  $\omega$ -3PUFAsの食物連鎖

図4. 神経細胞分化とシナプス形成

神経細胞は軸索と樹状突起という二種類の突起構造が互いに結合し、シナプスという情報伝達構造を形成する。

図5. CRMP2タンパク質とTauタンパク質による微小管伸長促進と安定化作用による神経軸索の伸長促進(T.Morita et al. J.Biol.Chem, 284,27712,2009)

図6. DHAは神経軸索が伸長する速度を促進する(T.Mita et al. J.Biol.Chem,291,4995,2016)

DHAは神経軸索の伸長速度を速めることにより、軸索伸長を促進させている。

図7. DHAによるAkt/mTOR-S6Kシグナル経路活性化による神経軸索伸長の分子メカニズム(T.Mita et al. J.Biol.Chem,291,4955,2016)

図8. DHAやEPA (fish oil)は魔法の薬？



岩手医科大学  
医学部長

## 佐々木 真理

*Makoto Sasaki, M.D., Ph.D.  
Dean, School of Medicine*

## 「教室年報2022」に寄せて

岩手医科大学外科学講座ならびに巖刀会の諸先生方におかれましては益々ご清祥のこととお慶び申し上げます。佐々木章教授をはじめ貴講座の先生方、貴講座出身の先生方には平素より本学の診療・教育・研究を牽引していただき衷心より御礼申し上げます。

本学の医学教育における貴講座の先生方のご貢献は計り知れません。中でも、佐々木章教授には2019年度から教務委員長を3年間お務めいただき、医学部教務体制の抜本的な改革を組織的かつ細やかに進めていただきました。本年度より医学部副学部長にご就任いただき、様々なご助言をいただくとともに、国家試験不合格既卒者のサポートをお願いしております。また、下沖収教授を委員長とする学修支援委員会のご努力も特筆に値し、特に新田浩幸教授・木村祐輔教授には成

績不良者に対し早朝より献身的なご指導をいただいております。危機的状況にあった国家試験合格率がここ数年目に見えて向上し、さらに進級率・卒業率が向上傾向にありますのも、先生方の並々ならぬご尽力の賜物であり、この場をお借りして心より感謝申し上げます。

さて、本学の入学試験センターではこの数年間様々な改革を行ってきました。試験・選抜の透明化・適正化はもちろんのこと、新型コロナウイルス感染症対策の一環として、試験科目・時間割の見直し、東京会場の変更、リモート面接の導入などを行い、教職員および受験生の負担とリスクの軽減を図ることができました。また、18歳人口が減少するなか有望な学生を安定して確保すべく、総合型選抜を昨年度より導入し、多くの志願者が受験しています。今年度は地域枠D（全

# akoto SASAKI

M.D., Ph.D. Dean, School of Medicine

国・診療科指定枠)を新設することができ、その効果に期待しています。

一方で、本学の喫緊の課題の一つに臨床研修医の確保が挙げられます。臨床研修医獲得には多方面からの対策が必要です。医師卒後臨床研修センターを中心にすばらしい臨床研修プログラムを用意していただき、卒後臨床研究評価機構からも高い評価を得たとうかがっております。以前より指摘のあった臨床研修医の給与についても見直しの検討が始まっています。また、現在の第一学年より地域枠学生の県内での臨床研修が義務付けられ、総合型選抜などの本学附属病院での臨床研修を必須とする選抜枠もスタートし、数年後には効果が期待されます。先生方には臨床実習などを通して臨床研修医の獲得に一層心がけていただきたくお願い申し上げます。

医学研究科の大学院生の減少も大きな問題です。社会人大学院と新専門医制度や奨学金義務履行との両立に関する教員・学生の不安が減少につながっていると思われまます。中教審大学分科会の答申などを受け、ここ数年医学研究科教務委員会が中心となって大学院改革に取り組み、単位履修の実質化や評価・試験の適正化を

達成していただきました。いわゆる専従期間制度はすでに役割を終えたものと思われ、来年度見直しを図り社会人大学院の自由度を向上できればと考えています。また、来年度は橋渡し研究・産学連携概論が新設され、看護師を対象としたコースも新設されるなど、内容のさらなる充実が予定されています。大学院は本学の研究力を支える重要な役割を果たしており、臨床系の学位論文は特定機能病院の要件を満たすうえでも大きな力となっています。大学院生の獲得につきましても特段のご高配をいただければ幸いです。

医学教育はさらなる変革の時期を迎えようとしています。今年度は共用試験CBT・OSCEの公的化、医学教育モデル・コア・カリキュラムの改訂、大学設置基準の改正という大きな動きがありました。来年度はこれらに迅速かつ適切に対応していく必要があります。今後も佐々木教授をはじめ貴講座の先生方のお力をぜひともお借りしたく存じますので、ご理解とご協力を何卒よろしくお願い申し上げます。

末筆ではございますが、今後の外科学講座の益々のご発展ならびに諸先生方の益々のご活躍とご健勝を祈念申し上げます。



岩手医科大学医学部外科学講座  
教授

**新田 浩幸**

*Hiroyuki Nitta, M.D., Ph.D.*  
Professor

## 教室の一年

2022年は相も変わらずコロナ感染症のトンネルの中にいながらも、肝胆膵外科領域ではロボット支援下肝切除術と腹腔鏡下ドナー肝切除術（外側区域）が保険収載されるなど、次世代へつなげていく新しい展開もあった年でした。また、手術症例数は昨年落ち込んだものが以前と同じくらいまで増加し、チームスタッフには忙しく働いて頂きました。

ロボット支援下肝切除術は3月頃より導入準備をすすめて6月に第一例目を施行、12月までに9例の症例を行うことができました。現時点では腹腔鏡下肝切除術と比べてメリットが少ないと言われている手術の導入であり、多くの腹腔鏡下肝切除術を行ってきた施設だからこそ、患者が不利益を被らないようにする必要がありました。我々の施設ではダビンチSiでの導入であり、ポート配置の制限やデバイスの少なさ

などをカバーするために腹腔鏡下による手術操作割合を多めにするなど、手術時間が延長しないよう配慮しました。今後はXiへの移行が予定されていますし、その先にもより進化した技術が導入されるはずです。開腹から腹腔鏡への移行が、今の腹腔鏡からロボットへの移行にかぶります。すべての腹腔鏡下手術がロボット支援下手術にとって変わるかは何とも言えませんが、今後若手外科医の多くが経験すると予想されるこの技術の扉を開いておくことが大切であると考えています。膵切除術においても遅ればせながらロボット支援下手術を導入しました。膵頭十二指腸切除術や膵癌に対する体尾部切除術は、若手肝胆膵外科医の修練のこともありこれまで多くの症例を開腹で行ってきましたが、今後は徐々にロボット支援下手術の割合を増やしていきたいと考えています。初めての肝切除術・膵切

除術がロボット支援下という時代はそう遠くないかもしれません。腹腔鏡下ドナー肝切除術が保険収載されたことは大きな変革と思います。疾患ではなく善意による健常者の肝切除術であり、体の負担を軽減し整容性にも優れているこの術式の保険収載は非常に意味のあることと考えます。しかし、開腹手術と変わらない高い安全性とグラフト肝のクオリティが求められる手術であり、より慎重に行う必要があります。

現地開催での学会や研究会が増えてきたことは嬉しいことでした。オンラインの手軽さも捨てがたいですが、対面での熱量はやはり違います。感染状況によって変わりましたが、比較的大人数での懇親会が開催されたこと、観光ができたことなど、以前は普通であったことが特別なものを感じました。2023年は通常開催も増えてくると思われますので、今から楽しみです。

働き方改革がいわれる中、対極にいるのが外科医です。特に肝胆膵外科医はどうすれば良い

のか、全国で同じように悩まれているものと思います。術後合併症はゼロにはなりませんし、合併症を減らすために手術そのものを萎縮させることもできません。スタッフが少ない状況では、頑張れば頑張るほど自らの首をしめることになります。何とか外科医を増やすように、勤務時間をずらすなどの工夫、女性医師が何とか外科医を志してくれるような環境整備と協力体制の構築、新しい技術の扉を開いておくなど、魅力ある外科学講座となるよう努めていきたいと思っています。



岩手医科大学医学部外科学講座  
准教授

**片桐 弘勝**

Hirokatsu Katagiri, M.D., Ph.D.  
Associate Professor

## 2022年の1年をふり返って

この度、2022年7月より准教授の職を拝命いたしました片桐弘勝です。巖刀会教室年報においてこのような機会をいただきましたので、ご挨拶させていただきます。

私は、2004年に北海道大学医学部を卒業し、初期研修と後期研修を札幌市で行いました。当時の後期研修では恵まれた環境の中、年800～900例の全身麻酔手術のうち年間100～150例の執刀と500例前後の助手として携わる機会をいただきました。病棟においては約70名の患者をシニアレジデント・後期研修医の4名で対応し、麻酔・腹部救急・外傷・婦人科・泌尿器科腹部手術の経験も多くさせていただくことができました。殆どの時間を病院で過ごし研鑽しましたが、医療に対する姿勢・責任を学ぶことができました。

北海道においては腹腔鏡手術の導入・普及が遅かったこともあり、腹腔鏡下手術を

中心に外科手術を学ぶために2009年に岩手医科大学外科学講座に入局しました。各グループをローテーションする中で、質の高い外科治療また様々な文化の違いも学ぶことができ、自分の基礎が築かれています。2010年には玉澤佳之先生・細井信之先生のご指導のもと研鑽し、2011年の東日本大震災においては災害医療の立ち上げに携わる貴重な経験を得ることができました。2012年から西塚哲先生のもと、基礎研究の基本・癌と遺伝子についてご指導いただき、肝臓と再生医療における基礎研究に従事し2014年に医学博士を取得することができました。元より高度侵襲手術・救急集中治療に興味深く、新田浩幸教授はじめ諸先輩方の、より高度な技術・管理を行う背中から大きく影響を受け、肝胆膵・移植チームを専攻グループとして選択することとなりました。2016年には小川雅彰先生の指

# katsu KATAGIRI

M.D., Ph.D. Associate Professor

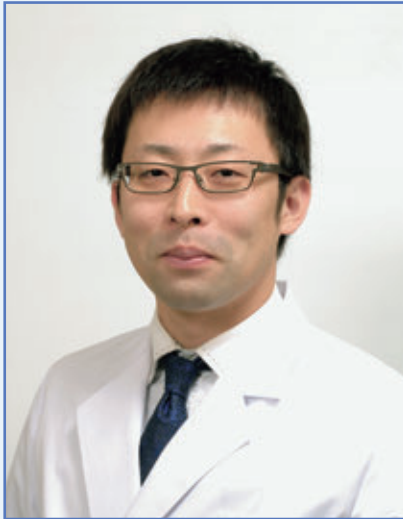
導のもと、2名で新しい環境に新しい文化を立ち上げるといふ重要な仕事に就くこともできました。2019年には肝胆膵高度技能専門医の資格を取得することができ、より手術の質を高めると共に後輩の指導を行っております。現在は肝胆膵・移植のみならず代謝・内分泌外科、ヘルニア疾患における治療にも携わることができ、学び続ける姿勢を忘れないよう肝に銘じています。今ある自分を形成するに大きく影響いただきました、佐々木章教授・新田浩幸教授はじめ諸先輩型に深く感謝申し上げます。

今後、全国的にも高齢化に伴い病気となる可能性のある人口が増え、これを支える人口が減ることは知られていますが、外科においてはさらに影響が大きく出てくることが予想されます。外科医不足は避けられない問題となることが予想され、外科組織はよりスピード感ある成熟が必須となってくるかと思えます。教育には様々な方法があるかと思えますが、可能な限りの言語化とコミュニケーションを重要視して取り組んでいきたいと思えます。

2022年度は、covid-19感染症という社会問題が継続してありましたが、当初から世界にコンセプトとしてありました“コロナウイルスとの共生”に歩み寄れた年に思えます。当チームに関しては、常時40~50名の入院患者を抱え、肝移植症例はcovid-19感染症の流行と共に減少を示しましたが前年度からの症例数を維持、他手術症例は前年度よりも増加に転じました。学会活動においても現地開催されるものが増え、当チームからも多くの演題を発表することができま

した。肝胆膵領域においては、2022年度からロボット支援下肝切除術と膵切除術が保険収載され、当チームにおいても遂に導入となった年でした。この原稿を執筆している現時点で、ロボット支援下肝切除術11症例、ロボット支援下膵切除術3症例を行っており、安全に遂行可能となっています。腹腔鏡下肝切除術の豊富な経験のもと、ロボット支援下肝臓手術においても牽引的な施設となれるよう励んでいきたいと思えます。また、ロボット支援下膵臓領域においては寧ろ導入が遅めとなりましたが、安全性・技術の向上のみならず発信していくことができるように、継続していきたいと思えます。

准教授となりました立場から、外科学講座というチーム全体の底上げが重要であると考えています。働き方改革の義務化も迫っており、自分が若い頃のように時間的な努力のみに頼ることは困難な側面があるかと思えます。諸先輩方が外科の発展に費やした時間のおかげで、自分達はより短期間に、より質の向上した医療を獲得していると感じています。岩手医科大学外科学講座を高校野球の名門校に例えると、後輩には自分が費やした時間に比べてもより早く、より上質な外科医療を獲得できるように、自分たちの世代が効率よく伝えていくことが重要であると考えます。このサイクルが成り立っていくことこそが良い伝統的なチームであり、諸先輩型が優秀なチームを形成した証となると信じています。今後とも益々のご指導ご鞭撻を頂きますよう、どうぞ宜しくお願い申し上げます。



岩手医科大学医学部外科学講座  
准教授

## 梅邑 晃

Akira Umemura, M.D., Ph.D.  
Associate Professor

## さらなる教室の発展のためにできること

この度2022年11月1日付けで、外科学講座准教授を拝命させて頂きました。今回の昇任人事に際しまして、佐々木章教授、新田浩幸教授をはじめとした医局員の先生方、そして巖刀会の先生方に改めまして御礼を申し上げます。岩手医科大学外科学講座は、多くの専門領域を網羅した大講座であり、多領域の疾患や手術手技について広く深く修練できる稀有な教室です。自分は、この豊かな土壌を保つのみならず発展させていくことが課せられた目標であると考えており、今後は様々な事象に対して自分の視点を俯瞰的にすべきか焦点を絞るべきかを的確に判断し対応していくことが肝要であると常に意識して職務を全うすべく精進致します。しかしながら、まだまだ成熟した人間であるはずもありませんので、引き続き皆様方の御指導・御鞭撻を賜りながら精進

してまいりたいと存じますので何卒宜しくお願い申し上げます。

自分は、2005年に福島県立医科大学を卒業し初めて岩手の地にまいりました。卒後4年半を岩手県立胆沢病院で外科修練医として勤務し、当時医局長でいらっしやった佐々木章教授にコンタクトを取らせて頂き手術見学の機会を頂きました。当時の自分は、内視鏡下手術にほとんど慣れておらず、画面越しに見る甲状腺、胃、大腸、肝臓の手術の全てが衝撃にも似た強い感銘を自分に与えたことを今でも鮮明に覚えております。2009年10月に入局させて頂いた後、学位研究では高度肥満症に対する減量・代謝改善手術症例の内臓脂肪が持つアディポカイン産生能について佐々木章教授に御指導を頂きました。長期出張で勤務させて頂いた関連施設の先生方に臨床・研究のみならず、



# k i r a U M E M U R A

M.D., Ph.D. Associate Professor

各専門領域の資格取得に際しても多大な御指導を頂き、この御恩に報いるべく外科学講座で勤務させて頂いております。

岩手医科大学附属病院で職責を果たす上では臨床・研究・教育の全てを両立させる必要があります、どれも疎かにできません。一方で、新型コロナウイルス感染症や働き方改革などの難しい課題にも直面しており、一朝一夕にはすべての分野で高いレベルに到達・維持していくことはできないことも承知しております。そこで、「先づ隗より始めよ」という通り、専門領域である減量・代謝改善手術に関する研究で、佐々木章教授のお力添えの下所属してくれた大学院生と学位研究を通して教育と研究を少しずつ進めていくことを始めました。これまで、二階春香先生、屋成信吾先生、高橋真人先生の学位論文が、impact factorが4点前後と高い雑誌に採択されるようになりました。現在も、3名の大学院生が研究を積極的に進めており、今後も学位研究や臨床研究を通して若手教育の裾野を少しずつ広げていきたいと考えております。

臨床では、減量・代謝改善手術、内分泌外科、ヘルニア、肝胆膵・移植外科と多岐にわた

る疾患を入院・外来で管理させて頂いており、教室の診療チームの皆様と関連病院の先生方の御協力に改めまして御礼を申し上げます。多くの手術が腹腔鏡あるいは内視鏡下での手術となっておりますが、各疾患において開腹手術、開創術は一定数存在します。そのような患者様にこそベストプラクティスが求められると存じておりますので、若手の先生方にも各領域の手術を自分の指導の下で執刀して頂き、より高いレベルで修練して頂けるよう引き続き尽力致します。また、2022年12月には、川村英伸先生と佐々木章教授の御高配を賜り第14回東北ヘルニア研究会の当番世話人をさせて頂き、新型コロナウイルス感染症の最中であつたにもかかわらず100名もの御参加を頂きました。御出席及び演題を御登録頂きました関連病院の先生方に改めまして御礼を申し上げます。

最後になりますが、今一度自分自身を見つめ直し岩手医科大学外科学講座のさらなる発展に貢献することをお誓いし、関連病院の先生方の益々のご健康と御活躍を祈念しまして1年の御挨拶とさせていただきます。

# 外科学講座スタッフ紹介 《令和5年1月1日現在》



助教  
安藤 太郎  
〔平成24年卒〕

臨床腫瘍学講座  
講師  
遠藤 史隆  
〔平成18年卒〕

講師  
八重樫 瑞典  
〔平成21年卒〕

大学院  
岩佐 友寛  
〔令和2年卒〕

助教  
天野 怜  
〔平成26年卒〕

助教  
高清水 清治  
〔平成22年卒〕

助教  
天野 総  
〔平成25年卒〕

助教  
小山 亮太  
〔平成27年卒〕

大学院  
口田 脩太  
〔令和2年卒〕

大学院  
大塚 観喜  
〔令和2年卒〕

助教  
石田 和茂  
〔平成17年卒〕

講師  
馬場 誠朗  
〔平成16年卒〕

准教授  
片桐 弘勝  
〔平成16年卒〕

准教授  
鈴木 信  
〔平成12年卒〕

教授  
佐々木 章  
〔昭和63年卒〕



大学院  
清川 真緒  
〔令和2年卒〕

専門研修医  
菅野 正紀  
〔平成29年卒〕

大学院  
伊藤 浩平  
〔平成29年卒〕

助教  
武田 大樹  
〔平成29年卒〕

助教  
菅野 将史  
〔平成16年卒〕

専門研修医  
平田 勇一郎  
〔平成27年卒〕

大学院  
琴畑 洋介  
〔令和2年卒〕

大学院  
奥津 美里  
〔平成31年卒〕

助教令和4年12月時点  
小林 めぐみ  
〔平成19年卒〕

助教  
二階 春香  
〔平成23年卒〕

教授  
新田 浩幸  
〔平成5年卒〕

緩和医療学科  
教授  
木村 祐輔  
〔平成6年卒〕

臨床腫瘍学講座  
教授  
岩谷 岳  
〔平成7年卒〕

医療安全学講座  
准教授  
秋山 有史  
〔平成11年卒〕

准教授  
梅邑 晃  
〔平成17年卒〕

病棟風景



東10階緩和ケア病棟ラウンジ



西8階一般入院病棟ラウンジ

■東側眺望サイン



■西側眺望サイン



## チーム紹介

上部消化管チーム

下部消化管チーム

肝胆膵・内分泌代謝外科チーム

乳腺チーム

小児外科チーム

高度救命救急センター

《救急・災害・総合医学講座 救急医学分野》

# チーム紹介

## 上部消化管チーム

STAFF: 馬場誠朗、秋山有史、二階春香

専門外来

食道・胃疾患  
木曜  
8時30分～17時  
(矢巾新病院)



上部消化管チームでは、食道癌・胃癌を中心に、食道・胃疾患の治療を担当しています。毎週木曜日の専門外来では、新患者さんの診察をはじめ、治療後の定期フォローアップや外来化学療法を担当しております。外来化学療法室や放射線科と連携し、癌の集学的治療を行っております。手術予定患者様には入退院サポートセンターの多職種が介入し、治療の安全性や周術期医療の質の向上に努めております。矢巾新病院での入院は、化学療法と手術治療を当科が中心となり消化管・肝臓内科や放射線科と連携して集学的な治療にあたっております。手術に際しては、定型的な手術に対してはより低侵襲な手術を追求しております。高齢者にも安全に定型的な根治手術を受けていただけるよう、リハビリテーションや栄養のサポートなどに関して周術期の取り組みを行い、術後の機能温存を重視した手術を心掛けております。大学病院特有の困難症例や高度進行癌に対する高難度手術に対しては、根治を目指してこれまでの経験や専門性を発揮して治療にあたっております。食道癌に対して胸腔鏡下手術に加えてロボット支援下食道切除術を、胃癌に対しては腹腔鏡下手術に加えてロボット支援下胃切除術を行っております。それぞれの患者さんに適した治療をともに考え、化学療法、放射線療法、手術を組み合わせ集学的治療を行うことにより治療成績の向上を目指しております。胃癌と食道癌は日本臨床腫瘍グループ (JCOG) に所属し、多施設共同臨床研究を通じて本邦の標準治療の開発に携わっております。治療に関する事はいつでもご相談をお受けいたしておりますので、是非お気軽にご連絡下さい。2022年の食道癌に対する胸腔鏡手術 (ロボット支援手術含む) の割合は78.9%、胃癌に対する腹腔鏡手術 (ロボット支援手術含む) の割合は69.0%でした。

### 2022年のニュース

- 1月▶日本食道学会食道科認定医を取得(二階春香、馬場誠朗)
- 1月▶da Vinci certificate (術者)を取得(馬場誠朗)
- 1月▶Esophageal Cancer Seminar in 北東北で、岩手医科大学における食道癌におけるニボルマブの使用経験を報告(馬場誠朗)
- 2月▶講師に昇任(馬場誠朗)
- 12月▶陸中エリア胃癌Webセミナーで、岩手医科大学におけるニボルマブ+化学療法の使用経験を報告(馬場誠朗)

## 2022年 診療・研究状況報告

- 上部チーム入院数：578名
- 上部チーム手術数：154名
- 食道癌新規入院数：60名
- 食道癌手術：19名

(胸腔鏡下・ロボット支援食道切除術：15例)

疾患	術式	症例数
食道癌	ロボット支援胸腔鏡下食道悪性腫瘍手術	11例
	胸腔鏡下食道切除術	4例
	左開胸開腹食道切除術	1例
	経裂孔の下部食道切除術	2例
他疾患	遊離空腸等	7例

《年次手術数推移》

	2020年	2021年	2022年
食道癌	12	9	19
胸腔鏡下	2	2	4
ロボット支援下	10	7	11

- 新規胃疾患入院数：169名
- 胃疾患手術数：129名

疾患	術式	症例数
胃癌	開腹胃切除術	22例
	左開胸開腹下部食道胃切除術	0例
	腹腔鏡下胃切除術	19例
	ロボット支援下胃切除術	30例
GIST	切除術	11例
その他	審査腹腔鏡、バイパス、緊急手術等	47例

《年次手術数推移》

	2020年	2021年	2022年
胃癌	100	66	71
GIST	5	7	11
計(悪性腫瘍切除数)	105	73	82

●2022年研究報告

《教室内》

- ・切除不能・再発食道癌に対する biweekly-DCF 療法の安全性評価(データ集積中)
- ・食道癌化学療法後遺残腫瘍の遺伝子プロファイリング(症例集積中)
- ・血漿中遊離変異DNA定量による食道癌モニタリングシステムの開発(解析中)
- ・食道癌治療抵抗性とNFE2L2遺伝子変異に関する検討(解析中)
- ・食道癌肉腫の成分別網羅的遺伝子解析(解析中)
- ・消化器癌の予後に関連する non-coding RNA FTXに関する検討(解析中)
- ・高齢者胃癌患者の食欲不振に対する補中益気湯の有効性および安全性に関する検討(株ツムラとの共同臨床試験、データ集積中)
- ・血漿中遊離変異DNA定量による胃癌モニタリングによる転移・再発の検証(症例集積中)
- ・食道癌化学療法中のサルコペニアの検討(データ集積中)

《臨床試験》

- ・JCOG1109「臨床病期 IB/II/III 食道癌(T4を除く)に対する術前 CF 療法/術前 DCF 療法/術前 CF-RT 療法の第 III 相比較試験」症例追跡中
- ・JCOG1213「消化管・肝胆膵原発の切除不能・再発神経内分泌癌(NEC)を対象とした エトポシド/シスプラチン(EP)療法とイリノテカン/シスプラチン(IP)療法のランダム化比較試験」症例追跡中
- ・JCOG1301C「高度リンパ節転移を有するHER2陽性胃・食道胃接合部腺癌に対する術前 trastuzumab 併用化学療法の意義に関するランダム化第II相試験」症例追跡中
- ・JCOG1314「切除不能または再発食道癌に対するCF(シスプラチン+5-FU)療法とbDCF(biweekly ドセタキセル+CF)療法のランダム化第 III 相比較試験」症例追跡中
- ・JCOG1409「臨床病期 I/II/III 食道癌(T4を除く)に対する胸腔鏡下手術と開胸手術のランダム化比較第III相試験」症例登録中
- ・JCOG1507「病理学的 Stage II/III で“vulnerable”な80歳以上の高齢者胃癌に対する開始量を減量したS-1術後補助化学療法に関するランダム化比較第III相試験」症例登録中
- ・JCOG1509「局所進行胃癌における術後補助化学療法に対する周術期化学療法の優越性を検証することを目的としたランダム化比較第III相試験」症例登録中
- ・JCOG1510「切除不能局所進行胸部食道扁平上皮癌に対

する根治的放射線療法と導入 Docetaxel+CDDP+5-FU療法後の Conversion Surgery を比較するランダム化第III相試験」症例登録中

- ・JCOG1704「高度リンパ節転移を伴う進行胃癌に対する術前 Docetaxel + Oxaliplatin + S-1 の第II相試験」症例追跡中
- ・JCOG1711「漿膜下浸潤及び漿膜浸潤を伴う進行胃癌を対象とした大網切除に対する大網温存の非劣性を検証するランダム化比較第III相試験」症例登録中
- ・JCOG1901「消化管・膵原発の切除不能進行・再発神経内分泌腫瘍に対するエベロリムス単剤療法とエベロリムス+ランレオチド併用療法のランダム化第III相試験」症例登録中
- ・JCOG1904「Clinical-T1bN0M0食道癌に対する総線量低減と予防照射の意義を検証するランダム化比較試験」症例登録中
- ・COG2013「臨床病期 I-IVA (T4を除く)胸部上中部食道扁平上皮癌に対する予防的鎖骨上リンパ節郭清省略に関するランダム化比較試験」症例登録中
- ・JACCRO GC-09「切除不能進行・再発胃癌に対するナブパクリタキセルとラムシルマブ併用療法の隔週投与法における有効性と安全性を検討する第II相試験」症例追跡中

《治験》

- ・胃腺癌及び食道胃接合部腺癌患者を対象とした術前・術後補助療法として MK-3475及び化学療法(XP又はFP)とプラセボ及び化学療法(XP又はFP)を比較する二重盲検無作為化第III相試験(MSD株式会社)：追跡中
- ・胃癌に対する術後補助化学療法における多施設共同二重盲検無作為化試験(小野薬品工業株式会社)：追跡中

《科研費獲得》

- ・「ctDNA 検査を用いた食道癌の免疫チェックポイント阻害剤の適正使用の検討」文部科学省科学研究費 若手研究(研究代表者 二階春香)

●今後の課題

- ・切除不能進行食道癌症例に対する Salvage 手術、conversion 手術の増加。
- ・高齢者に対する食道切除術のさらなる低侵襲化の探求。
- ・分子生物学的手法を用いた食道癌新規診断・治療法の開発。
- ・高度進行胃癌症例に対する腹腔鏡下胃切除の有用性の検証。
- ・胃癌化学療法に関する基礎的研究の推進。
- ・腹腔鏡下胃癌手術技術認定医の育成。
- ・胸腔鏡下食道癌手術技術認定医の育成。
- ・ロボット支援腹腔鏡下胃癌・食道癌手術プロクターの育成。

## 下部消化管チーム

STAFF: 八重樫瑞典、高清水清治  
畑中智貴

### 附属病院 (矢巾)

術後外来：月曜8時30分～16時  
新患外来 (他院・院内の紹介)：月曜13時～15時、  
火曜8時45分～11時  
外来化学療法：月曜9時～16時、水・金曜9時～13時  
ストーマ外来：千葉励子 (WOCN)、小笠原久美子 (WOCN)、  
佐藤雅恵 (WOCN) 月曜8時30分～16時、水曜8時30分～12時

### 内丸メディカル

新患外来 (他院の紹介)：月曜8時30分～12時



2022年、一番のニュースとしましては、岩手県の腹腔鏡下大腸癌手術の発展と若手育成に力を注いでおられた大塚幸喜先生が藤田医科大学の臨床教授として赴任することとなり、当大学を退職されたことかと思えます。これまで岩手に国内留学された先生方も含めて、狭き門と言われる内視鏡技術認定医(大腸)を14名も輩出されてこられました。またCOVID-19流行前までは、毎年のように遠方より手術見学に多数の医療関係者が来られるとともに、ご自身も全国を飛び回って腹腔鏡の手術指導に勤んでおられました。そんな大塚先生が医師として30年目の節目に新天地を選ばれたことを、私含めチーム全体として応援するとともに、これまで我々後輩たちを熱心にご指導いただきましたことに深く感謝申し上げます。

9月27日に下部消化管チームの元チーフでありました樋口太郎先生が逝去されました。我々の大先輩であり、心よりご冥福を申し上げます。

2022年4月から新体制となり、下部消化管グループは八重樫-高清水-畑中の専従スタッフ3名とローテーター4名の体制で診療にあたっております。1997年から大腸癌に対する腹腔鏡手術をはじめ、2022年12月までに2967例となりました。

新型コロナウイルスによる手術制限や中止の影響もあり、大腸癌の手術件数自体は若干減少しましたが、例年同様に局所進行直腸癌や肛門に近い症例が多く積極的に術前化学療法を行い腹腔鏡・ロボット手術による根治手術、さらには肛門温存手術を行っております。さらに、高齢者や全身状態不良な患者さんに対しても、麻酔科・循環器科にご協力いただき手術を行っております。また、3-6ヶ月と短期間ではありますが、ローテーターとしてチームに来てくれた全ての先生が、病棟・外来ともに縦横無尽に駆け巡って診療にあたっていただき、なんとか乗り切れた1年間だったと思っております。(若い先生たちに感謝です!!)

切除不能・再発大腸癌に対しては、全国標準外来化学療法や遺伝子パネル検査に関して患者様の立場になってわかりやすく説明し行っております。また、化学療法治療中に切除可能になった場合には積極的に手術を行っております。そのため、2022年1月に大腸癌治療のガイドラインも改定されましたが治療前の遺伝子検査を必須とし、StageIVに対する治療戦略を個々の症例に対してチーム内カンファレンスを必ず行っております。

ストーマ外来は移動もあり、現在矢巾では千葉励子、小笠原久美子、佐藤雅恵 WOC ナース (皮膚・排泄ケア認定看護師) 3名でストーマ教育を行っており、精神面からもフォローしております。

潰瘍性大腸炎や Crohn 病などの炎症性腸疾患症例に対しても、患者さんの QOL を重視した腹腔鏡下手術を消化器内科と患者情報を共有し行っております。

新体制となった2022年は本当に周りの先生方に支えられた1年でした。この場を借りて感謝申し上げます。関連の先生方におかれましては、2023年のご指導、ご鞭撻のほど何卒よろしくお願い申し上げます。

### 2022年のニュース

- 3月▶大学院修了(有吉 佑、佐々木智子)
- 4月▶大塚幸喜先生 藤田医科大学 先端ロボット・内視鏡手術学講座の臨床教授に就任のため藤田医科大学に異動
- 4月▶科研費(基盤C)獲得(八重樫瑞典)
- 5月▶内視鏡技術認定医取得(大腸)(有吉 佑、高清水清治)
- 9月▶樋口太郎先生 逝去



## 2022年 診療・研究状況報告

### ●手術数（全麻）：286例

《内訳》

疾患	術式	症例数
結腸癌(92例)	開腹	15
	腹腔鏡	77
直腸癌(72例)	開腹	11
	腹腔鏡	39
	ロボット支援下	19
	経肛門	3
大腸癌再発(3例)	開腹	0
	腹腔鏡	3
骨盤内臓全摘(3例)	開腹	3
Crohn病(6例)	開腹	2
	腹腔鏡	4
潰瘍性大腸炎/FAP(5例)	開腹	1
	腹腔鏡下大腸全摘	4
他全麻手術(ストーマ造設・閉鎖、良性手術、他科手術応援など)		105

### ●2022年研究報告

《教室内》

- ・「A novel difficulty scoring system for laparoscopic colorectal surgery for appropriate case selection according to mastery.」：岩手医誌投稿中(大学院4年 有吉佑)
- ・「Feasibility of reduction of computed tomography scans during postoperative surveillance in patients with colorectal cancer by circulating tumor DNA test using individually designed digital PCR」：岩手医誌投稿中(大学院4年 高橋智子)
- ・「ctDNA モニタリングにおける大腸癌治療効果判定基準の検証」：解析中(大学院3年 大塚観喜)
- ・「ctDNA を用いた大腸癌転移巣切除適応症例層別化に関する研究」：症例集積中(八重樫瑞典)

《他施設共同》

- ・JCOG1107試験「治癒切除不能進行大腸癌の原発巣切除における腹腔鏡下手術の有用性に関するランダム化比較第Ⅲ相試験(ENCORE Trial)」：症例集積終了
- ・JCOG2014試験「標準化学療法に不応・不耐な切除不能進行再発大腸癌患者を対象とした Trifluridine/Tipiracil 単剤療法と Bi-weekly Trifluridine/Tipiracil + Bevacizumab 併用療法のランダム化比較第Ⅲ相試験(ROBiTS)」：症例集積中
- ・「内視鏡外科手術動画のデータベース構築」：症例の追加集積開始

### ●今後の課題

▶臨床教育面

- ・ロボット支援下結腸癌手術の取り組みと後進の指導
- ・合併症予防と対策
- ・内視鏡外科学会技術認定医のさらなる育成

▶研究教育面

- ・研究計画書作成への指導
- ・大学院生への研究・学位指導

## 肝胆膵 内分泌代謝外科チーム

**STAFF:** 新田浩幸、片桐弘勝、菅野将史  
梅邑 晃、武田大樹、安藤太郎  
天野 怜

内丸メディカルセンター  
木曜/8時30分～12時30分  
(新田教授、天野助教)  
金曜/8時30分～12時30分 (菅野助教)

矢巾  
火曜/10時30分～12時30分  
(新田教授、菅野助教、梅邑准教授)  
木曜/8時30分～12時30分 (片桐准教授)  
金曜/8時30分～12時30分 (武田助教)



肝胆膵系悪性・良性疾患に対する拡大手術、内視鏡手術、化学療法、肝移植(生体・脳死)など幅広い治療選択肢をもって、患者様に最も適した治療は何かを考え診療にあたっております。特に、肝疾患に対する腹腔鏡下手術は本邦で最も症例数の多い施設の一つであり、患者にメリットの大きい手術であると確信をもって診療にあたっております。2022年はロボット支援下肝切除術が保険収載されたことにより、我々も積極的に導入・施行しました。まだまだ腹腔鏡下手術に及ばないところもありますが、技術は必ず進歩するものであり、今後の展開が楽しみでなりません。また、日本肝胆膵外科学会の高度技能専門医や日本内視鏡外科学会の技術認定を取得するため、若手外科医の執刀機会が多いことも特徴の一つです。

肝移植医療は2007年より病院全体の協力のもと積極的に行っており、生体・脳死合わせて140例を超えました。生体肝移植ドナー手術も可能な限り腹腔鏡下で行っていることから、患者の満足度も高いものとなっております。脳死肝移植施設には2011年9月に認定されました。

胆道癌や膵癌に対しては術前放射線化学療法および術後補助化学療法など、集学的治療により治療成績を向上させるべく取り組んでおります。膵癌に対しては審査腹腔鏡を行い、適切な治療方針の決定に役立てております。

## 2022年 診療・研究状況報告

●手術数：264例

●腹腔鏡下手術の割合

肝切除(肝門部胆管癌、胆嚢癌を除く)95%、膵切除4%

●2022年手術症例

《疾患別》

▶悪性

肝細胞癌	31例
転移性肝癌	34例
肝内胆管癌	10例
胆管癌	30例 (肝門部 10例、肝外 20例)
胆嚢癌	7例
乳頭部癌	6例
膵癌 (IPMC含む)	73例

▶良性

生体肝移植ドナー、pNET、IPMNなど	36例
----------------------	-----

▶その他

副腎腫瘍など	37例
--------	-----

《術式別》

脳死肝移植	0例
生体肝移植	4例
肝切除	91例 (腹腔鏡67、ロボット9)
PpPD	60例
膵体尾部切除	13例
膵全摘	2例
審査腹腔鏡	29例
胆石、胆嚢良性疾患手術	19例
肝嚢胞天蓋切除	1例
後腹膜腫瘍摘出	5例
非切除	1例
その他	39例

《年次推移》

	2020	2021	2022
肝細胞癌	38	26	31
肝内胆管癌	6	3	10
転移性肝癌	32	28	34
胆管癌	25	23	30
胆嚢癌	5	7	7
乳頭部癌	5	5	6
膵癌	33	45	73
脳死肝移植	2	0	0
生体肝移植	8	6	4

●2022年研究報告

▶腹腔鏡下肝切除術

- ・多くの施設で適応外としている腫瘍径が10cmを超える肝腫瘍に対する腹腔鏡下肝切除術の成績を報告した。
- ・安全に行うための手術手技(右葉切除における前方アプローチ、肝硬変症例におけるclamp-crushing法の手技など)を報告した。
- ・肝細胞癌、転移性肝癌に対して再肝切除術を行うことは比較的多い。そこで、再肝切除例における腹腔鏡下肝切除の有用性を検討し報告した。
- ・患者の高齢化が進んでいる中で、80歳以上の超高齢患者に対する腹腔鏡下肝切除術の安全性について検討し報告した。

▶腹腔鏡下ドナー肝切除術

- ・腹腔鏡下ドナー肝切除術は新しい術式である。当院では腹腔鏡補助下から導入し、完全腹腔鏡に移行した。

その成績を検討し報告した。

- ・腹腔鏡下ドナー肝切除術は胆道造影の手技が煩雑である。その問題を解決する手段としてICG蛍光イメージングを用いた方法を考案し報告した。
- ・腹腔鏡下手術の動作制限を克服するために、グリソン一括処理法および肝実質切離後に動門脈を確保する手

術手技を確立し報告した。

▶肝移植

- ・当院では2007年から生体肝移植を、2012年から脳死肝移植を導入し、合計143例を経験した。当院での肝移植の現況について検討し報告した。

## 内分泌代謝外科

専門外来 水曜 8時30分～12時

診療では、内分泌代謝疾患（高度肥満症、副腎、甲状腺）、一般外科・消化器外科疾患（脾臓、ヘルニア）に対する内視鏡外科手術を担当しています。主な研究課題は、2型糖尿病、非アルコール性脂肪性肝炎、閉塞性睡眠時無呼吸症候群などの肥満関連健康障害に対する減量・代謝改善手術の効果と改善機序の解明です。術式は、reduced port surgeryを中心とした腹腔鏡下手術を選択しています。

### 2022年のニュース

- 6月 ▶ 第47回日本外科系連合学会学術集会を盛岡で主催(佐々木 章)
- 10月 ▶ 第44回日本臨床栄養学会総会・第43回日本臨床栄養協会総会・第20回大連合大会を盛岡で主催(佐々木 章)
- 11月 ▶ 准教授昇任(梅邑 晃)
- 12月 ▶ 第14回東北ヘルニア研究会当番世話人(梅邑 晃)

## 2022年 診療・研究状況報告

- 入院数：183例
- 手術数：124例

《内訳》

疾患	術式	症例数
高度肥満症	腹腔鏡下スリーブ状胃切除術	20
胃食道逆流症	腹腔鏡下Nissen手術	1
副腎疾患	2孔式腹腔鏡下副腎摘出術	5
甲状腺疾患	内視鏡下甲状腺全摘術	2
	内視鏡下甲状腺片葉切除術	5
	頸部切開甲状腺片葉切除術	8
副甲状腺疾患	頸部切開副甲状腺切除術	2
腹壁癒痕ヘルニア	腹腔鏡下腹壁癒痕ヘルニア修復術	14
鼠経ヘルニア	腹腔鏡下鼠経ヘルニア修復術(両側4例)	50
	開創鼠経ヘルニア修復術	18

《年次手術数推移》

	2020年	2021年	2022年
高度肥満症	16	23	20
鼠経ヘルニア	33	55	68

### ●2022年研究報告

《教室内》

- ・腹腔鏡下スリーブ状胃切除術における口腔内・腸内細菌叢の変化：データ解析中
- ・高度肥満症患者におけるマルチオミックス解析(2022年度岩手県地域医療研究事業)：データ解析中
- ・高度肥満患者における腹腔鏡下スリーブ状胃切除術の閉塞性睡眠時無呼吸症候群に対する治療効果と2型糖

- 尿病との関連. J Diabetes Investig 2022;13(6):1073-1085.
- ・減量・代謝改善手術を施行した高度肥満患者における非アルコール性脂肪性肝炎診断のための脂肪酸同定. Biomedicines 2022;10(11):2920.
- ・腹腔鏡下スリーブ状胃切除術後の呼吸器機能改善に関する研究：Langenbecks Arch Surg 2022;407(7):2747-2754.
- ・高度肥満症合併脾内分泌腫瘍に対する減量・代謝改善手術先行の意義. Surg Case Rep 2022;8(1):125.

《全国規模》

### ▶獲得研究費

- ・高度肥満症に伴う非アルコール性脂肪性肝炎の病態解明と外科治療後の改善機序(2020-2022年度科研費基盤 研究C)：Biomedicines 2022;10(2):453.
- ・減量・代謝改善手術前後における非アルコール性脂肪性肝炎・2型糖尿病患者の脂肪酸代謝の変化(2021年度田辺三菱製薬株式会社奨学寄附金研究)(2021年度大鵬薬品奨学寄附金研究)：Biomedicines 2022;10(2):453.
- ・高度肥満患者の細菌叢変化とマルチオミックス解析による肝線維化メカニズムの探索(2022-2024年度科研費基盤 研究C)：症例集積・データ解析中
- ・慢性腎臓病合併高度肥満症患者に対する減量・代謝改善手術の意義とその改善機序に関わる研究(2022年度中外製薬研究活動支援)：症例集積・データ解析中

## 乳腺チーム

**STAFF:** 石田和茂、川岸涼子、松井雄介  
天野 総、橋元麻生、清川真緒

内丸メディカルセンター  
木曜8時30分～17時  
(新患・紹介)

矢巾附属病院  
火曜・水曜8時30分～17時  
(専門外来)



2022年の乳腺チームは、これまでチーフを務められた小松英明先生が退職され、乳腺専門医を目指す清川真緒先生が新たに加わる若い船出の年でもありました。そのような状況にも待たなして紹介患者および手術件数は前年度の1.5倍に急増し、若いチームに押し寄せる波は天野総先生はじめ、外来・手術応援に来てくださった松井雄介先生・橋元麻生先生、チームローテーションで配属された清川真緒先生・大塚観喜先生らの総力戦によってトラブルなく乗り越えることが出来ました。この場をお借りし、松井先生の不在を支えてくださった県立二戸病院の先生方、橋元先生の不在を支えてくださった県立宮古病院の先生方にも深く御礼を申し上げます。

臨床のトピックスは、乳癌手術において超音波凝固切開装置等加算が適応拡大されたことによって腋窩郭清全例に超音波凝固切開装置の使用を開始しました。他臓器癌同様、超音波凝固切開装置の優越性は研究によってバラつきがあり、自施設でもラーニングカーブと臨床成績を検証しながら成熟を目指す時期が訪れたと感じております。薬物療法では長らく新規治療薬導入のなかった周術期治療において、抗PD-L1抗体薬 (Pembrolizumab)、PARP阻害薬 (Olaparib)、CDK4/6阻害薬 (Abemacicrib)、代謝拮抗薬 (Tegafur/Gimeracil/Oteracil Potassium) が続々と適応拡大され、これまでの標準治療と予後が大きく変化した1年でもありました。柏葉匡寛先生から脈々と引き継がれてきた臨床試験は、国内臨床試験グループ (JCOG, JBCRG) 参加に加え、2023年の新規治験参加が決まっております。

しかしながら、大学病院の柱である臨床・研究・教育のうち、研究・教育は十分な活動性を示せたとは言えず、臨床業務の整理と効率化、働き方改革への順応、その結果として研究・教育の-effortを高めることが次年度の目標になると考えます。そして、今の若いチームメンバーがどの地域・施設へ赴いても臨床・研究・教育に貢献できるような、個と集団の成長を目指していきたいと考えております。

新チームのチーフの役割をいただいた石田和茂をはじめ若輩ではございますが、地に足をつけた丁寧な医療を実践してまいります。同門の先生方には一層のご指導、ご鞭撻ならびに診療連携を賜りますよう宜しくお願い申し上げます。

### 2022年のニュース

- 3月▶小松英明先生が退職、信州上田医療センター乳腺内分泌外科へ赴任
- 4月▶清川真緒先生が乳腺専門医を目指し入局

## 2022年 診療・研究状況報告

### ● 総手術件数：200例

《内訳》

術式	件数
乳房部分切除術(腋窩郭清 併施)	77例(8例)
乳房全切除術(腋窩郭清 併施)	92例(35例)
乳房全切除術+乳房再建	7例
腋窩リンパ節郭清	2例
対側リスク低減乳房切除術	7例
腫瘍摘出術(悪性)	8例
腫瘍摘出術(良性)	3例
その他	4例

### ● 2022年研究報告

- ・日本臨床腫瘍研究グループ：JCOG1017 (PRIM-BC) 「薬物療法非抵抗性 Stage IV 乳癌に対する原発巣の意義(原発巣切除なし vs あり)に関するランダム化比較試験」
- ・日本臨床腫瘍研究グループ：JCOG1204 (INSPIRE) 「再発高リスク乳癌患者の標準的フォローアップとインテンシブフォローの比較第III相試験」
- ・日本臨床腫瘍研究グループ：JCOG1505 (LORETTA trial) 「エストロゲン受容体陽性・低リスク非浸潤性乳管癌に対する非切除+内分泌療法の有用性に関する単群検証的試験」

- ・日本臨床腫瘍研究グループ：JCOG1607 (HERB TEA study)「高齢者HER2陽性進行乳癌に対するT-DM1療法とペルツズマブ+トラスツズマブ+ドセタキセル療法のランダム化比較第III相試験」
- ・日本臨床腫瘍研究グループ：JCOG1806 (AMATERAS-BC)「薬物療法により臨床的完全奏効が得られたHER2陽性原発乳癌に対する非切除療法の有用性に関する単群検証試験」
- ・JBCRG (Japan Breast Cancer Research Group)：JBCRG-M063 (EMERALD)「HER2陽性進行・再発乳癌におけるトラスツズマブ、ペルツズマブ、タキサン併用療法とトラスツズマブ、ペルツズマブ併用療法を比較検討する第III相臨床研究」
- ・NRG Oncology：NSABP B-51/RTOG 1304「ネオアジュバント化学療法前の腋窩リンパ節陽性がネオアジュバント化学療法後に病理学的陰性に転じた患者を対象

として、乳房切除後胸壁及び所属リンパ節の外部放射線治療、並びに腫瘍切除後所属リンパ節放射線治療を評価する第III相無作為化臨床試験」

- ・EMBER-4：2～5年間の術後内分泌療法による前治療歴を有する再発高リスクのER+、HER2-の早期乳癌患者を対象に、術後薬物療法としてimlunestrantと標準的な術後内分泌療法を比較する無作為化非盲検第III相試験

#### ●今後の研究課題

- ・乳腺専門医を目指す若手外科医の勧誘
- ・若手医師の乳腺専門医取得
- ・地域乳腺診療への協力と乳癌検診受診啓蒙
- ・チーム研究テーマの確立と実践
- ・年1遍以上の論文執筆

## 小児外科チーム

**STAFF:** 鈴木 信、小林めぐみ、小山亮太(4月～)  
田金 恵(10月～:北上済生会)、藤村 匠(非常勤)

一般小児外科外来

水曜全日

専門外来

第3水曜午後  
小児ストーマ・  
スキンケア外来



2022年の診療体制は、4月1日に小山亮太(平成27年群馬大卒)が群馬大学総合外科学講座から2年間の国内留学として着任し、小山、小林・鈴木の3名体制での診療となり、肝胆膵外科との合同チームから独立し、小児外科チームとして再始動しました。非常勤職については、国立埼玉病院小児外科部長の藤村匠先生(平成19年岩手医大卒)には引き続き非常勤講師として手術を担当していただき、八戸赤十字病院の有末篤弘先生にも手術のお手伝いをいただきました。

外来診療は水曜日全日に集約し、手術日を木曜日全日および第1・4土曜日午前とし、小児における外科診療の最後の砦として救急患児に24時間365日対応できる体制としております。対象疾患は、新生児から16歳未満の呼吸器(気管・肺など)・消化器(食道から肛門までの消化管・肝胆膵)・その他腹部臓器(腎臓・副腎・脾臓など)・皮膚軟部組織(皮膚・皮下組織・筋肉など)・泌尿生殖器(腎臓・尿管・膀胱・外陰部など)の疾患で、AYA世代の移行期医療にも対応しています。

手術症例はCovid-19による診療制限等の影響もあって手術総数の減少はあったものの新生児手術症例には影響なく、鼠径ヘルニア類縁疾患やその他の検査等を除く手術の約35%(39例)に内視鏡手術を行い、積極的に高難度手術に対しても適用し、2月には先天性食道閉鎖症の新生児症例に対しても北東北初の内視鏡手術を施行し、体重2000g以上の新生児に対する内視鏡手術は3例(食道閉鎖症、十二指腸閉鎖症、卵巣嚢腫)でした。

教育・研究に関しては、新たな小児外科の育成を目標に臨床実習等の卒前教育での積極的なアプローチを行っています。成果はすぐには得られませんので、継続的に続けていきたいと考えております。また、これまで行ってきた小児腫瘍の発生機序に関する分子生物学的研究や低侵襲手術に関する臨床的研究を進めていき、若手の為の研究シーズを蓄えて行きたいと考えております。

すべての患者さんとそのご家族に信頼される質の高い小児外科診療を提供できるよう、日々診療、研究、教育に励んでおります。関連の先生方には尚一層のご指導、ご鞭撻、ご支援を頂きますようお願い申し上げます。

### 2022年のニュース

- 2月▶先天性食道閉鎖症に対する胸腔鏡下根治術施行(北東北第1例目)
- 4月▶群馬大学総合外科学講座より小山亮太(平成27年群馬大卒)が任期付き助教として着任

## 2022年 診療・研究状況報告

- 総手術数：178件(うち内視鏡手術39件)
- 入院数：184名(うち小児科併診50名)

《手術症例内訳》 重複あり

疾患群	症例数
新生児疾患	24
悪性腫瘍(生検を含む)	9
鼠径ヘルニア類縁疾患	38
消化器・肝胆膵疾患	64
呼吸器疾患	14
泌尿生殖器疾患	21
全麻下検査	5
その他	25

《年次手術数推移》

	2018年	2019年	2020年	2021年	2022年
新生児	14	11	23	23	24
非新生児	191	155	182	202	154
計	205	166	205	225	178

### ● 2022年研究報告

- ・日本小児がん研究グループ(JCCG)関連臨床試験参画  
日本神経芽腫研究グループ(JNBSG)  
日本小児肝癌スタディグループ(JPLT)  
日本ウィルムス腫瘍スタディグループ(JWiTS)
- ・当院における心疾患合併新生児外科手術症例の検討(小林)
- ・2歳未満児における気膀胱下膀胱尿管新吻合術の後方視的検討(鈴木)

## 高度救命救急センター 《救急・災害・総合医学講座》 救急医学分野

STAFF：小鹿雅博・石田 馨・佐藤寿穂・外科応援医師

専門外来

24時間体制



専門外来：高度救命救急センターは院内各講座からスタッフが派遣されている複合科であり、各科医師との連携が重要です。外科学講座はじめ同門の先生方の多大なご協力に深く御礼申し上げます。我々は外科チームですが、あらゆる救急疾患、重症疾患、急性血液浄化等の窓口とも考えております。適切な専門医と連絡を取りますので、24時間いつでもどのような病態でもご相談ください。岩手医科大学代表電話（019-651-5111）から救急センター事務経由で呼び出すように命じてください。

### 2022年 診療・研究状況報告

●入院数：138例

●手術数：84例

《内訳》

疾患（内因性）	症例数
上部消化管穿孔	5例
絞扼性腸閉塞	7例
下部消化管穿孔	14例
虫垂炎	3例
急性虚血性疾患	2例
その他	26例

疾患（外因性）	症例数
管腔臓器損傷	9例
その他	3例

！	症例数
気管切開術	1例

	症例数
Open Abdominal Management	14例

●2022年研究報告

《グループ内》

- ・ Open Abdominal Management の検討
- ・ 遅延吻合と早期吻合の病態に関する検討
- ・ 絞扼性腸閉塞に対する治療と管理
- ・ 虫垂炎の治療選択と管理

◆入院患者分類

疾患	例数
顔面・頸部	2
甲状腺・上皮小体	良性 17
	悪性 3
乳腺	良性 2
	悪性 235
食道	良性 2
	悪性 188
胃・十二指腸	良性 2
	悪性 332
大腸・肛門	良性 15
	悪性 325
肝・胆・膵・脾	良性 112
	悪性 680
腸閉塞	13
虫垂炎	5
ヘルニア・腹壁・腹膜	81
副腎	9
病的肥満	78
小児	130
その他	96
入院者合計	2327

◆手術件数

	件数
全身麻酔数	1032
局所麻酔数	78
その他	39
全手術数	1149

◆関連病院手術件数

	全手術数	全身麻酔手術数	急患手術数	腹腔鏡	甲状腺癌	乳癌	肺癌	食道癌	胃癌	胆膵癌	肝癌	大腸癌
函館五稜郭病院	843	821	82	446	3	157	0	14	71	21	11	193
盛岡市立病院	748	679	76	511	4	1	0	0	27	6	15	123
盛岡赤十字病院	596	484	62	356	7	21	0	0	26	2	9	89
八戸赤十字病院	404	360	55	111	7	36	0	0	33	0	2	79
能代厚生医療センター	381	318	58	254	3	17	0	0	33	3	6	63
県立宮古病院	349	300	61	143	1	27	1	2	21	3	3	84
県立久慈病院	339	285	57	145	0	16	0	0	15	7	1	55
県立二戸病院	304	274	27	116	0	24	0	0	14	4	2	61
県立釜石病院	220	185	10	90	5	8	0	0	12	2	0	38
かつの厚生病院	197	158	31	102	3	9	0	0	17	3	0	31
北上済生会病院	195	167	22	114	0	0	0	0	6	0	0	24
県立千厩病院	163	148	25	99	0	15	0	0	5	1	4	20
県立江刺病院	31	19	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0

◆関連病院発表業績件数

	英文	和文	国際学会	全国学会	全国研究会	地方会
函館五稜郭病院	4	0	0	15	1	4
盛岡市立病院	0	0	0	3	0	1
盛岡赤十字病院	0	2	0	4	1	0
八戸赤十字病院	2	0	0	5	0	2
能代厚生医療センター	0	0	0	4	0	1
県立宮古病院	0	0	0	10	1	5
県立久慈病院	0	0	0	6	0	0
県立二戸病院	0	0	0	3	0	0
県立釜石病院	0	0	0	3	2	0
かつの厚生病院	0	0	0	1	0	1
北上済生会病院	0	0	0	0	0	0
県立千厩病院	2	2	0	4	0	0
県立江刺病院	0	0	0	1	0	0



## ◆ 外科専門医制度修練指定施設・関連施設

指定関連区分	施設名	
指定	岩手医科大学附属病院	～ 2023. 12
指定	函館五稜郭病院	～ 2023. 12
指定	盛岡赤十字病院	～ 2023. 12
指定	盛岡市立病院	～ 2024. 12
指定	岩手県立中部病院	～ 2023. 12
指定	岩手県立宮古病院	～ 2025. 12
指定	岩手県立二戸病院	～ 2024. 12
指定	岩手県立久慈病院	～ 2023. 12

指定関連区分	施設名	
指定	岩手県立釜石病院	～ 2024. 12
指定	岩手県立千厩病院	～ 2024. 12
関連	能代厚生医療センター	～ 2023. 12
関連	八戸赤十字病院	～ 2023. 12
関連	かづの厚生病院	～ 2023. 12
関連	岩手県立江刺病院	～ 2023. 12
関連	北上済生会病院	～ 2023. 12

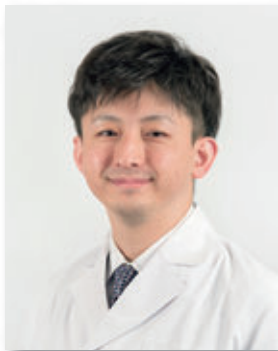
## ◆ 日本消化器外科学会専門医制度指定修練施設（認定施設）

指定関連区分	施設名	
指定	岩手医科大学附属病院	～ 2024
指定	函館五稜郭病院	～ 2023
指定	盛岡赤十字病院	～ 2024
指定	岩手県立久慈病院	～ 2024

指定関連区分	施設名	
指定	岩手県立中部病院	～ 2024
指定	盛岡市立病院	～ 2024
指定	県立二戸病院	～ 2024

外科学講座

### 小山 亮太



出身大学：群馬大学

大学卒業年：2015年

出身地：群馬県

座右の銘：学問に王道なし

岩手医科大学外科に入った理由：

小児外科准教授の鈴木信先生から小児の手術手技を含め、小児外科学全般を学ばせていただきたく、2022年4月から国内留学という形でお世話になっております。成人領域の先生方にもお世話になることも多々あるかと存じますが、何卒ご指導宜しくお願い致します。

外科学講座

### 菅野 正紀



出身大学：旭川医科大学

大学卒業年：2017年

出身地：福島県

座右の銘：質実剛健

岩手医科大学外科に入った理由：

私は関東の市中病院で専門研修を行ったあと、さらなる研鑽のために名門である岩手医科大学外科学講座で一緒に働かさせていただくこととなりました。まだまだ未熟者ですので、ご指導、ご鞭撻の程よろしくお願い申し上げます。

外科学講座

### 清川 真緒



出身大学：岩手医科大学

大学卒業年：2020年

出身地：岩手県宮古市

座右の銘：清明正直

岩手医科大学外科に入った理由：

ポリクリで手術に興味を持ったのがきっかけだが、手術だけでなく全身管理や化学療法などの内科的な治療もこなす外科の先生方の姿をみて憧れを抱いたから。

## 琴畑 洋介



出身大学：岩手医科大学 大学卒業年：2020年

出身地：岩手県 座右の銘：日進月歩

岩手医科大学外科に入った理由：

学生の実習で先生方と関わらせていただいた際、誰よりもプロフェッショナルとして患者様と向き合う姿、そして手術中でも学生だった私たちに優しく接し、教育して下さる先生方の人柄を拝見し、共に外科の道を進んで行きたいと決心しました。

知識、技術共に至らぬ点ばかりですが、ご指導ご鞭撻の程よろしくお願い致します。

## 令和4年度自治体立優良病院総務大臣表彰を受賞して

吉田 徹 (岩手県立中部病院 院長)

この度、令和4年度自治体立優良病院総務大臣表彰を受賞致しました。この表彰は、地域医療の確保に重要な役割を果たしており、かつ経営の健全性が確保されている病院に授与されるものです。健全経営の証として5年連続黒字経営と累積赤字がない病院が対象となりますので、今回の受賞は、これまで中部病院を支えて下さった職員の皆さんと歴代の院長先生の継続的努力の賜物であり、心から感謝申し上げます。

岩手県立病院は1950年にそれまで存在していた厚生連や国保連の病院をまとめて発足して今年で72年目になります。「県下にあまねく良質な医療の均てん」を理念として県内に28の県立病院が設置されました。近年の人口減少や交通網の発達を受けて各地の県立病院の役割分担と配置地域の再検討が行財政改革研究会等からも指摘されており、9医療圏の見直しや県立病院の集約化の検討が進められています。中部病院は平成21年に2つの県立病院（花巻厚生病院と北上病院）が合併して誕生した病院ですが、機能的にも経営的にも当院の事例は集約成功例であり、今後の岩手県内の病院集約化を検討するうえで大変参考になる事例と考えております。

病院再編は財源の確保や住民の理解などの乗り越えなければならぬ問題は沢山あります。しかし病院の集約化によるハイボリューム化は医療の質向上・医療安全確保の意味からも重要

であるとともに、大学からの専門医・指導医の安定派遣にも繋がります。その結果として研修医や専攻医にとっての魅力ある病院となってスタッフ確保にも繋がります。

中部医療圏は高齢化の進行が比較的ゆっくりと進んでいる北上市と県内で高齢化が最も進んでいる西和賀町と隣接しており、中部病院に求められる医療は多岐に渡りますが、今回の受賞を励みに職員全員で地域に信頼され貢献できる病院となるように努力したいと思っています。



## JACCRO 臨床試験への功績

高金 明典 (函館厚生院函館五稜郭病院 副院長)

去る2022年11月12日に経団連会館（東京大手町）において、日本がん臨床試験推進機構（JACCRO）創立20周年記念講演会・記念式典が開催され、函館五稜郭病院が創立20周年記念表彰を受けました。JACCROが計画した臨床試験に多くの症例を登録し、英文雑誌への論文掲載に貢献した上位3施設が表彰されました。1位 慈恵会相澤病院（長野）、2位 函館厚生院函館五稜郭病院（北海道）、3位 日本大学医学部付属日大板橋病院（東京）でした。ちなみに1位の相澤病院は英文論文15編の著者・共著者で、当院は14編でした。

当院外科は2006年の参加開始から現時点まで、JACCRO臨床試験だけで大腸癌 15件、胃癌 8件に参加しています。

症例登録に際し、岩手医科大学外科医局より赴任していただいた先生方にも多大なご協力をいただき、感謝ならびに御礼申し上げます。多くの症例登録ができたおかげで ASCO, ASCO-



GI, ESMOなどの国際学会や日本外科学会、日本消化器外科学会および日本癌治療学会などで試験結果を発表する機会をいただきました。また多くの英文論文に函館五稜郭病院外科の名前を載せることができました。胃癌、大腸治療

ガイドラインの引用文献として採用されている論文も多数あります。

今回の表彰を励みに、世界に向けて消化器癌治療のエビデンス構築に貢献できるよう精進する所存です。

## 始まりは県立宮古病院の外科研修から

伊藤 達朗（国民健康保険葛巻病院 院長）

2022年3月に40年務めた岩手県立病院を定年退職し、2022年11月24日に2022年度岩手県保健医療功労者表彰をいただいた。これはひとえに県立宮古病院での3年間の外科医としての研修と外科学講座や巖刀会先生方のお蔭である。この機会に県立宮古病院での卒後の研修について述べる。

私は1981年春に自治医科大学を卒業し、国家試験合格後6月1日より県立宮古病院外科で3年間の外科研修、指導を受けた。当時、自治医科大学卒業生は、卒直後より9年間は知事の命令により公立医療機関に勤務しなければならなかった。今のようにシステム化された初期臨床研修や後期研修もなく、ましてや今の奨学金養成医師のように猶予期間なども全くなかった。また、自治医科大学の知名度は非常に低く、「どこの馬の骨かわからない」卒業生は医療界から信頼性が全くない存在であった。そのような中、私を拾ってくれたのは県立宮古病院の外科であった。すでに県立宮古病院で外科医として研修していた1期生の遠藤秀彦先生からお誘いを受け、4年生と5年生の夏休みに同院外科で1週間ほど学生研修を行った。また、当時の県立宮古病院外科には同門大先輩である八重樫雄一先生、日下純男先生、八島良幸先生が勤務されており、3年間に1人なら面倒を見てもよいということがあり、私は3年間の外科研修を行うこととなった。7月には、当時第一外科学講座（現在の外科学講座）教授の森昌造先生から入局の許可をいただいた。このような寛大さ、心の広さは、当時の日本の排他的医療界からすると考えられないことであった。

県立宮古病院での外科研修は二つの点で私の医師形成に大きな影響を与え、今でも医師としての根幹をなしている。一点目は八重樫先生をはじめとする先生方からの厳しいが愛情ある薫陶を受けたことである。先生方からいただいた

心に残る言葉をいくつか紹介する。「仕事は期日や時間を守れ。」「症例報告は臨床医の義務だ。1年に最低一つは書け。」「新しいこ



とにはチャレンジしろ、遅れを取るな。」「医局生活をしていないお前は、普通に仕事をしては仕事ができないと言われる。人一倍仕事をして始めて普通にできると言われることを覚えておけ。」「リーダーは皆に見られているので、自分が部下や同僚に言っていることを自分が守れないようでは信頼が失われる。勤務以外であってもそうだ。背中を気にしろ。」などなど。二点目は多くの医局の先生方との出会いである。県立宮古病院には第一外科より1名、第三外科より1名派遣されていた。学年は上下あったが多くの先生方と共に学び、外科医について語りあい、夜を十分楽しんだ。また、大学へ手術見学に行くと森教授を始めとして助教授、講師の先生方から気さくに声をかけていただいたことである。その関係は、その後の私にとって大いに役立ち今でも続いている。

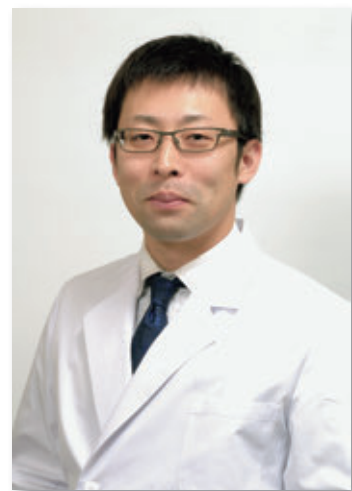
岩手県立病院で院長職15年間含め40年もの長きにわたり勤務できたことは県立宮古病院での外科研修、同門会や医局の先生方のあたたかい人の和と継続したご指導、ご支援のお蔭と思い、感謝に耐えない。第一線を退いた身ではあるが同門会の皆様の役に立つことがあれば声をかけていただきたいと思う。

## Surgery Today 第6回 Best Reviewer Awardを受賞して

梅邑 晃

この度、日本外科学会英文誌Surgery Todayの第6回 Best Reviewer Awardを受賞させて頂きました。本賞は、日本外科学会英文誌Surgery Todayに投稿された論文に対し、多く査読をした査読者に対して授与されるものです。Surgery Todayでは、減量・代謝改善手術（MS）の臨床・研究において国内でも多くの成果を挙げてこられた佐々木章教授がAssociate Editorをお務めになられており、国内外からのMSに関する投稿論文数の増加も相まって今回多くの論文を査読させて頂く機会を得ました。投稿論文は玉石混交ではありますが、示唆に富む質の高い研究報告も査読させて頂くことができ、自分とは異なる鋭い視点を持つ研究者との質疑応答を通してbrain stormingができたこと

は大変有意義でした。今回の経験を教室におけるMSの臨床・基礎研究の発展に還元できるよう今後も精進致す所存です。最後に、これまで御指導を頂きました佐々木章教授に改めまして御礼を申し上げます。



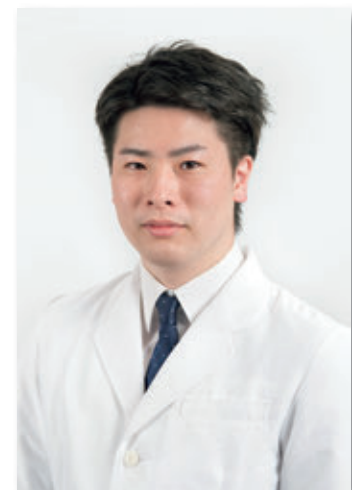
## 第122回日本外科学会 研修医優秀演題

口田 脩太

この度、2022年4月14日から16日に熊本で開催された第122回日本外科学会定期学術集会上において研修医部門の優秀演題賞を受賞しました。演題名は「初期研修医early exposureにおける細径鉗子を用いた3 port + 1 punctureによる腹腔鏡下胆嚢摘出術の教育的意義と安全性」です。函館五稜郭病院にて初期研修医が執刀した4 portの腹腔鏡下胆嚢摘出術と細径鉗子を用いた3 port + 1 punctureに

よる腹腔鏡下胆嚢摘出術の手術成績を比較しました。また、執刀までの学習のプロセスとドライラボを用いた鉗子トレーニン

グにおけるラーニングカーブの検討も行いました。受賞にあたり佐々木章教授をはじめ、函館五稜郭病院の高金明典先生、研修期間中に御指導、御協力頂いた皆様方に深謝申し上げます。まだまだ未熟者ではございますが引き続き臨床・研究に精進して参りますので、今後ともご指導ご鞭撻のほどよろしくお願いいたします。



## 第47回日本外科系連合学会学術集会 Wada Award Session Gold Prizeを受賞して

### 熊谷 秀基

この度、2022年6月15日～6月17日開催された第47回日本外科系連合学会学術集会のWada Award Session（環太平洋外科系学会日本支部会・日本外科系連合学会ジョイントセッション）で、Gold Prizeを受賞することができました。今回の日本外科系連合学会学術集会は、当教室の佐々木章教授が会長を務められた記念すべき学会であり、そのような場でWada Awardを受賞できたことを大変嬉しく思います。受賞にあたり、テーマを与えて下さり、スライド作成、発表のご指導を頂いた佐々木章教授、梅邑晃准教授には、この場をお借りして心よりお礼を申し上げます。

さて、今回は「Laparoscopic sleeve gastrectomy impacts on respiratory system in obese patients」というテーマで、発表させて頂きました。肥満症患者において、呼吸困難は一般的な症状です。健常人と肥満症患者との呼吸機能の比較はこれまでも報告がありますが、減量・代謝改善手術前後における呼吸機能改善の報告は限定的です。そこで、高度肥満症患者における腹腔鏡下スリーブ状胃切除術後の呼吸機能の改善をスパイロメトリー、CTボリュームメトリーを使用して明らかにし、その内容を発表させて頂き

ました。

腹腔鏡下スリーブ状胃切除術は、2014年4月に日本で保険収載され、国内での手術件数も年々増加してきております。腹腔鏡下スリーブ状胃切除術を含む減量・代謝改善手術は、今後ますます発展していく分野と考えます。今後も佐々木章教授、梅邑晃准教授、内視鏡外科チームの皆様にご指導賜りながら、減量・代謝改善手術の発展に寄与するような研究成果の発信を目標に、さらなる研究活動に取り組んでいきたいと考えております。



### 第47回日本外科系連合学会学術集会 Wada Award Session Silver Prize と JDDW 若手奨励賞を受賞して

#### 菊地 晃司

この度、第47回日本外科系連合学会学術集会（令和4年6月15日～17日：盛岡市）における環太平洋外科系学会日本支部会 Wada Award SessionにてWada Awardという賞、第30回日本消化器関連学会週間（令和4年10月27日～30日：福岡市）にて若手奨励賞を「ヒト肝切除におけるMuse動態の研究」に関する内容の演題で受賞しました。

Muse細胞は自発的に3胚葉性に分化する能力や自己複製能力を有する多能性幹細胞で、腫瘍性を持たない細胞と言われています。また、最大の特徴としてMuse細胞を回収してそのまま静脈へ投与するだけで損傷組織へホーミング・生着し組織特異的な細胞へ分化することが挙げられます。これらの特徴からMuse細胞の幹細胞移植治療による組織修復や機能回復が期待され、様々な研究が行われています。肝臓分野においては、片桐弘勝先生が行った先行研究にて肝切除を行った免疫不全マウスにGFPラベルされたMuse細胞を移植すると、肝組織修復過程で肝外由来のMuse細胞が損傷部位に誘導され分化を遂げることを報告しておりました。本研究は、ヒト肝臓手術におけるMuse細胞動態を明らかにし、Muse細胞と侵襲度および肝再生との関連について検証したものです。本研究の結果から、Muse細胞は肝切除容積、肝組織障害の程度に応じて動員される可能性があること、合併症による組織障害でMuse

細胞が動員される可能性がある事が判明しました。また末梢血中のMuse細胞上昇が術後の肝容積回復に関係している可能性があり、肝再生に寄与していることが示唆されました。

本研究は今後のMuse細胞研究並びに肝臓の再生医療領域の発展に寄与する

ものと期待しております。自分が行っていた研究において、学会発表でこのような賞を受賞できたことをとても嬉しく思います。この場において、研究に時間を割かなければならず、臨床面で多くのご迷惑をおかけした肝胆膵チーム、指導医の片桐弘勝先生、研究指導頂いた消化器内科肝臓分野の鈴木悠地先生、このような貴重な機会を与えて下さった佐々木章教授、新田浩幸教授に心より感謝申し上げます。



### 令和4年度圭陵会学術振興会共同研究助成を受賞して

#### 梅邑 晃

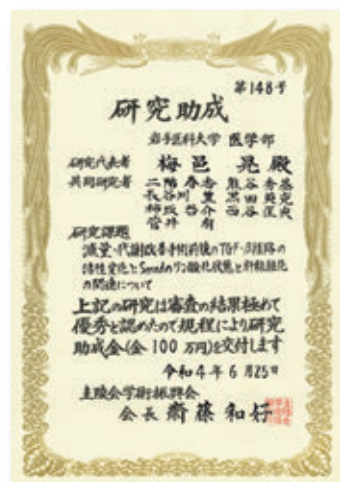
この度、令和4年度圭陵会学術振興会共同研究助成を「減量・代謝改善手術（MS）前後のTGF- $\beta$ 経路の活性化とSmadのリン酸化状態と肝線維化の関連について」という研究課題で受賞させて頂きました。高度肥満症患者に対するMSの重要な標的疾患として非アルコール性脂肪性肝炎（NASH）があり、NASHは生体内で多くのメカニズムが進展に寄与していることが動物実験などで示されています。教室では、佐々木章教授がMSによるNASHの改善効果に着目され（Sasaki A, et al. Front Endocrinol. 2014）、

これまで肝線維化の改善（Nikai H, Sasaki A, et al. Obes Surg. 2020, Nikai H, Sasaki A, et al. Surg Today. 2021）、病理組織学的変化（Kakisaka K, Sasaki A, et al. Sci Rep. 2022, Sasaki A, et al. Biomedicines. 2022）、リピドミクス解析（Takahashi N, Sasaki A, et al. Biomedicines. 2022）と多くの報告をしてきました。高度肥満症患者に合併したNASHでは肝線維化の進展をいかにコントロールできるかが将来的な発癌などに影響すると考えられており、MSによる肝線維化の改善メカニズムに迫ることが重要であると



考えるに至りました。そこで、動物実験で示されている TGF- $\beta$  経路活性化と Smad 複合体のリン酸化による肝線維化の進展が、高度肥満症患者でも重要であると考え、現在プロテオーム解析と肝生検標本を用いた免疫組織染色による TGF- $\beta$  シグナルの変化を確認することを研究として立案しました。本研究は、大学院生である熊谷秀基先生の学位研究として進めており、MSのNASHに対する治療効果を強く支持する報告として位置付けされるような journal へ投稿を考えたいと存じます。最後に、診療科横断的な研究

体制の構築に御協力頂いた先生方、研究計画書の作成に御指導を頂きました佐々木章教授に改めまして御礼を申し上げます。



## 肝臓内視鏡外科研究会 最優秀演題賞を受賞して

### 木村 拓

この度、第16回肝臓内視鏡外科研究会（2022年11月23日、福岡国際会議場）におきまして、「腹腔鏡下肝切除術における外科専攻医スコピストに対する採点式評価表の効用」という演題で、最優秀演題賞を受賞させて頂きました。

本研究会は、肝疾患に対する内視鏡下手術に関する研究、教育および普及することを目的として2006年に発足し、日本のみならず世界の腹腔鏡下肝切除をリードしてきた学会です。

本演題は、私のような若手専攻医が担う機会が多いポジションでもあるスコピストに視点を置き、自身が効果的・効率的に経験を積むことを目的として、腹腔鏡下肝切除術におけるスコピストへの採点式評価表を作成し、継続したスキル評価を試みたものです。

私自身がスコピストとして経験した腹腔鏡下肝切除術を対象とし、対象物へのアプローチ、距離感、視野の天地などの一般的な項目に加え、腹腔鏡下肝切除で重要な肝切離

ラインの映し方、肝授動の際の視野展開、腹腔内での鉗子などの器具のロストへの迅速な対応や声掛けなど画面には見えない部分での対応や配慮に関する項目も採用した評価表を作成しました。手術終了後に術者もしくは第一助手に採点・指導をして頂き、その後自身

で手術動画を見直し、反省点を意識しながら次回手術に臨むということを繰り返しました。評価開始から10例程度は点数の変化はほぼありませんでしたが、その後点数は徐々に上昇傾向となり、約20症例でほぼ満点のプラトーに達する、というラーニングカーブを形成することが分かりました。



本演題を通して、スコピスト評価表はスキル評価を行うだけでなく、感覚的であった手順や作業を言語化することで術者と共通の認識を得ることが可能となりました。当初、腹腔鏡下肝切除のスコピストに対して苦手意識を持っていた状況を何とか打破するために試行錯誤していたことがきっかけであり、私自身にとって非常に大きな経験を積むことができたと考えております。本演題を足掛かりとして、最終的には岩手医大式の腹腔鏡下肝切除スコピストマニュアルのようなものにまで昇華させていくことを目標としております。

今回の受賞にあたり、佐々木章教授、新田浩幸教授をはじめ、ご指導を頂きました先生方にこの場を借りて深く感謝申し上げます。今後とも、ご指導ご鞭撻のほど何卒宜しくお願い致します。



## 学位論文報告

### 屋成 信吾

#### 学位論文名：

Therapeutic effect of laparoscopic sleeve gastrectomy on obstructive sleep apnea and relationship of type 2 diabetes in Japanese patients with severe obesity

Shingo Yanari, Akira Sasaki, Akira Umemura, Yasushi Ishigaki, Haruka Nikai, Tsuguo Nishijima, Shigeru Sakurai

掲載雑誌：Journal of Diabetes Investigation 2022；13（6）：1073-1085.

大学院博士課程の学位論文である「Therapeutic effect of laparoscopic sleeve gastrectomy on obstructive sleep apnea and relationship of type 2 diabetes in Japanese patients with severe obesity」は、Journal of Diabetes Investigation（Impact factor:4.232）に掲載されました。

本論文では、腹腔鏡下スリーブ状胃切除術（laparoscopic sleeve gastrectomy, LSG）の閉塞性睡眠時無呼吸（obstructive sleep apnea, OSA）に対する治療効果を明らかにし、2型糖尿病（type 2 diabetes, T2D）合併高度肥満症の日本人患者に対するLSG後のOSAの改善効果と $\beta$ 細胞機能（ $\beta$ -cell function, BCF）との関連性について検討しました。

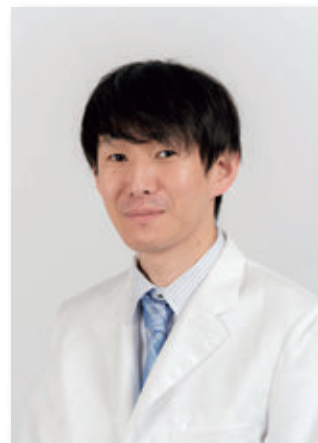
2013年9月から2019年12月までの期間に当院でLSGを施行した高度肥満症の日本人患者61名を対象とし、終夜ポリソムノグラフィー（full-night polysomnography, FN-PSG）、コーンビームCT・解析ソフト Vincent を用いた気道形態指標の測定、減量関連指標、75gOGTTを用いた代謝改善効果を初診時、術後6か月と1年に評価しました。OSAの診断には、無呼吸低呼吸指数（apnea hypopnea index, AHI）を用いました。また、FN-PSG検査の初診時AHI>15の56名、AHI<15の5名の2群に分け、減量効果、OSA改善効果および代謝改善効果について比較・検討しました。本研究では術後1年時にAHI<15をOSAの改善と定義しました。その後、初診時AHI>15のOSA患者56名の中でT2Dを罹患している

39名について、減量・代謝改善手術の術前糖尿病寛解予測スコアであるIMSスコア、ABCDスコアを用いて、術後1年のOSA改善群、非改善群を比較し、OSAとBCFの関連を検討しました。BCFの改善を評価するためにHOMA- $\beta$ 、インスリンインデックス、松田インデックス、およびディスポジションインデックスを用いました。

結果として、OSA改善率は51.8%（29/56）でした。AHIの変化は、超過体重減少率（ $\rho = 0.501$ ）、舌面積（TA）の変化（ $\rho = 0.350$ ）、および口蓋垂面積（UA）の変化（ $\rho = 0.341$ ）と有意に相関していました。多変量解析により、術前のAHIと術後のHbA1cがOSA非寛解の独立した予後因子であることが明らかになりました。AHI<15の患者のHOMA- $\beta$ （ $P < 0.001$ ）、インスリンインデックス（ $P < 0.001$ ）、およびディスポジションインデックス（ $P = 0.019$ ）は、AHI>15の患者よりも有意に高値でした。

LSGは、OSAの高度肥満症患者にとって有望な手段であることが示されました。さらに、BCFの改善は、OSA改善の患者で有意に高いことが示され、OSAとBCFの関連性について示すことができた意義のある論文と考えております。

本論文に関しまして、佐々木章教授、梅邑晃講師、二階春香助教をはじめ、ご指導ご支援頂きました皆様方に深く感謝いたします。今後ともご指導ご鞭撻のほどよろしくお願い申し上げます。



**Table 4** | Univariate and multivariate analyses of prognostic factors for obstructive sleep apnea after laparoscopic sleeve gastrectomy

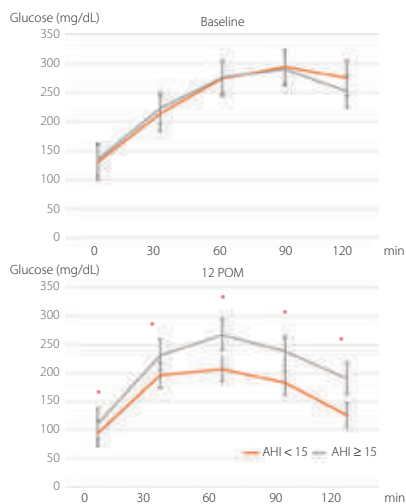
Univariate analysis				
Parameters	Improvement AHI <15 (n = 23)	Non-improvement AHI ≥15 (n = 33)	Odds ratio (95% confidence interval)	P-value
Preoperative parameters				
Male, n (%)	11 (48%)	22 (67%)	0.500 (0.148–1.693)	0.265
Age (years)	43.2 ± 11.7	49.5 ± 10.4	0.947 (0.896–1.004)	0.072*
Bodyweight (kg)	115.8 ± 22.6	120.3 ± 22.2	0.990 (0.963–1.019)	0.506
BMI (kg/m <sup>2</sup> )	41.9 ± 5.9	44.0 ± 7.8	0.975 (0.891–1.067)	0.591
HbA1c (%)	6.9 ± 1.8	7.4 ± 1.6	0.850 (0.580–1.245)	0.404
VFA (cm <sup>2</sup> )	270.3 ± 93.8	280.8 ± 81.5	0.998 (0.991–1.006)	0.659
Neck circumference (cm)	43.1 ± 4.1	44.2 ± 5.2	0.937 (0.734–1.196)	0.602
TA (cm <sup>2</sup> )	38.5 ± 4.7	40.6 ± 7.7	0.946 (0.859–1.042)	0.266
UA (cm <sup>2</sup> )	3.6 ± 0.9	3.9 ± 1.0	0.747 (0.401–1.394)	0.360
UL (cm)	4.3 ± 0.6	4.5 ± 0.6	0.541 (0.194–1.511)	0.241
PAS (mm)	13.2 ± 3.5	13.3 ± 4.5	0.990 (0.851–1.154)	0.904
AW-Et (mm)	11.4 ± 3.8	11.8 ± 4.9	1.015 (0.882–1.167)	0.837
AHI (no unit)	39.9 ± 15.1	69.9 ± 19.7	0.921 (0.880–0.964)	<0.001
Postoperative parameters (1 year after LSG)				
Bodyweight (kg)	84.8 ± 17.3	88.8 ± 15.2	0.975 (0.936–1.014)	0.211
BMI (kg/m <sup>2</sup> )	30.5 ± 4.7	32.4 ± 5.1	0.922 (0.809–1.051)	0.224
%TWL (%)	27.6 ± 7.5	24.6 ± 8.5	1.046 (0.969–1.129)	0.247
%EWL (%)	58.6 ± 16.5	53.1 ± 15.4	1.030 (0.991–1.073)	0.133
HbA1c (%)	5.4 ± 0.5	5.9 ± 0.8	0.385 (0.143–1.038)	0.059*
VFA (cm <sup>2</sup> )	138.1 ± 64.8	151.0 ± 59.4	0.996 (0.986–1.006)	0.432
Neck circumference (cm)	38.3 ± 3.3	39.7 ± 4.6	0.908 (0.733–1.124)	0.375
TA (cm <sup>2</sup> )	30.0 ± 5.5	36.4 ± 7.9	0.876 (0.792–0.969)	0.010**
UA (cm <sup>2</sup> )	2.4 ± 0.4	2.9 ± 0.7	0.2176 (0.060–0.785)	0.020**
UL (cm)	3.7 ± 0.3	4.1 ± 0.5	0.059 (0.008–0.432)	0.005**
PAS (mm)	14.0 ± 3.5	14.2 ± 5.7	0.984 (0.866–1.118)	0.808
AW-Et (mm)	12.9 ± 3.5	12.8 ± 5.1	1.003 (0.873–1.153)	0.962
Multivariate analysis				
Parameters	Odds ratio	95% Confidence interval	P-value	
AHI	0.908	0.857–0.962	0.001***	
HbA1c (postoperative)	0.202	0.044–0.934	0.041***	

AHI, apnea hypopnea index; AW-Et, airway diameter at the tip of the epiglottis; BMI, body mass index; HbA1c, hemoglobin A1c; LSG, laparoscopic sleeve gastrectomy; OSA, obstructive sleep apnea; PAS, posterior airway space; TA, tongue area; UL, uvula length; UA, uvula area; VFA, visceral fat area. \*Parameters with  $P < 0.1$  in univariate analysis. \*\*Parameters with  $P < 0.05$  in univariate analysis. \*\*\*Parameters with  $P < 0.05$  in multivariate analysis.

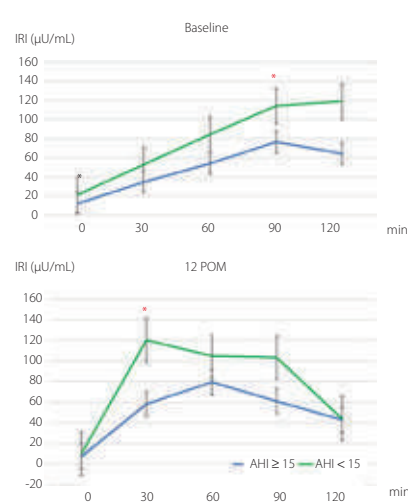
**Table 6** | Relationships between apnea hypopnea index and  $\beta$ -cell function parameters along with the individual metabolic surgery score

	AHI ≥15 IMS score	AHI <15	P-value
IMS score severe/moderate, n (type 2 diabetes remission)	20 (11)	12 (8)	0.71
HbA1c (%)	6.2 ± 0.8	6.0 ± 0.7	0.652
IRI ( $\mu$ U/mL)	7.7 ± 7.0	10.3 ± 7.9	0.343
HOMA-IR (no unit)	2.1 ± 1.9	2.4 ± 2.8	0.616
HOMA- $\beta$ (no unit)	58.3 ± 60.6	119.6 ± 77.7	<0.001*
Insulinogenic index (no unit)	0.4 ± 0.3	1.1 ± 0.4	<0.001*
Matsuda index (no unit)	5.5 ± 3.4	3.5 ± 1.6	0.058
Disposition index (no unit)	1.9 ± 1.5	3.4 ± 2.8	0.019*
IMS score mild, n (type 2 diabetes remission)	3 (3)	4 (4)	1

AHI, apnea hypopnea index; BCF,  $\beta$ -cell function; HbA1c, hemoglobin A1c; HOMA-IR, homeostasis model for assessing insulin resistance; HOMA- $\beta$ , homeostasis model assessment beta cell function; IMS, individual metabolic surgery; IRI, immunoreactive insulin. \*Parameters with  $P < 0.05$ .



**Figure 4** | Changes of glucose levels during the 75-g oral glucose tolerance test (75-g OGTT). \*Parameters with  $P < 0.05$ . AHI, apnea hypopnea index; POM, postoperative months.



**Figure 5** | Changes of immunoreactive insulin (IRI) levels during 75-g oral glucose tolerance test (75-g OGTT). \*Parameters with  $P < 0.05$ . AHI, apnea hypopnea index; POM, postoperative months.

## 橋元 麻生

学位論文名：

Expression patterns of microenvironmental factors and tenascin-C at the invasive front of stage II and III colorectal cancer: novel tumor prognostic markers

掲載雑誌：Frontiers in oncology 2021；11（690816）：1-12.

大学院博士課程の学位論文である“Expression patterns of microenvironmental factors and tenascin-C at the invasive front of stage II and III colorectal cancer: novel tumor prognostic markers”は、Frontiers in oncology（Impact factor 5.738）に掲載されました。

本研究は、進行大腸癌浸潤先進部における癌微小環境下での癌関連線維芽細胞（cancer-associated fibroblast, CAFs）や上皮間葉転換（epithelial-mesenchymal transition, EMT）などの癌関連蛋白の発現パターンの特徴を明らかにし、予後との関連性を明らかにすることを目的とした研究です。

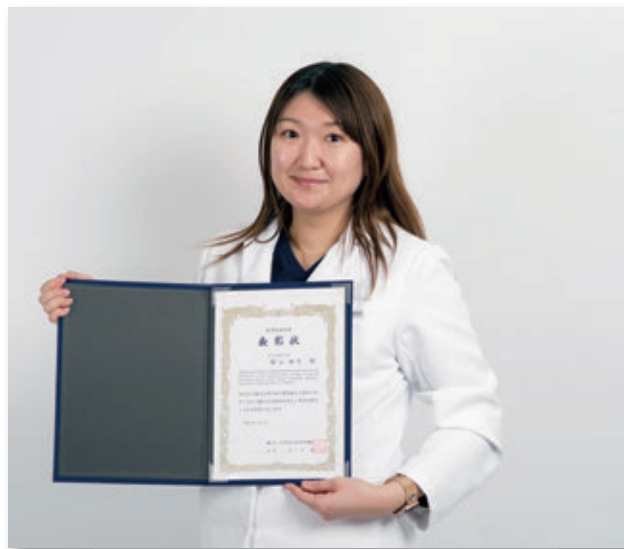
2009年1月から2015年12月までに当科で根治手術が施行された術後ステージII、III大腸癌の計296例を対象とし、ブロックランダム化法を用いて2つのコホートに分類し検討しました。ティッシュマイクロアレイを作成しCAF関連蛋白（ $\alpha$ -SMA, CD10, D2-40, S100A4, FAP, Tenascin-C, PDGFR- $\beta$ ）およびEMT関連蛋白（ZEB1, TWIST1）、癌関連蛋白（Ki-67, p53, MMP7, E-cadherin,  $\beta$ -catenin, HIF1- $\alpha$ ）の発現を免疫組織化学的に解析しました。染色性はスコア化し、階層的クラスター解析を用いて層別化解析を行っております。

結果として、染色パターンにより3つのサブグループに層別化され、サブグループ間で異時性再発の頻度に差があることが示されました。また、各マーカーを用いてコックス比例ハザードモデルに基づく多変量解析を行うと、

Tenascin-Cの過剰発現が再発予測因子として有用であることが示され、第2コホート（検証コホート）でも確認されました。

本研究結果は、階層的クラスター解析により層別化された特定のサブグループは、癌微小環境下で産生される様々なタンパク質の役割と重要性を評価できることを示唆しており、加えて、予後と相関する可能性を示したものです。さらに、進行大腸癌浸潤先進部の癌間質におけるTenascin-Cの過剰発現は、異時性再発についての独立したバイオマーカーとなる可能性を示唆しています。癌微小環境下における分子メカニズムを評価する上で新たな知見を与える結果であると考えます。

本研究から論文文化に至るまで御指導いただきました本学病理診断学講座 菅井 有 教授、上杉 憲幸 特任准教授、また臨床的御支援をいただきました藤田医科大学 総合消化器外科 先端ロボット・内視鏡手術学講座 大塚 幸喜 教授、研究の機会を与えてくださった佐々木 章 教授に深く感謝申し上げます。



巖刀会学術賞を賜りました。

## 第47回日本外科系連合学会学術集会を主宰して

佐々木 章

第47回日本外科系連合学会学術集会 会長

第47回日本外科系連合学会学術集会を2022年6月15日(水)から17日(金)に、盛岡(アイーナ)で開催しました。本学会役員、会員をはじめとした関係各位の皆様方に心より感謝申し上げます。

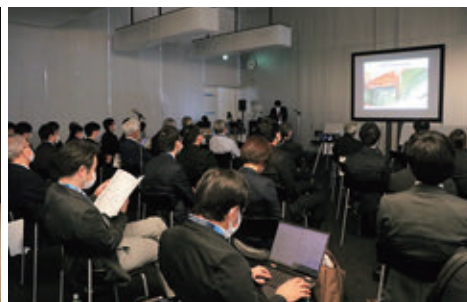
6月の盛岡のイベントとしては「チャグチャグ馬っこ」という行事があり、100頭近くの農耕馬が、盛岡市内を「チャグチャグ」と鈴の音を響かせながら行進します。学会ポスターは、「チャグチャグ馬っこ」をイメージして、各領域のチャプター委員長30名の似顔絵を入れたものです。本学会は医師のみならず多職種も一緒に参加し、共通の問題に関してチームとして議論できる外科系分野の数少ない学術集会です。今回のテーマは、「チーム医療とセレンディピティの共有」としました。外科医だけではなく、内科医、歯科医、薬剤師と看護師がチャプター委員長となり、各領域の知見を共有でき、明日からの教育、研究と診療への還元など、様々な意味を込めて決めました。

プログラムにおける日本臨床栄養代謝学会、環太平洋外科系学会日本支部会(PPSA-JC)との合同シンポジウム、日本肥満症治療学会とのスポンサードシンポジウムは、本学術集会で初めて取り入れました。また、わが国で初めて心臓移植を施行された和田壽郎先生により設立されたPPSA-JCで毎年企画されているWada award sessionも企画しました。現在コロナ禍の影響により国際学会で若手外科医が英語で発表する機会が少ないことを危惧して企画したセッションでした。1992年、私が医師になって4年目の時にトルコのアンカラで開催された第2回国際心臓胸部外科学会に故佐藤信博先生と参加しました。その時に食道アカラシアのシンポジストで参加予定の先輩が急遽キャンセルとなったことを司会の和田先生にお伝えしたところ大変ご立腹されて、あなたがプレゼンしなさいと言われ冷汗を

かいたことを思い出します。当然プレゼンの準備はしておらず、持っていた先輩の英文論文の概要を話したのですが、和田先生には先輩がキャンセルした説明や私の質疑に対してサポートいただきました。この時から毎年国際学会に参加して英語を勉強してまいりましたが、和田先生には感謝の気持ちでいっぱいです。PPSA-JCは、和田先生の熱い医学教育に対する思いがあります。日本医学の高いレベルをもっと世界に認知してもらうためには、積極的に国際学会で発表して論文をまとめる事が重要で、その足がかりとしてPPSA-JCを活用してもらうのが設立当初からの目的です。PPSA-JCは、毎年ハワイを中心とする海外で開催されてきましたが、私も和田先生のご意志を引き継ぎ、当科大学院生を積極的に参加させてきました。海外での英語発表よりも日本での英語発表は、知っている先生方の前で恥をかき若手医師がトラウマとなることもあります。今回の発表レベルは高く、著名な座長や審査員と英語で質疑応答ができる発表者も多く、コロナの影響を感じさせないことに深く感銘を受けました。

本学術集会は、新型コロナウイルスの感染減少に鑑み、現地参加とオンデマンド配信としましたが、517演題、現地参加者557名、総参加登録数881名となり、盛会のうちに終了することができました。今回は懇親会などのおもてなしができなく残念でしたが、現地参加された会員の皆様方は盛岡の夜も満喫されたようで、旬の瓶ウニ(牛乳瓶に生ういを詰めたもの)は各店で売り切れ、会場周辺の盛岡冷麺・焼肉店は連日満席でした。

これもひとえに巖刀会(同門会)の皆様方のご支援、多数の演題発表とご参加いただきました会員の皆様方のご協力の賜物と心より感謝申し上げます。



## 第44回日本臨床栄養学会総会を主宰して

佐々木 章

第44回日本臨床栄養学会総会 会長

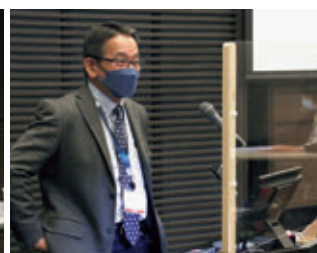
第44回日本臨床栄養学会総会・第43回日本臨床栄養協会総会・第20回大連合大会を甲南女子大学医療栄養学部医療栄養学科教授の木戸康博先生（第43回日本臨床栄養協会総会会長）とともに、2022年10月7日（金）から9日（日）に盛岡（アイーナ）で開催しました。本学会役員、会員をはじめとした関係各位の皆様方に心より感謝申し上げます。

今回のメインテーマは「未来を切り拓く臨床栄養学」、サブテーマは「臨床栄養学のリテラシー」としました。健康や臨床栄養に関する情報は、マスメディアやインターネットで容易に入手することができる時代になりましたが、玉石混合した情報が広まっています。近年の臨床現場と未来に向けて、科学的エビデンスに基づく食事・栄養療法を確立・発信していく本学会の役割は大きく、臨床栄養に関わる多職種協働を推進することにより、幅広い視点から根拠に基づいた情報の発信が可能になると考えます。本大会では、医師、管理栄養士、栄養に関わる多職種の皆様方が

各疾患において栄養学的視点から栄養学の新知見を学び、明日からの教育・研究・診療に役立ち患者に寄与できるセッションを、また日本臨床栄養代謝学会、日本病院調理師協会、日本肥満症治療学会、との合同シンポジウム、サプリメントフォーラムなども企画しました。

本学術集会は、新型コロナウイルスの感染減少に鑑み、現地参加とオンデマンド配信としましたが、215演題、現地参加者589名、総参加登録数1,003名となり、盛会のうちに終了することができました。これもひとえに巖刀会（同門会）の皆様方のご支援、多数の演題発表とご参加いただきました会員の皆様方のご協力の賜物と心より感謝申し上げます。

本大会を通じて、臨床栄養に関わる栄養士・管理栄養士、薬剤師をはじめ、多くの有識者や栄養情報担当者・サプリメントアドバイザーのご活躍に寄与することを期待し、臨床栄養学が社会貢献に資することを祈念しています。

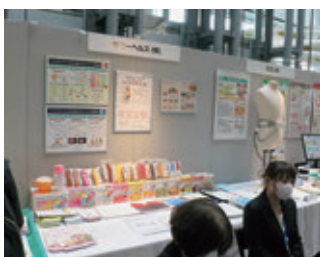
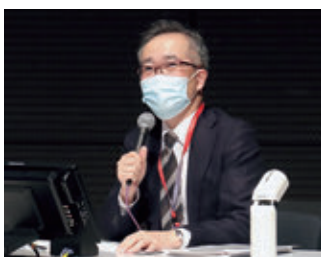


医師となった1988年の消化器外科における周術期管理は、縫合不全予防のための術前腸管内清浄と中心静脈栄養法（TPN）管理、麻酔導入時の誤嚥予防のための絶飲食管理が常識であった。卒後6年までは食道癌と食道静脈瘤で初期教育を受けたが、高侵襲手術後のTPNと早期からの経腸栄養法を試みる周術期管理が行われていた。1990年代からは、各領域で低侵襲な内視鏡外科手術がわが国に導入され、手術手技の向上と入院期間短縮から、絶食による免疫機能低下予防を目的に早期の経口摂取、抹消静脈栄養法が中心となった。その後、術後回復の促進には生体侵襲の軽減、栄養摂取と身体活動の自立が重要と考えられ、術後合併症減少、回復力強化、入院期間短縮、経費節減を目指した術後回復強化（ERAS）プログラムが提唱され、周術期管理を術後重視から術前重視で実践されるようになった。最近では、術前サルコペニアは予後不良因子である報告がなされており、消化器外科領域における術前サルコペニア評価、周術期栄養管理とリハビリ介入が手術成績向上に重要と考えられている。身体機能低下のみならず、心血管疾患や死亡のリスクの上昇、インスリン抵抗性が高まっていると考えられるサルコペニア肥満、

高齢者サルコペニア・フレイルに対する手術適応と周術期管理など、今後検討すべき課題は多くある。

教室では2008年から高度肥満症に対して減量・代謝改善手術を開始した。合併症が顕著で内科治療に抵抗性である高度肥満患者は周術期管理が重要で、フォローアップでは、メンタルヘルスマネジメント、体重再増加や栄養障害予防などに対するチーム医療が必須である。特に周術期栄養管理では、術後に体脂肪の減少を促し、減量に伴う除脂肪体重の減少を抑えるために十分な蛋白質摂取を指導する。高度肥満症では、栄養素不足を伴うリスクが高く、周術期栄養管理にフォーミュラ食を取り入れることで、タンパク質をはじめ、種々のビタミンやミネラルの確保に有用であることを実感している。

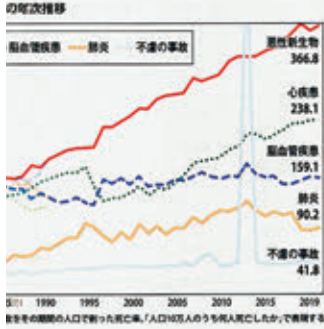
外科と栄養では、遺伝子解析のビッグデータを活用した栄養管理、AIを活用した患者の低栄養リスクの予測や健康寿命延伸への取り組みなど、今後さらに普及していくと考えられる。基礎研究の臨床応用、臨床研究を通じてのエビデンスの確立と患者利益の還元を目指して、未来のために今何をすべきかを共に考えたい。







# ず行こう 命守る検診



検診方法	対象年齢	検診期間
胸部X線検査	50歳以上	2年に1回
胃がん検診	胃がんX線検査は40歳以上に対し実施可	胃がんX線検査は毎年実施可
大腸がん検診	40歳以上	毎年
X線検査	40歳以上	毎年
大腸がん検診	40歳以上	毎年
子宮頸がん検診	20歳以上	2年に1回
子宮頸がん検診	20歳以上	2年に1回

がんはあらゆる病状の中で、罹る人が最も多く、最も死亡率が高く、本報では、すつ位の心臓病はもと、2019年は人口1万人あたり、3位の罹り率を有しています。がんの早期発見のためには、がんが早期に発見されることが重要です。がんが早期に発見されれば、治療の選択肢も増え、生存率も高まるといわれています。

日本のがん学会は、20年の全国のがん検診の受診率が、前年比で減少し、約70%の人ががん検診を受けていると推定されています。しかし、がん検診は毎年受診し、がんの早期発見につながる重要な取り組みです。がん検診はがんの早期発見につながります。がん検診はがんの早期発見につながります。がん検診はがんの早期発見につながります。

がんはあらゆる病状の中で、罹る人が最も多く、最も死亡率が高く、本報では、すつ位の心臓病はもと、2019年は人口1万人あたり、3位の罹り率を有しています。がんの早期発見のためには、がんが早期に発見されることが重要です。がんが早期に発見されれば、治療の選択肢も増え、生存率も高まるといわれています。

## 生存率高める早期発見 診断遅れ、死亡増の恐れ

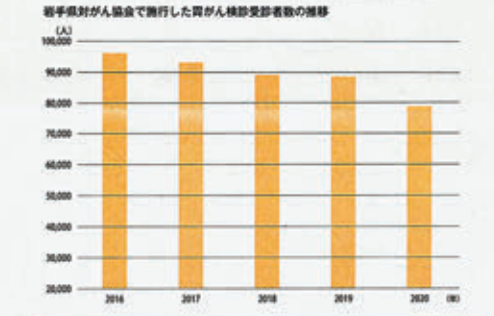
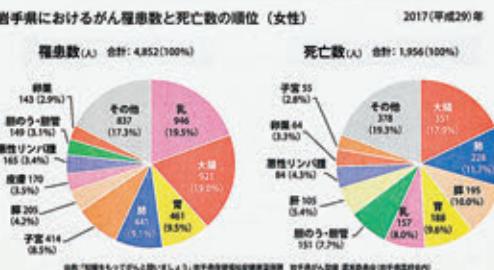
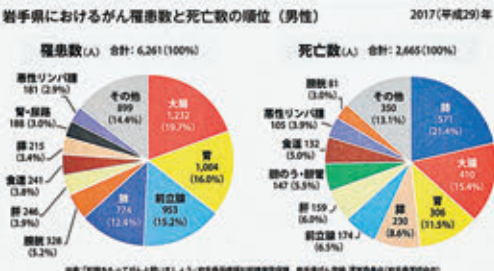
▽基調講演

### コロナでも変わらぬ習慣がん検診

講師 村上晶彦氏(岩手県対がん協会専務理事)

座長 下沖収氏(岩手医大附属内丸センター長)

第14回岩手県がんフォーラム(岩手県、岩手県がん診療連携協議会、岩手日報社主催)は昨年12月4日、盛岡市内丸の岩手日報社で、「コロナ禍におけるがん検診の必要性」をテーマに開かれました。基調講演は、岩手県対がん協会の村上晶彦専務理事が講師、岩手医大附属内丸メディカルセンターの下沖収センター長が座長を務めました。パネルディスカッションは、がん治療や検診に携わる医師や保健師が出演し、コロナ禍でも検診を控えず適切に受診する必要性を強調しました。



新型コロナウイルスの感染拡大防止のため、紙上フォーラムの形で実施しました。第14回の本フォーラムの様子は1月21日から岩手日報ホームページで動画配信します。

## おけるがん検診の現状と今後の展望

### 徐々に増加も

西塚 謙(にしづか けん) 1998年岩手医大大学院修了。米国国立衛生研究所リサーチフェロー、文部科学省学術調査官などを経て2016年岩手医大附属がんセンター専務理事に就任。2019年より同大附属がんセンターがん登録室長を兼任。

がんはあらゆる病状の中で、罹る人が最も多く、最も死亡率が高く、本報では、すつ位の心臓病はもと、2019年は人口1万人あたり、3位の罹り率を有しています。がんの早期発見のためには、がんが早期に発見されることが重要です。がんが早期に発見されれば、治療の選択肢も増え、生存率も高まるといわれています。

がん検診はがんの早期発見につながります。がん検診はがんの早期発見につながります。がん検診はがんの早期発見につながります。

### 根治治療が可能なら

日本で大腸がんの罹患率はがんの中で1位。死亡者数は肺がんに次ぐ2位。女性では1位という病気です。大腸の壁は3〜5mmの厚さで、がんは最初に表層にでき、徐々に根を深くします。これを深達度と呼びます。進行するとリンパ節に転移し、最終的に肝臓や肺など遠隔臓器に転移します。この「深達度」「リンパ節転移」「遠隔臓器転移」の三つを総合して病期(ステージ)0〜IVが決まります。そして、各ステージで「5年生存率」が変わってきます。大腸がんはステージ0〜Iの前半までの場合、主に内科的治療(内視鏡治療)を行います。この時点でがんが見つければ、ほぼ100%再発はありません。ステージIの後半からII、IIIの場合でも5年生存率は75〜95%。このステージでは、体の負担が少ない低侵襲手術の「腹腔鏡下手術」か「ロボット支援下手術」が行われることが多くなっています。

### 大塚幸喜・岩手医大附属病院がん相談支援センター長

手術後防止機能などが搭載され、腹腔鏡下手術に比べてより正確な手術が可能です。ステージIVになると残念ながら5年生存率は20%に低下します。ですから早期発見が重要なのです。海外ではコロナ禍で、大きい大腸がんが増加しているという報告があります。岩手医大附属病院でも同様の傾向がみられます。受診控えや検診控えで、がんが進行して発見されていると予想できます。単純な比較はできませんが、新型コロナウイルスで亡くなる方(2020年4月〜21年11月)より、大腸がんで亡くなる方が日平均で5倍も多いという事実を国民の皆さまに知ってほしいと思います。感染予防をしながら検診を受け、根治手術できる段階でがんを見つけてほしいと思います。また、いつもと違う体の不調があった場合、検診を待たずに病院を受診してください。

岩手県対がん協会の村上晶彦専務理事が講師、岩手医大附属内丸メディカルセンターの下沖収センター長が座長を務めました。パネルディスカッションは、がん治療や検診に携わる医師や保健師が出演し、コロナ禍でも検診を控えず適切に受診する必要性を強調しました。

# 大槌の医療支えたい

## 外科診療所開業・小笠原聡さん



周囲への感謝を胸に、古里での再スタートを切った小笠原聡さん

大槌町本町出身の外科医小名。専門は内分泌で、甲状腺  
 笠原聡さん(56)は今月、同町・副甲状腺などの臓器を中心  
 大町に町内唯一の外科の診療所に、皮膚や爪の疾患、腰や膝  
 所を開業した。東日本大震災 関節の痛みまで幅広い患者の  
 で深い傷を負った古里への思 悩みに応じる。2日の開業以  
 いが募り、50代で大きな決断 来、さまざまな症状の患者が  
 に至った。「痛みが和らぎ、 訪れている。  
 今日少しでも笑えるよう 小笠原さんは釜石南高(現  
 に」との思いで、高齢化が進 釜石高)卒業後、岩手医大に  
 む町の医療を支えていく覚悟 進学。医師になってからは各  
 だ。 地の県立病院などで勤務医生  
 活を送ってきた。

## 被災の古里思い決断 町内唯一

た。避難所に何度か足を運ん  
 だが、自分の専門性を生かせ  
 ることはほとんどなく、歯が  
 ゆさを抱えていた。2014  
 年ころから県立釜石病院の甲  
 状腺外来を週1回受け持つよ  
 うになり、沿岸部との往来が  
 始まった。

震災で町内の外科診療所は  
 1軒もなくなっていた。年齢  
 や金銭面の不安もあったが、  
 妻成美さん(53)や知人、地元  
 医師らに背中を押され、20年  
 に当時勤めていた盛岡市の孝  
 仁病院を辞め、大槌町に拠点  
 を移した。県立釜石病院の動  
 務を増やししながら、開業準備  
 を進めてきた。

両親は心待ちにしてくれて  
 いたが、父は昨年7月に急逝。  
 「周囲で応援してくれた人た  
 ちには感謝してもしきれな  
 い。痛みが完全になくなるこ  
 とは難しいが、昨日泣いてい  
 た人が今日少しでも笑えるよ  
 うにしたい」と思い描く。

診療時間は月・水、金曜日  
 は午前8時半～正午、午後1  
 時半～同5時半。木、土曜日  
 は午前8時半～正午。日曜・  
 祝日は休診。(加藤菜穂)



岩手日報 2022年2月13日掲載

# 救急と感染症対応両立

## 地域医療守り大臣表彰



表彰状を手に「地域から信頼される病院を目指す」と語る吉田徹院長

県立中部病院（北上市、吉田徹院長、434床）は、本年度の自治体立優良病院表彰（総務省主催）で総務大臣表彰を受けた。岩手中部医療圏（人口約27万人）の中核病院として、一般・救急医療と感染症医療を両立。地域医療の確保、向上に果たす役割や経営の健全性などが評価された。同医療圏の救急医療機関として緊急の手術や処置が必要な症状に対応。「救急は断ら

### 北上・県立中部病院

ない」ことを基本姿勢に、圏内外から1日当たり平均10台以上の救急車を受け入れる。がん診療の拠点でもあり、手術や化学療法、放射線治療に加え、緩和ケア病棟（24床）で終末期の患者を支える。新型コロナウイルス禍では、県内20の県立病院で最多となる延べ500人以上の軽症、中等症患者を受け入れ。自治体と連携し、県内のワクチン接種会場に医師や看護師

らを派遣したり、県内外のクラスター発生地域での感染防止指導なども積極的に行う。経営努力も評価された。使用する医薬品の1増1減を原則とし、推奨後発医薬品の採用などを通じて費用削減に取り組む。

同病院は県立花巻厚生病院と県立北上病院が統合し、2009年4月に開院した。近隣自治体でお産の取り扱いをやめる施設もあり、増加傾向の分娩数に対応できる産婦人科職員の確保が今後の大きな課題だ。

吉田院長（62）は「職員一人一人がなくてはならない存在。設備や職員など限られた資源を最大限活用して質の高い医療を提供し、地域から信頼される病院を目指す」と語る。

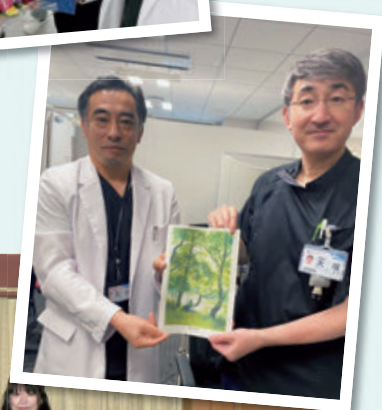
総務大臣表彰は、全国自治体病院開設者協議会長、全国自治体病院協議会長表彰（両協議会会長表彰）を過去に受け、累積欠損金がなく、過去5年以上黒字決算であることが要件。中部病院を含め、本年度は全国の4病院が選ばれ、県内では延べ19病院となった。

（村田美和）

March

3

壮行会 (2022.3.17)



June

6

巖刀会 WEB開催 (2022.6.4)



June

6

第47回日本外科系連合学会学術集会 (2022.6.15-6.17)



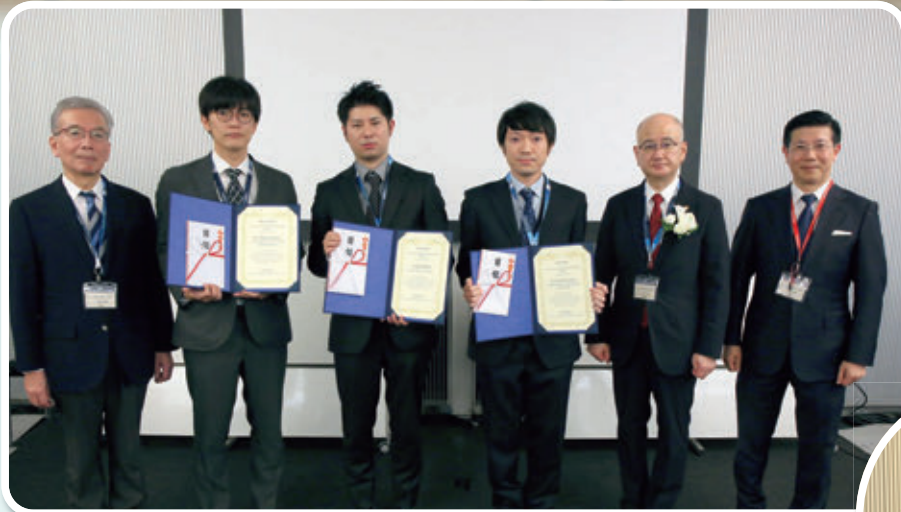
第47回 日本外科系連合学会学術集会



会場 **アイーナ**  
(いわて県民情報交流センター)

会長 **佐々木 章**  
岩手医科大学医学部外科学講座 教授

2022年  
**6/15<sup>水</sup> - 17<sup>金</sup>**  
オンデマンド配信  
**7/1<sup>金</sup> - 7/29<sup>金</sup>**



October

10

第44回日本臨床栄養学会総会・第43回日本臨床栄養協会総会  
第20回大連合会 (2022.10.7-10.9)





November

11

巖刀会 忘年会 (2022.11.26)



2022年度クリスマスイベント (2022.12.22)

December

12



December

12

小林先生送別会 (2022.12.23)



Iwate Prefectural Ninohe Hospital

### 岩手県立二戸病院

2022年度の岩手県立二戸病院の近況をご報告申し上げます。年度変わりに瀬川武紀先生が異動され、外科医師として石井勇吾先生が着任しました。他は前年度と変わらず、御供（副院長兼感染管理室長）、松井雄介先生（外科長兼災害医療科長）、佐々木教之先生（消化器外科長）の4人体制で診療にあたっております。

外来診療応援は、毎週金曜日に新田浩幸教授、毎週金曜日に木村祐輔教授（緩和ケア外来）、毎週木曜日に山田裕彦先生（高度救命センター准教授）、第1金曜日に鈴木信准教授（小児外科外来）、第3月曜日に石田和茂先生（乳腺外来）、隔週金曜日に遠藤史隆先生（臨床腫瘍科外来）にお手伝いいただいております。手術応援には毎週火曜日に武田大樹先生に来ていただいております。医局の先生方には度重なるご支援賜りまして誠に有難うございます。当科からは松井先生が毎週水曜日に大学乳腺外来応援と隔週金曜日の大学手術応援へ行っており、佐々木先生が毎週金曜日に一戸病院へ外来応援に行っております。

2022年の手術件数は全手術数304件でした（前年度361件）。全身麻酔手術数274件（314）、鏡視下手術数116件（150）、緊急手術数は27件（47）でした。前年度と比較しますと、全身麻酔手術数が40例減少しました。内訳をみますと急患、胆石等の減少が顕著でした。

当院の話題としては、今年度は病院機能評価の更新審査がありました。5月、9月に模擬サーベイヤーとして同門の伊藤達朗先生をお招きしご指導賜りました。その甲斐あって職員が意識を高めることができ、本番も無事にクリアすることができました。A評価が予想以上に多く嬉しい結果が得られました。これからも確認、改善を継続し機能維



持を図っていかれたらと思っております。もう一つは研修医の獲得についてです。当院の研修医は1学年最大5人が募集定員となっておりますが、今年度は2年次4人、1年次0人でありました。このまま研修医がいなくなるのではと危惧しておりましたが、研修担当の方々の努力のもと、来年度は5人の希望者を獲得することができました。無事国試をクリアして全員来てくれることを願っております。

院内の委員会では感染、褥瘡・NST、化学療法、クリニカルパス等、外科が委員長を務めております。感染、褥瘡・NSTに関しては、毎週ミーティングとラウンドを行っており、外科業務以外にも積極的に活動しております。

コロナに関してはどこの病院も同様と思われませんが、当院でも11月と12月に院内クラスターが発生し、入退院、手術等の診療業務が一時停止しました。早期の対応であったため長期間の機能停止に陥らなかったことが幸いでした。コロナ3年目も収束の目処がつかず、発生当初はここまで長引くとは思っていませんでした。さらに今年度はすでに圏域でインフルエンザも発生しており、同時流行も懸念されます。早く明るい世の中に戻ってほしいものです。と昨年も一昨年も同じようなことを書いている気がしますが…。

今年度も引き続き二戸市、一戸町、軽米町、九戸村、旧浄法寺町から成る「カシオペア連邦」、他に葛巻町、青森県三戸町、田子町までを含む広い医療圏の外科診療に貢献していきたいと思っております。

今後ともご指導、ご支援の程、何卒宜しくお願い申し上げます。（文責：御供真吾）

Iwate Prefectural Karumai Hospital

### 岩手県立軽米病院

医局の皆様、いつも診療応援有り難うございます。

令和4年の当院の近況報告ですが、私、葛西が佐々木教授のご高配により、4月1日付けをもちまして岩手県立軽米病院院長を拝命いたしました。これもひとえに皆様からのご支援ご厚情の賜と御礼申し上げます。

院長となって最初に取り組んだのは、昨年にも報告させていただいた、「宿日直許可」の取得でした。令和3年度は

労働基準監督署の態度も固く、「2次救急をやっている病院ですよ、うーん！」と、なかなか厳しいものでしたが、令和4年度に入って風向き変わりました。というのも厚労省の医政局・労働基準局・中央労働基準監察監督官・労働条件政策課の方々が当院にお見えになったのです。その会談では「医師の働き方改革を進めないといけない。厚労省の方も助力を惜しまないので宿日直許可を取る上で困ったことがあったら相談してください。」といった、非常に寄り添ったお話をいただきました。同時に岩手医大にもお寄りになったそうなので、岩手県の派遣元と派遣先の病院の状

況を確認されたものと思われました。すると、岩手労働基準監督署の態度が途端に変わり、とんとん拍子に宿日直許可は6月20日にいただきました。これで、当院へいらしている応援医師の皆さんは、時間外カウントの際には実労働時間だけを記載することとなります。

また、どの病院もコロナでは苦労されたと思います。当院もクラスターを2度経験しました。夏場は換気が良かったせいか2週間ほどで収束しましたが、11月のクラスターでは入院患者や看護スタッフのほとんどが感染したため、ロックダウンが1ヶ月に及びました。その際、当直医に迷惑をかけないように、感染患者さんの診察・お看取りは常勤医で行いました。この間、近隣病院には大変ご迷惑をおかけしました、有り難うございました。

さて話は変わりますが、令和4年9月には「持続可能で希望ある岩手を実現するための行財政改革に関する報告

書」が提出されましたが、そこには基幹病院の統合によるハイボリュームセンターの整備の必要性や、人口減少社会に対応した地域病院のあり方などが取り上げられました。現在の9つの保健医療圏では立ち行かなくなっていることを県も認識しているようで、疾病・事業別医療圏の再検討がなされていますし、基幹病院の合併を望む声も聞かれ始めています。なかなか県立病院単独で決めることのできる話ではないため、大学ともご相談しながら県への発信を心がけたいと思いますので、ご指導よろしくお願い申し上げます。

(文責：葛西敏史)



Iwate Prefectural Kuji Hospital

## 岩手県立久慈病院

令和4年度の久慈病院の近況報告をさせていただきます。

令和4年度は外科スタッフとして、院長 遠野千尋先生、藤井仁志、佐々木秀策先生、中村侑哉先生、藤澤良介先生、救急医学講座 皆川幸洋 救急センター長の6名で診療にあたっております。院長の遠野先生は2年ぶりの久慈復帰になっており、あつという間の再会になりました。住み慣れた久慈で院長として活躍していただいております。

外来診療には、小児外科外来に鈴木信准教授、乳腺外来に3月まで小松英明先生、4月より石田和茂先生が毎月1回の応援診療に、手術応援には、佐々木章教授、新田浩幸教授、秋山有史准教授、片桐弘勝准教授に来て頂き手術の指導をして頂きました。また6月からは週末の当直として、安藤太郎先生に毎月1回の応援に来ていただいております。医大医局からたくさん先生を派遣していただき大変感謝しております。

令和4年の手術件数は全手術件数 339件（前年度 373件）、全身麻酔下手術数 285件（312件）、鏡視下手術数 145件（171件）、緊急手術数 57件（74件）でした。今年も新型コロナウイルス感染症の影響を受け、診療体制の抑制・手術抑制があったため、昨年度に比べて手術件数は減少してしまいましたが、胃癌に対する鏡視下手術が増加しております。今後さらに低侵襲での手術提



供を目指していきたいと考えております。また2月には遠隔手術システムを用いて大塚幸喜准教授先生の指導下で腹腔鏡下大腸切除術を施行しました。盛岡から2時間以上かかる遠方の病院である当院にとっては画期的なシステムであり、今後も機会があれば活用していきたいと考えております。

今年話題としては、中村先生と藤澤先生が外科専門医を取得しました。また、当院で初期研修を行なっている嶋田拓明先生が来年度から外科学講座に入局が決まっております。若手の先生方から刺激をもらいつつ、スタッフ一同より一層の臨床のスキルアップはもちろんのこと、学術活動も行なっていければと思います。また昨年度に引き続きスタッフの体型がさらに大きくなっていく一方であり…十分に健康にも気をつけていきたいところです。

令和4年も新型コロナウイルス一色であり、感染患者の入院受け入れやワクチン接種などコロナ関連の仕事も行いながらの診療でした。その中で地域のニーズ・個々の病態に応じられるような日々の診療はもちろんそれぞれが趣味（ゴルフ、釣り、サーフィン、eスポーツ…etc）をさらに充実させて日々生活しております。まだ大変な状況は続くと思われま

すが、引き続きスタッフ一丸となって、久慈市、洋野町、野田村、普代村からなる医療圏のニーズに外科診療で貢献していきたいと思っております。

今後とも医局先生方、関連病院の先生方のご指導・ご鞭撻、ご支援の程、何卒よろしく願い申し上げます。

(文責：藤井仁志)

Morioka Japanese Red Cross Hospital

### 盛岡赤十字病院

2022年度の盛岡赤十字病院の近況を報告します。

人事としては4月から佐々木智子先生が赴任され5人体制となりましたが、10月からは川上亜希子先生が大学に転勤となり、常勤4名のスタッフで診療にあたりました。また診療応援として橋元麻生先生に外来診療を月2回、小林めぐみ先生に小児外科の手術応援として月2回来ていただきました。

手術件数は、全麻件数484件と昨年と昨年より若干減少、腹腔鏡下手術は356件で昨年とほぼ同数でした。全体の件数は減ったものの、コロナに振り回されて逆に忙しさを感じるが多かった1年でした。

2022年度一番の事件は、11月から12月にかけてコロナの猛威が襲ってきて外科スタッフ3名が立て続けに感染し



てしまったことです。唯一感染しなかった加藤先生が奮闘して何とか危機的状況を回避できました。

2023年度もコロナのこの状況は変わらないと思いますが、多忙の中でも何とかモチベーションを保って乗り切りたいと考えております。

今年在籍した常勤医

杉村好彦、大山健一、加藤久仁之、川上亜紀子、佐々木智子

Morioka Municipal Hospital

### 盛岡市立病院

令和4年度は、須藤隆之（昭和63年卒）、藤原久貴先生（平成10年卒）の常勤医師2名と令和3年4月より盛岡赤十字病院から岩崎崇文先生（平成30年卒）と令和3年10月より東京山手メディカルセンターから松尾鉄平先生（平成17年卒）の2名に長期出張頂き計4名で勤務しております。今年の最大の出来事は何と言っても11月に念願でありました、手術支援ロボット da Vinci Xiが当院に納入されました（図1）。当院は泌尿器科、呼吸器外科、産婦人科の常勤医師が居ないので消化器外科に特化したロボット支援手術の導入は全国的にも珍しいと思われます。手術支援ロボット da Vinciは、岩手医大、岩手県立胆沢病院に次いで岩手県で3台目の導入ですが、da Vinciの最新機種であるXiは岩手県に初導入であります。令和4年度我々の領域のロボット支援手術は、食道癌、胃癌、結腸癌、直腸癌、膣頭部癌、膣体部癌にて保険適応が認められております。以前より胃癌手術からの導入を目指しておりました。人的には全く問題がないのですが、保険診療上の施設基準が胃切除を年間50例以上実施しているとあり、かなり厳しい基準です。手術数増加への努力を行い、手術数の基準緩和を期待しましたが、令和4年の改訂でも緩和されませんでした。自由診療での胃癌手術は、理論的には可能ではありますが、当



図1

地の患者さんにとって自由診療は現実的な方法とは考えにくく検討中であります。結腸、直腸癌は、施設基準も年間30例と緩く、結腸、直腸癌からの導入を予定しております。ロボット支援手術開始までには、手術の見学、トレーニング、東京での講習受講、プロクターによる手術指導など様々なハードルをひとつずつクリアしなければいけませんので令和5年初めに開始できるように計画中であります。また、結腸、直腸手術開始後には、令和4年の診療報酬改訂で見送られた腹腔鏡下鼠径ヘルニア根治術（TAPP）が今後保険適応された場合など、様々な手術でロボット支援手術を導入していきたいと考えております。

令和4年の全身麻酔手術は679件と令和3年と偶然にも全く同数でありました。昨年に比べて今年は、新型コロナウイルス感染症による入院規制と手術規制の期間が長く厳しかったにも関わらず減少しなかっただけでも頑張ったと思います。

来年こそは、全麻手術700件越えを達成したいと思っております。令和4年の腹腔鏡下手術は、511件で腹腔鏡下手術率は75.3% (511/679件) でした。

昨年は、コロナ禍で学会、研究会の中止が相次ぎ学会発表はZoomによる発表1編のみでしたが、本年の学会活動は、現地開催が少しずつ可能となってきたり現地開催を含めて4件の発表を行いました。来年度も当科で行なっている臨床試験結果を順次発表し、全国に当科の学術面もアピールしていきたいと思っております。

当科の恒例行事でありましたキッズセミナーは、13回目の予定でしたがコロナ禍で3年連続中止せざるを得ませんでした。

当院は、本年度初めて臨床研修医を迎えることが出来ました(弘前大学1名、東北医科薬科大学1名)。今年のマッチングは4名(岩手医大、東北医科薬科大学、高知大学、徳島大学の各1名)のフルマッチでした。晴れて国家試験に合格し当院に迎えられることを楽しみにしております。

当科は、4人で毎日全身麻酔手術を午前中から3-4件と超多忙ですが、今後も中規模病院の機動性の良さを生かした医療、岩手医大外科の支援病院としての使命を果たしていく所存でおります。紹介患者は、待機手術、緊急手術を問わず必ず直ぐに引き受けますのでお気軽にお電話いただければ幸いです。今後ご指導よろしくお願いたします。(文責：須藤隆之)

Iwate Prefectural Kamaishi Hospital

## 岩手県立釜石病院

令和4年度 岩手県立釜石病院の診療状況を報告させていただきます。

外科スタッフは、院長 坂下伸夫先生、副院長兼外科長 箱崎将規、外科医長 木村拓先生、外科医師 小泉優香先生の常勤医4名で診療にあたりました。

外来診療は、昨年同様に一般診療は、2名体制で行い、専門外来は、毎週木曜日 甲状腺外来 小笠原聡先生、月1度の食道専門外来 臨床腫瘍科 岩谷岳先生、乳腺外来は県立中部病院から、診療応援をいただいております。

水曜日には県立大槌病院 院長 石川徹先生に、診察、手術指導いただき、医局の先生方にも、月、火、金の午後の手術応援をいただいております。

週末の当直、救急対応も応援もいただき、若手常勤医が少ない中で大変助けられております。

また、専門疾患について、各グループの先生方に手術指導や診療方針のアドバイス等ご教示いただき当院での治療につなげております。

癌化学療法、人工肛門管理、創傷処置、緩和ケア、嚥下障害、放射線治療など、認定看護師スタッフとの協力も必



要不可欠で、みんなで日常診療にあたっております。

医療クラークさんたちにも、外来診療



時の業務や診断書などさまざまな面で協力いただいております。

手術においては、コロナ禍の影響が続き、昨年よりやや減少傾向でした。手術件数210件施行し、うち全身麻酔は175件でした。緊急手術12件、鏡視下手術95件でした。大腸、胃、乳房、胆嚢、ヘルニア、虫垂、甲状腺手術が疾患の中心となっております。

木村先生には、昨年より引き続き手術を頑張っており、腹腔鏡下大腸切除や、胃切除手術の経験も増えております。腹腔鏡下ヘルニア手術も木村先生中心に取り組んでおります。

小泉先生は、大学院でのResearchを終えて、釜石で本格的な実臨床経験の開始となりました。当初は、外来や手術も不安と緊張の連続だったと思われそうですが、1年の経験を通じ手術や外科処置において上達を感じられます。

2020年から続くコロナ禍の影響も未だに続いており、今年度は病棟ロックダウンも経験しました。予定手術の延期や、入院制限を余儀なくされた中での診療を続けていく大変さを経験し、改めて地域でのコロナ診療と日常診療を同時に行う難しさを考えさせられました。

今後も地域のニーズに答えられるようにスタッフ一同で診療に臨んでいきたいと思っております。

これからもよろしくお願いいたします。(文責：箱崎将規)

Iwate Prefectural Miyako Hospital

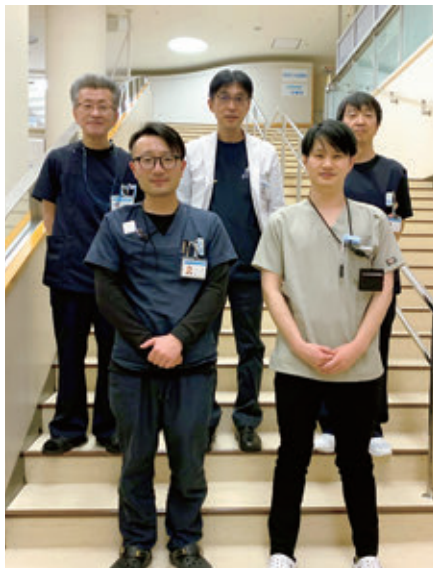
### 岩手県立宮古病院

令和4年の宮古病院の外科の近況をご報告いたします。  
私は4月から、病院長の川村英伸先生、乳腺グループの橋元麻生先生、国立国際医療研究センターの小林裕司先生と共に宮古病院へ赴任いたしました。

昨年に引き続き、新型コロナウイルス感染の影響などにより入院や手術制限が度々生じましたが、制限期間以外は外科スタッフ一丸となり概ね順調に手術症例をこなすことができました。川村院長先生には管理職業務の傍ら、ヘルニア手術を中心に我々若手外科医を直接指導して頂き、手術もこなす「闘う院長」として外科を牽引して頂きました。

当院の診療体制と致しましては、病院長の川村英伸先生、副院長の阿部薫先生（診療情報管理室長）、同じく副院長の藤社勉先生（感染管理室長兼第1外科長兼緩和医療科長）、第2外科長として瀬川武紀、橋元麻生先生（4月～9月）、小林裕司先生という6人中に新メンバー4人というフレッシュな体制で診療にあたりました。

脱線いたしますが、以前まで宮古市は盛岡から遠いイメージでしたが、宮古盛岡横断道路の完成により宮古市内から盛岡赤十字病院までは夏場であれば約1時間で到着することが出来ます。景勝地である浄土ヶ



浜の眺めは圧巻であり、プライベートでも是非宮古市に足を運んで頂きたいと存じます。

診療応援では、昨年から引き続き小児外科外来に准教授・鈴木信先生、乳腺外来に石田和茂先生、毎週水曜の外来応援に平田勇一郎先生・高橋真人先生・奥津美里先生・口田脩太先生・菅野正紀先生に応援を頂きました。また、今年度から毎週火曜の救急対応に安藤太郎先生、橋元先生が転勤された10月以降の当直応援に岩佐友寛先生・清川真緒先生に応援を頂きました。5月には教授・新田浩幸先生に手術応援を頂き、腹腔鏡下肝切除術を執刀して頂きました。

手術件数に関しては全身麻酔手術が297件と昨年より約30件程度増加しております。こちらに関しては、今年度上半期の6カ月間、橋元先生に応援を頂いたこと、国立国際

医療研究センターから今年赴任した小林先生が6ヶ月→1年間へと応援期間を延長して頂いたことにより外科スタッフの人数が増加したことが影響していると考えられます。

最後ではございますが、当院での日常診療が円滑に進められたのも、医局の先生方の診療応援・人事調整の賜物であり、この場を借りて厚く御礼申し上げます。今後も引き続きご指導・ご支援のほど、何卒よろしくお願い申し上げます。

(文責：瀬川武紀)

Kitakami Saiseikai Hospital

### 北上済生会病院

令和4年度の北上済生会病院のご報告をいたします。

今年度当院は長年済生会病院で孤軍奮闘していた細井信之先生に加え、10月から育休明けの田金恵が着任し常勤2人体制での診療を行ってまいりました。とはいえ急患や時間外対応は細井先生が変わらず対応している状況であり、出張応援で来ていただいている先生や他科の先生方のお力あつての対応となります。

外来応援には鈴木信先生（小児外科）、石黒保直先生、小林めぐみ先生、高橋真人先生、川上亜紀子先生、大塚観喜先

生、清川真緒先生にお越しいただきました。手術応援には鈴木先生、石黒先生、鴻巣正史先生、塩井義裕先生、小林先生、中村聖華先生、奥津美里先生に来ていただきました。また、金曜日の病院当直に関しましては隔週で大学病院より派遣をいただき病院としても大変助けられております。

新病院開設より3年経ち、今年の手術件数は190件、うち鏡視下手術103件、緊急手術22件でした。大学および各関連病院よりお越しいただいている先生方のお力で今年も数多くの手術件数をこなしてまいりました。先生方には、田金の初執刀の症例からご指導いただき心より感謝申し上げます。当院でもコロナ禍の影響を受けて救急外来や入院制限があったりとまだまだ厳しい状況は続いておりますが、終

息した際には是非ご指導いただいた先生方と御礼の一杯を酌み交わしたいと思っております。

当院では2023年度も引き続きスタッフ一同診療に臨んでいきたいと思っております。今後とも医局のおよび関連病院の先生方にはご指導ご支援の程、何卒よろしくお願い申し上げます。

(文責：田金 恵)



Iwate Prefectural Senmaya Hospital

## 岩手県立千厩病院

2022年4月から、遠野千尋院長から佐藤一院長に、熊谷秀基先生から川島到真先生に交代となり、佐藤（平成2年卒）塩井（平成13卒）川島（平成26卒）の3人体制でスタートしました。

2022年の当院の全手術件数は、全身麻酔手術件数が148件（昨年207件、29%減）、腹腔鏡下手術件数は100件（昨年135件、26%減）でした。腹腔鏡下手術率は67.5%と昨年（65%）よりやや高い割合でした。この手術件数の減少は、新型コロナウイルス感染症の猛威により、3月・12月は院内クラスター発生のため手術室がほぼ稼働できなかったことによります。ですが、結果的には2年前（151件）とほぼ同数の全身麻酔手術件数は確保できました。2022年は手術の質の向上にフォーカスし、イレウスやバイパス手術、胃癌、食道裂孔ヘルニアなどに対して腹腔鏡下手術を行いました。胃癌は昨年に引き続いて肥田教授にご指導いただき、腹腔鏡下胃切除術（LADG、 $\delta$ 吻合）の症例を蓄積し、また噴門側胃切除術の観音開き法もご指導いただきました。

また、私はおかげさまで日本内視鏡外科学会技術認定医



※写真は、佐藤一院長先生、松谷英樹先生、塩井義裕、川島到真先生の4人です。

（ヘルニア領域）を取得させていただきました。6年前からTAPPを一からご指導いただきました細井信之先生はじめ、カメラ助手として二人三脚で試行錯誤しながら駆け抜けた熊谷秀基先生、花巻温泉病院時代に多くの患者さんをご紹介いただきました佐々木盛光先生、TAPPの手術指導をいただきました大山健一先生、花巻医師会及び一関市医師会の多くの先生方のご協力をいただきまして取得できましたこと、深く感謝申し上げます。当院のTAPPは質を保ったまま川島到真先生に引き継いで執刀していただき、腹腔鏡手術の技術向上に励んで頂いております。

学術面では、熊谷秀基先生が当院の症例で英語論文を2編（原著1編 Journal of Rural Medicine、症例報告1編 Surgical Case Reports）を発表し、伊藤浩平先生が佐々木章教授のご指導のもと当院の症例で和文論文を1編（岩手医学雑誌）、私が和文論文を1編（日本内視鏡外科学会雑誌）を発表しました。川島到真先生も内視鏡外科手術に関する英文論文を執筆中です。

2022年は新型コロナウイルス感染症が2021年以上に猛威を振るい、新たな変異株の出現もあり大変な状況でしたが、当院では佐藤一院長がコロナ対策・制御をして下さりました。

岩手医科大学からは、佐々木章教授に川島到真先生の手術指導をしていただきました。新田浩幸教授にはPpPDおよび肝切除などを計6回執刀していただきました。大塚幸喜准教授には腹腔鏡下結腸切除術を執刀していただき、最終手術指導をいただきました。また、診療応援いただきました下沖収教授、西塚哲教授、西成尚人院長先生、小原真院長先生、細井信之先生、松谷英樹先生、藤井大和先生、大学の若手の先生方には大変お世話になりました。

2023年は兎年、岩手医科大学外科学講座と岩手県立千厩病院・総合診療外科がさらなる飛躍ができるよう頑張りますので今後ともご指導ご支援をよろしくお願いいたします。

(文責：塩井義裕)

Iwate Prefectural Esashi Hospital

## 岩手県立江刺病院

2022（令和4）年度の当院の外科の体制は、前任の伊藤千絵先生が開業されることもあり、4月から私、石黒が赴任したものの、川村秀司院長も含めた2名体制は今までと同様です。川村院長は、院長的な管理業務に加えて、入院も含めた新型コロナ診療や訪問診療など地域に必要とされる医療を一手に引き受けておられます。自ら始められたアクアariumの管理も行っています。隣の県立胆沢や総合水沢の外科医の人数をみないようにして、当院でも手術も細々と行っているの、外科っぽい外来・病棟業務がありますが、北上済生会への診療応援で私が不在の折には急変対応など院長にお願いせざるをえないこともあり、もどかしい思いでした。診療で関わる江刺の住人の印象は、いままで勤務した沿岸の住人よりも10歳くらい高齢なのに元気、というところでした（個人の感想です）。

外来の診療応援には、火曜日に県立紫波診療センターから松尾力先生、水曜日に県立中部病院の吉田徹院長（いずれも隔週）、金曜日に医大から肥田圭介教授（毎週）にきていただいております。手術については、北上済生会病院の細井信之先生の他、木曜の午後から医大医局の若手外科医（12月までのところ、奥津美里先生、琴畑洋介先生、菅野正紀先生、川上亜紀子先生、高橋眞人先生ほか）にきていただいております。世代間ギャ



ップを感じながらもよい刺激をいただいております。また、手術以外にも当直で多くの若手外科医（順不同で、岩佐友寛先生、伊藤浩平先生、熊谷秀基先生、口田脩太先生、大塚観喜先生、平田勇一郎先生、畑中智貴先生など、抜けがあったらすみません！）や中村聖華先生にも来ていただいております、大学や医局との接点という観点からもありがたく思っております。

新型コロナウイルス感染症もなかなかおさまらず、江刺でも入院患者で陽性者がでたり、家族や自分が罹患したりなど落ち着かない日々です。せっかく同門会が開催されても常勤医師の少ない小さい病院の管理側であるという立場も含めて大人数の会合には出席しにくい状況が続いております。そろそろ世の中の対応が変わる方向性にならないと、外科だけでなく医療全体の維持がむずかしいのではないか、岩手はそれほど医療的な余力があるとはお世辞にも思えないので、心配はつきないところです。また、この感染症のせいでさまざまな交流が減少しています。実は雑談ってとても大事だったんじゃないかなと思いつつ、近いうちに巖刀会をはじめとした交流が心配なく再開できることを祈念しております。（文責：石黒保直）

Hakodate Goryoukaku Hospital

## 函館五稜郭病院

函館五稜郭病院外科の近況をご報告いたします。

2022年は、高金 明典先生（副院長）、小林 慎先生（診療部長）、早川 善郎先生（北美原クリニック院長）、木村 仁先生（主任医長）、船渡 治先生（科長）、米澤 仁志先生（主任医長）、木村 聡元先生（主任医長）、千葉 丈広（主任医長）、河野 剛先生（元主任医長）、佐藤 慧先生、川岸 涼子先生、及能 拓郎先生、吉田 瑛司先生、村松 里沙先生、近藤 裕太先生の計15名の医師で外科診療にあたりました。しかし、後述する札幌医大出身の先生方4名の異動があり、2022年12月現在の当院外科医（常勤）は12名となります。

木村（仁）先生は平成6年札幌医大卒で、10月から東札幌病院より赴任されました。初めは船渡科長よりも卒年で一つ上の先生が来ると少しざわつきましたが、気さくで優しい先生で安心しました。出身高校が函館ラ・サールとのことですので、久しぶりに函館での生活を楽しんでいただけたらと思っております。

河野先生（平成19年札幌医大卒）は2019年に私と同時期に当院に赴任されましたが、3月に市立室蘭総合病院へ転勤となっていました。手術の難易度に関わらず、早くて無駄のな



い洗練された素晴らしい手技を見せていただきました。どこの病院に行ってもそつなくこなす優秀な先生だと思います。

村松先生（平成30年札幌医大卒）は4月より札幌医大から当院に異動となりました。卒後5年目でバリバリ手術をこなす、誰にも負けないスピード感を持っていて頼もしい存在です。当院の多くの症例を経験してレベルアップできるのは間違いありません。お酒が大好きでたまに遅刻することもあります。押さえるところをしっかりと押さえておりますので、これからの外科医としての成長が楽しみです。

近藤先生（令和2年札幌医大卒）は初期研修終了後、卒後3年目の医師として当院に派遣されましたが、半年間の勤務で札幌医大に帰局することとなってしまいました。短い期間でしたが、またいつか当院に赴任した時には成長している姿が見られることでしょう。

さて2022年も新型コロナウイルス（以下、コロナ）に振り回されました。当院では1月から早速、職員の新型コロナウイル





ス感染（以下、コロナ感染）が確認され、2月に院内クラスターが発生しました。当科医師も感染し、手術制限も余儀なくされました。3月上旬に院内クラスターは一時終息となりましたが、3月下旬には函館市内において感染が拡大し、まもなく4月に外科病棟でクラスターが発生してしまいました。5月の連休明けにようやく終息したと思った矢先、同月下旬に再度院内クラスター発生…。その後、7月からは毎月のように院内クラスターの発生と終息を繰り返し、8月は当科でも複数医師に感染拡大しました。この原稿を書き始めた12月現在においてもコロナ感染者が後を絶たず、患者および医療従事者の感染・濃厚接触者の増加による休職が相次ぎ、病床が逼迫しております。こうして1年を振り返ると年がら年中コロナと闘い、まさにウィズコロナ時代と言うに相応しい1年であったと思います。

2022年の当院外科手術のご報告ですが、全手術件数は1122件で内訳は全麻852件、腰麻10件、局麻260件でした。全手術件数は激減した2021年より持ち直しましたが、コロナ禍前に比べると症例数は減少傾向です。全麻件数は前年よりも100件弱減少し、コロナの影響で、内科受診や検査・手術制限によるものと考えられました。一方、手術件数が前年より増えた理由は局麻手術によるもので、主に他科依頼を含めたCVポート造設件数が増加したことでした。2022年の手術件数ランキング1位は吉田先生（116件）、2位は木村（聡）先生（106件）、3位は私（105件）、4位は村松先生（104件）でした。全麻手術件数の1位は私（95件）、2位は木村（聡）先生（91件）、3位は佐藤（慧）先生（75件）でした。因みに私の緊急手術件数は村松先生と並んで最も多く、まだまだ頑張れるかなと思いました。2023年はコロナ関連の制限を受けずにさらに多くの外科手術で、患者さんに必要な医療が提供できることを願い、また道南医療圏の外科診療に貢献していきたいと思います。

前述した異動の先生を除く先生方につきまして、高金先生は変わらずお元気で副院長の職務や各種委員会などでお忙しい中、胃癌手術に精力を注ぎ、ロボット支援手術（以下、ロボット手術）を含む年間48例の胃癌関連手術を執刀されました。また臨床試験にも多数の症例を登録され、11月にJACCRO創立20周年記念式典においてJACCRO臨床試験へ多数の症例を登録された功績として表彰されました。小林先生はコロナ禍においても救急医療および当院集中治療センターで大変な業務を日々送られておりますが、そんな多忙にも関わらず英文論文を投稿・掲載され、着実に業績を残されております。船渡先生は肝胆膵領域の手術において肝胆膵外科高度技能指導医として主に困難症例を中心に担当いただいております。ご家族がコロナに感染してしまいましたが、船渡先生は強靱な肉体と免疫能（？）により感染することなく2022年を乗り切りました。米澤先生は第3子が誕生し、子育てに奮闘している模様です。担当されている乳腺疾患の症例数も多いですが、他疾患も幅

広く手術されております。また、様々なジャンルにおいて知識が豊富で生き字引的存在です。木村（聡）先生は、何と言っても当院の大腸疾患に対するロボット手術を行うスペシャリストです。2022年は結腸癌に対してもロボットを導入され、年間45例のロボット手術を執刀されました。5月にご家族からのコロナ感染もあり大変な時期もあったと思われませんが、積極的に学会発表も行っておられました。佐藤（慧）先生は、年間39例の大腸手術を行い、ロボット手術は12例執刀されました。皆様ご存知の通り丈夫な体の持ち主で、2021年に扁桃腺摘出術も受け調子良く過ごされていた様子でしたが、コロナには勝てなかったようです。2023年はもっと多くのロボット手術を経験すると思いますので、今後の活躍に期待しています。また学会発表も多く、全国規模でコロナが終息した暁には、現地開催の学会も増えてくると思いますので、ご当地グルメにもさらに磨きがかかることでしょうか。川岸先生は乳腺専門医・指導医として乳腺疾患を担当し、当科外来で最大患者数を誇っております。乳腺疾患だけでなく消化器疾患も診られる美人女性外科医で何かと頼れる存在です。また、早川先生の手術症例も入院中フォローされており、また学術においても積極的に学会発表され、多忙を極めております。及能先生（平成23年札幌医大卒）は、手術を含め慎重かつ確実に仕事をこなし、情報収集能力に長けており素晴らしい人材です。学術面においても学会参加や論文執筆も積極的に取り組み、2022年は英文論文1編が掲載されました。吉田先生（平成27年札幌医大卒）は、当院外科の若手のホープです。主に肝胆膵領域を専門としておりますが、他領域疾患においても緻密な手術を行い、年々レベルアップしているのが見て取れます。また研修医の指導や学術においては誰よりも積極的に多くの学会発表や論文執筆を行い、2022年は英文論文1編が掲載されました。今後益々の活躍が期待され、どのような道を歩んでいくのか非常に楽しみです。最後に私はと言いますと、患者さんの経過に直結する臨床に全てを捧げる思いでコロナにも感染せず（妻子は感染してしまったため濃厚接触者となり、医療スタッフには大変ご迷惑をおかけしましたが…）日々診療を行っております。他の先生方の様々な手術を見て学び、もっと上手になりたい、いろんな手術をやってみたい、という向上心と好奇心がここ数年で強くなったと思います。卒後20年目を迎えていい歳になってしまいましたが、2023年はいろんなことに挑戦していける年にしたいと思っております。

最後になりますが、2023年はどんな年になるのか不安と期待が入り混じる中、7月には第78回日本消化器外科学会が開催されますので、同門の先生方には是非この機会に大きな期待を寄せて函館に足を運んでいただきたいと思っております。

今後ともご指導とご鞭撻のほど宜しく申し上げます。

（文責：千葉丈広）

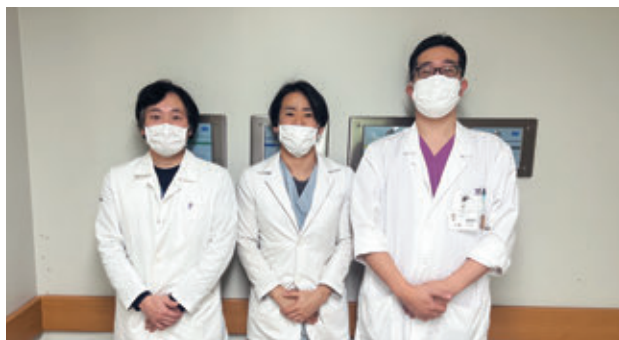
Noshiro Kousei Medical Center

### 能代厚生医療センター

当院の2022年は全手術件数381例、全身麻酔件数318例、腹腔鏡手術が254例と前年度よりもやや減少傾向にありましたが2016年と2017年とはほぼ同等の件数を維持できました。開業医の先生方から御紹介頂く癌症例も含め、救急外来初診・受診時に多発転移を起こしている進行癌症例が今年は多く、早期癌自体はかなり少ない状況でした。そのため例年よりもCV Port造設などの局所麻酔手術が増加し、全身麻酔件数は減少する傾向にありました。高齢者もかなり多く、心機能や呼吸機能に問題を抱え、鼠径部ヘルニアに対してもここ数年は全例TAPPを施行していましたが、本年度は局所麻酔下での手術症例も散見されました。

本年度も昨年と同様にスタッフは西成悠、石橋正久、棚橋洋太の3人体制で診療を行いました。今年度は胃癌に対して肥田先生を助手でお招きし、当院でLPGを初めて施行しました。術後合併症もなく退院され、その後の経過も良好でありました。また肝胆膵領域に関しまして、引き続き新田教授や片桐先生などの応援を頂き、非切除症例が多い中、例年通り遠方かつ僻地ではあるものの、秋田県内で随一の治療を患者様に提供できたことも非常にありがたく思っております。棚橋先生におきましては、当院が2年目に突入し、月1回の大学院研修などで多忙を極める中、担癌患者手術や難易度の高い胆嚢炎、手術手技安定化のためのTAPPなど1年全体で115例の手術を施行して頂きました。来年度大学に戻っても後輩に腹腔鏡操作自体は少なくとも指導可能な状態に仕上がってきていると思われれます。

また本年当院は近年稀にみる状況で、早期助言を当科も含め院内感染対策チームからも施行していましたが、院内トップの謎の拒否権限発令と感染対策に至る判断が遅く、感染



対策が後手に回ったことにより、ニュースにはなっていないものの10月中旬の院内感染140人強の大規模コロナクラスターにより、3週間強の手術・入院の規制を強いられ、全病棟閉鎖や救急外来停止などに至ってまいりました。その間に来院された患者様・急患症例におきましても他院へ御紹介せざるを得ない状態でした。また予定手術患者様のコロナ感染により延期が相次ぐ状態でもありました。我々の経験なども含め未熟であり、また若年スタッフであるがために、院内発言権は弱く、関連病院の先生方のような迅速な対策が講じられず、病棟感染対策・管理は可能でも院内感染対策まで十分に至らなかった点に置きましては、県外かつ秋田大学・弘前大学との混合総合病院のため、今後医局スタッフの御尽力を頂く必要があると思った1年でありました。今現在もコロナの院内感染は続発している状況ではありますが、院内感染対策チームと連携を取りつつ加療を継続しております。

遠方の関連病院ではあり、手術件数が減少したものの、一人頭の症例数は豊富にあり、若年外科医にとって手術修練施設として充実しております。一方で3人という人数制限があり、定型的手術を指導できないのはかなり難点であり、他の関連病院よりは時間や指導内容などはかなり厳しい条件ではあります。しかし今後もヤングアンドチャレンジ精神のまま、どのような症例に対しても当院の意向を崩さずに精進致します。同門の先生方の御指導、御鞭撻の程、今後も宜しくお願い致します。  
(文責：西成 悠)

Hachinohe Japanese Red Cross Hospital

### 八戸赤十字病院

巖刀会の皆様、いつもお世話になっております。

八戸赤十字病院の2022年の活動を報告いたします。

本年のスタッフは玉澤佳之、藤澤健太郎、野田宏伸、有末篤弘の4名に、菊地晃司先生に新たに加わっていただき、5人体制となりました。

また、これまで同様に近隣の先生方と大学医局からの応援

を頂きながら業務に当たっております。手術応援として近隣の南部町で開業されている川守田究先生、譜代村診療所の荒谷宗光先生に週1回来ていただいております。

大学医局からは、外来応援に片桐弘勝先生、石田和茂先生、手術応援に武田大樹先生にいらして頂きました。大変感謝申し上げます。

菊地先生は常勤唯一の30歳台として、その若さを十分に発揮活躍しています。臨床においては多くの手術や、地域独特の難症例を経験して頂き、外科専門医取得も果たしまし

た。プライベートにおいては第1子を授かり、公私共に充実した1年となりました。また、親知らずを一気に4本抜いたり、八戸の新鮮な刺身を食べてアニサキスに感染したりと、波乱万丈な1年でもあったようです。

今年度も相変わらずCOVID-19の影響が強く、当科でも2度にわたり病棟閉鎖に見舞われました。なんとか診療を縮小することなく、手術件数の維持、増加に努めております。

通常の診療業務以外にも副院長業務、病院経営、医局長業務、研修医指導、化学療法、緩和、NST、感染、クリニカルパス、災害対策等、病院全体の業務に関して外科スタッフが中心となって担当している分野が多岐にわたります。今年度からRapid Response Teamを立ち上げ、院内急変を減らすべく対応しております。

また当科では年同様COVID-19感染症の病棟診療担当チームとしても診療に当たっております。体感として全体の重症化率は下がっているようですが、相変わらず高齢者や重症合



併症のある方は入院が必要な場合が多く、病床利用率は高い水準で推移しています。今後の課題として、後方病院への転院や施設退院のスムーズ化が必要と考えています。そのためにはより一層の地域連携が必要と考えます。

最近のインフルエンザの同時流行の兆しを鑑みると、まだまだ厳しい状況は続きそうですが、スタッフ一丸となって頑張っていく所存です。同門の先生方におかれましても御自愛いただき、今後とも御指導御鞭撻のほど、よろしくお願い致します。(文責：野田宏伸)

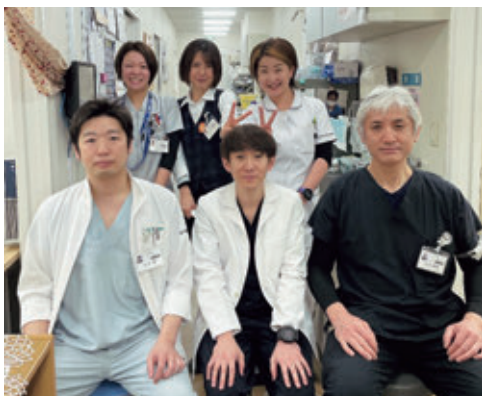
Kazuno Kosei Hospital

## かづの厚生病院

令和4年のかづの厚生病院外科の近況を御報告致します。

2022年、手術件数は全手術数197件(前年:181件)、全身麻酔手術は154件(153件)、緊急手術31件(24件)、腹腔鏡手術102件(122件)、開腹手術19件(14件)でした。前年よりも手術件数は16件増加しましたが、腹腔鏡手術件数が20件減少、開腹手術件数が5件増加、緊急手術件数が7件増加しました。腹腔鏡手術件数が減少した原因としては、Covid19感染症による受診控えの影響か、進行癌で見つかるケースが増え、開腹手術が増加したためと考えられます。切除不能進行癌の割合の増加に伴い、CV Port造設術の件数も増加傾向です。全体としては、人口減少と未だ終息の兆しが見えないCovid19感染症の影響で手術制限もあり、手術件数の大幅な増加とはなりませんでした。

スタッフは、小川雅彰副院長、有吉佑先生、屋成信吾の3人体制で診療を行いました。小川雅彰副院長は、忙しい日常業務の中、感染対策委員長も兼任されており、Covid19感染を含めた院内感染症に対して陣頭指揮をとって頂いております。有吉先生は、日本内視鏡外科学会技術認定医を取得され、当科のエースとして多くの症例を執刀して頂いており



ます。また、手術経験が乏しい私にLACをはじめとする手術指導をしてくださっております。関連病院の中で手術件数は少ない当院ですが、小川副院長、有吉先生の御指導のおかげで、たくさんの経験をさせていただきました。

大学医局から、月曜日には平田勇一郎先生、高橋真人先生、奥津美里先生、琴畑先生、菅野正紀先生、口田脩太先生各位に当直、救急診療業務まで含めて来て頂いております。木曜日には多忙な業務の間を縫って臨床腫瘍科の岩谷岳教授に手術応援に来て頂いております。新田浩幸教授には多忙な業務の中来て頂き、十二指腸乳頭部痛、遠位胆管癌の症例の執刀、腓体尾部痛の症例は有吉先生の手術指導をして頂きました。また、当院では対応困難な食道穿孔が疑われる縦隔気腫の症例や交通事故でIVRが必要な腸間膜出血の症例などで救急科の小鹿雅博先生に救急搬送の受け入れを頂くなど、大変お世話になりました。先生方には心から感謝申し上げます。

当院は地域密着型病院であり周辺病院との連携のため肺炎などの外科疾患以外の加療を行うことも増えてきております。今後も高齢化が進むなか今以上に地域のニーズに応えられるよう日々の診療を行ってまいります。同門の先生方の御指導、御鞭撻の程、今後ともよろしくお願い致します。(文責：屋成信吾)

## 外科紹介医療機関

2022年もたくさんの患者様をご紹介いただきありがとうございました。今後も最善をつくし治療させていただきます。また、地域連携パスが稼働した際には、ぜひとも先生方のご協力をお願いいたします。

医療機関名	院長	郵便番号	住 所			
あいざわクリニック	相 沢 俊 二	033-0022	青森県	三沢市	大字三沢字堀口164-298	
青森労災病院	玉 澤 直 樹	031-0822	青森県	八戸市	白銀町字南ヶ丘1番地	
秋田大学医学部附属病院	南 谷 佳 弘	010-8543	秋田県	秋田市	広面字蓮沼44-2	
小豆嶋胃腸科内科クリニック(盛岡市)	小豆嶋 正 和	020-0861	岩手県	盛岡市	仙北3-13-20	
安部医院	安 部 彦 満	024-0061	岩手県	北上市	大通り1-11-23	
あべ内科・消化器科クリニック	阿 部 礼 司	020-0146	岩手県	盛岡市	長橋町17-45	
飯島医院	飯 島 信	020-0668	岩手県	滝沢市	鶴飼狐洞1-277	
E.肌クリニック不來方	遠 藤 直 樹	028-3615	岩手県	紫波郡矢巾町	南矢幅8-244	
池田外科・消化器内科医院	池 田 健一郎	020-0041	岩手県	盛岡市	境田町5-18	
いしい内科・糖尿病クリニック	石 井 基 嗣	020-0871	岩手県	盛岡市	中ノ橋通1-4-20 水晶堂ビル4F	
石鳥谷駅前クリニック	高 橋 仁 志	028-3101	岩手県	花巻市	石鳥谷町好地第7地割209番地2	
泉整形外科病院	高 原 政 利	981-3121	宮城県	仙台市	泉区上谷刈字丸山6-1	
いするぎ医院	岩 動 一 将	020-0022	岩手県	盛岡市	大通3-3-22	
一関病院	佐 藤 隆 次	021-0884	岩手県	一関市	大手町3-36	
岩手医科大学附属病院(矢巾)	小笠原 邦 昭	028-3695	岩手県	紫波郡矢巾町	医大通二丁目1番1号	
(公財)岩手県対がん協会	狩 野 敦	020-0834	岩手県	盛岡市	永井14-46	
(公財)岩手県対がん協会 すこや館	村 上 晶 彦	028-3390	岩手県	紫波郡矢巾町	医大通2丁目1-6	
岩手県対がん協会いわて健康管理センター	狩 野 敦	020-0864	岩手県	盛岡市	西仙北1-17-18	
岩手県予防医学協会(含付属診療所)	田 卷 健 治	020-0834	岩手県	盛岡市	永井4-42	
岩手県立胆沢病院	勝 又 宇一郎	023-0864	岩手県	奥州市	水沢区龍ヶ馬場61	
岩手県立磐井病院	佐 藤 耕一郎	029-0192	岩手県	一関市	狐禅寺字大平17	
岩手県立江刺病院	川 村 秀 司	023-1103	岩手県	奥州市	江刺区西大通り5-23	
岩手県立大船渡病院	瀧 向 透	022-8512	岩手県	大船渡市	大船渡町字山馬越10-1	
岩手県立釜石病院	坂 下 伸 夫	026-8550	岩手県	釜石市	甲子町10-483-6	
岩手県立久慈病院	遠 野 千 尋	028-8040	岩手県	久慈市	旭町第10地割1番	
岩手県立千厩病院	佐 藤 一	029-0803	岩手県	一関市	千厩町千厩字草井沢32-1	
岩手県立中央病院	宮 田 剛	020-0066	岩手県	盛岡市	上田1-4-1	
岩手県立遠野病院	郷右近 祐 司	028-0541	岩手県	遠野市	松崎町白岩14-74	
岩手県立中部病院	吉 田 徹	024-8507	岩手県	北上市	村崎野17-10	
岩手県立二戸病院	小笠原 敏 浩	028-6193	岩手県	二戸市	堀野字大川原毛38-2	
岩手県立宮古病院	川 村 英 伸	027-0096	岩手県	宮古市	崎鉾ヶ崎1-11-26	
植田内科消化器科医院	植 田 修	020-0633	岩手県	滝沢市	穴口183-3	
白井循環器呼吸器内科	白 井 雄 太	020-0107	岩手県	盛岡市	松園2-2-6	
内丸病院	宮 川 朋 久	020-0015	岩手県	盛岡市	本町通1-12-7	
内丸メディカルセンター	下 沖 収	020-8505	岩手県	盛岡市	内丸19-1	

	医療機関名	院長	郵便番号	住所			
あ	エールクリニック八幡平	菊地大輝	028-7112	岩手県	八幡平市	田頭37-103-1	
	奥州病院	佐藤直夫	023-0828	岩手県	奥州市	水沢区東大通り1-5-30	
	おおうち消化器内科クリニック	大内健	027-0077	岩手県	宮古市	館合町1-8	
	大澤クリニック(医科)	大澤宏之	020-0822	岩手県	盛岡市	茶畑2-8-3	
	大館市立総合病院	吉原秀一	017-0885	秋田県	大館市	豊町3-1	
	小野寺内科医院	小野寺正幸	028-5312	岩手県	二戸郡一戸町	一戸字向町148-1	
	小原クリニック	小原紀彰	025-0091	岩手県	花巻市	西大通り2-22-15	
	おぼない内科クリニック	生内久人	028-3615	岩手県	紫波郡矢巾町	大字南矢幅第8地割235	
か	開運橋消化器内科クリニック	遠藤昌樹	020-0022	岩手県	盛岡市	大通3丁目9-3	
	カシオペア医院	肥田憲彦	028-6105	岩手県	二戸市	堀野字大川原毛134-5	
	柏厚生総合病院	諏訪達志	277-8551	千葉県	柏市	篠籠田617	
	かづの厚生病院	吉田雄樹	018-5201	秋田県	鹿角市	花輪字向畑18	
	桂木クリニック	伊藤卓	030-0844	青森県	青森市	桂木4丁目6-37	
	かとう整形外科クリニック	加藤貞文	020-0021	岩手県	盛岡市	中央通2丁目8番1号	
	金子胃腸科内科	金子博純	020-0403	岩手県	盛岡市	乙部13-135-3	
	上福岡総合病院	井上達夫	356-0011	埼玉県	ふじみ野市	福岡931	
	亀田京橋クリニック	岸本誠司	104-0031	東京都	中央区	京橋3-1-1 東京スクエアガーデンビル4F	
	川久保病院	田村茂	020-0835	岩手県	盛岡市	津志田26-30-1	
	北上済生会病院	一戸貞文	024-8506	岩手県	北上市	九年橋3-15-33	
	栗原クリニック	土井秀之	020-0015	岩手県	盛岡市	本町通1-16-4	
	栗原中央病院	中鉢誠司	987-2005	宮城県	栗原市	築館宮野中央3丁目1番地1	
	黒須病院	手塚幹雄	329-1395	栃木県	さくら市	氏家2650番地	
	気仙沼市立病院	横田憲一	988-0181	宮城県	気仙沼市	赤岩杉ノ沢8-2	
	健生病院(津軽保健生協)	伊藤真弘	036-8004	青森県	弘前市	野田2-2-1	
	国際医療福祉大学成田病院	宮崎勝	286-8520	千葉県	成田市	畑ヶ田852	
	国保金ヶ崎診療所	阿部俊和	029-4503	岩手県	胆沢郡金ヶ崎町	西根樋水98	
	国保種市病院	磯崎一太	028-7914	岩手県	九戸郡洋野町	種市23-27-2	
	国立病院機構埼玉病院	原彰男	351-0102	埼玉県	和光市	諏訪2-1	
	国立病院機構仙台医療センター	上之原広司	983-8520	宮城県	仙台市	宮城野区宮城野2-8-8	
	国立病院機構盛岡医療センター	木村啓二	020-0133	岩手県	盛岡市	青山1-25-1	
	こずかた診療所	藤島行輝	028-3614	岩手県	紫波郡矢巾町	大字又兵衛新田5-67-1	
	さ	坂の上野田村太志クリニック	田村太志	024-0021	岩手県	北上市	上野町4丁目2-15
		さくらまち整骨院	瀬川智司	028-3307	岩手県	紫波郡紫波町	桜町字田頭53-11
		ささきクリニック	佐々木盛光	025-0053	岩手県	花巻市	中北万丁目836
		さとう消化器科内科クリニック	佐藤慎一郎	028-3101	岩手県	花巻市	石鳥谷町好地16-9-5

こ

医療機関名	院長	郵便番号	住 所		
佐藤雅夫クリニック	佐藤 雅夫	027-0074	岩手県	宮古市	保久田4-7
三愛病院	清野 耕治	020-0121	岩手県	盛岡市	月が丘1-29-15
三愛病院附属矢巾クリニック	藤島 幹彦	028-3601	岩手県	紫波郡矢巾町	高田11-25-2
シェーンハイムやはば(老健)	谷村 邦久	028-3606	岩手県	紫波郡矢巾町	土橋11地割三枚橋35-1
雫石大森クリニック	大森 浩明	020-0541	岩手県	岩手郡雫石町	千刈田79-2
品川シーズンテラス健診クリニック	上妻 達也	108-0075	東京都	港区	港南1-2-70
篠村医院	篠村 達雅	020-0524	岩手県	岩手郡雫石町	寺の下105-12??
循環器内科 金矢クリニック	金矢 宣紀	020-0838	岩手県	盛岡市	津志田中央3-7-7
市立角館総合病院	伊藤 良正	014-0394	秋田県	仙北市	角館町上野18
紫波整形外科クリニック	多田 広志	028-3305	岩手県	紫波郡紫波町	日詰字東裏20-2
しんたろうクリニック	菊池 信太郎	020-0866	岩手県	盛岡市	本宮1丁目9-1
新東京クリニック	中村 淳	271-0077	千葉県	松戸市	根本473-1
鈴木肛門外科・守口内科	鈴木 俊輔	020-0016	岩手県	盛岡市	名須川町16-14
須田内科医院	須田 健	025-0042	岩手県	花巻市	円万寺字下中野46-4
聖路加国際病院	石松 伸一	104-8560	東京都	中央区	明石町9-1
仙台厚生病院	畑 正樹	980-0873	宮城県	仙台市	青葉区広瀬町4-15
せんだい総合健診クリニック	石垣 洋子	980-0811	宮城県	仙台市	青葉区一番町1-9-1
総合花巻病院	後藤 勝也	025-0082	岩手県	花巻市	御田屋町4番56号
総合水沢病院	菊池 淳	023-0053	岩手県	奥州市	水沢区大手町3-1
高木丘クリニック	佐藤 寧	025-0016	岩手県	花巻市	高木18-61-2
たかしクリニック	黒田 敬	020-0862	岩手県	盛岡市	東仙北1-3-7
孝仁病院	西成 尚人	020-0052	岩手県	盛岡市	中太田泉田28
孝仁病院PET画像診断センター	村田 雄二	020-0052	岩手県	盛岡市	中太田泉田28
高松病院	高松 正之	020-0115	岩手県	盛岡市	館向町4-8
高宮消化器科内科医院	高宮 秀式	028-3603	岩手県	紫波郡矢巾町	大字西徳田2-106-3
滝沢中央病院	山内 広平	020-0668	岩手県	滝沢市	鶴飼笹森42番地2
たぐち脳神経外科クリニック	田口 壮一	020-0015	岩手県	盛岡市	本町通1丁目4-19
竹花乳腺クリニック	竹花 教	023-0852	岩手県	奥州市	水沢区山崎町8-1
たにむらクリニック	谷村 武宏	020-0866	岩手県	盛岡市	本宮小坂小瀬13-2
町立西和賀さわうち病院	小原 眞	029-5612	岩手県	和賀郡西和賀町	沢内字大野13地割3番地12
つがる総合病院	岩村 秀輝	037-0053	青森県	五所川原市	字布屋町41
照井内科消化器科医院	照井 虎彦	025-0072	岩手県	花巻市	四日町3-5-8
東北医科薬科大学病院	佐藤 賢一	983-8512	宮城県	仙台市	宮城野区福室1-12-1
栃内内科医院	栃内 秀貴	020-0084	岩手県	盛岡市	神明町10-35
とちない脳神経外科クリニック	栃内 秀士	020-0838	岩手県	盛岡市	津志田中央3丁目17番10号

た

医療機関名	院長	郵便番号	住 所			
とみさわ甲状腺・乳腺のクリニック八戸	富澤 勇 貴	031-0042	青森県	八戸市	十三町1番地 ヴィアノヴァ 2階-10	
とみさわ甲状腺・乳腺のクリニック盛岡	富澤 勇 貴	020-0022	岩手県	盛岡市	大通1-1-16 岩手教育会館1F	
虎ノ門病院	門 脇 孝	105-8470	東京都	港区	虎の門2-2-2	
十和田市立中央病院	高橋 道 長	034-0093	青森県	十和田市	西十二番町14-8	
なおしま医院	直 島 淳 太	028-3441	岩手県	紫波郡紫波町	上平沢字川原田33-5	
なおや脳神経・頭痛クリニック	佐 藤 直 也	020-0866	岩手県	盛岡市	本宮字小坂小瀬13-4	
なかの消化器内科クリニック	中 野 修	018-5201	秋田県	鹿角市	花輪字下中島81-2	
成田内科胃腸科医院	成 田 知 史	028-3614	岩手県	紫波郡矢巾町	大字又兵工新田第8地割101番地	
乳腺外科いしだ外科胃腸科クリニック	石 田 茂登男	020-0834	岩手県	盛岡市	盛岡駅前通14-9 ヒラトヤビル3F	
沼宮内地域診療センター	大 津 友 見	028-4303	岩手県	岩手郡岩手町	大字五日市第10地割4番地7	
能代厚生医療センター	太田原 康 成	016-0014	秋田県	能代市	落合字上前田地内	
はちのへ99クリニック	内 海 謙	031-0004	青森県	八戸市	南類家5丁目1-8	
八戸市立市民病院	今 明 秀	031-8555	青森県	八戸市	田向3-1-1	
八戸赤十字病院	紺 野 広	039-1104	青森県	八戸市	大字田面木字中明戸2	
花巻市石鳥谷医療センター	似 内 郊 雄	028-3163	岩手県	花巻市	石鳥谷町八幡5-47-2	
ひめかみ病院	坂 本 文 明	028-4134	岩手県	盛岡市	玉山区下田陣場41-10	
兵庫医科大学病院	阪 上 雅 史	663-8501	兵庫県	西宮市	武庫川町1番1号	
弘前大学医学部附属病院	大 山 力	036-8563	青森県	弘前市	本町53	
福原胃腸科外科医院	福 原 孝	039-0201	青森県	三戸郡田子町	大字田子字上野ノ下タ98-7	
藤島内科医院	藤 島 敏 智	020-0013	岩手県	盛岡市	愛宕町4-18	
プレスト齋藤外科クリニック	齋 藤 純 一	020-0866	岩手県	盛岡市	本宮6丁目17-6	
堀江医院	堀 江 圭	028-3603	岩手県	紫波郡矢巾町	西徳田6-143	
本田胃腸内科外科	本 田 健 一	023-0816	岩手県	奥州市	水沢区西町4番21号	
松園第二病院	石 川 洋 子	020-0103	岩手県	盛岡市	西松園3-22-3	
三沢市立三沢病院	伊 藤 悦 朗	033-0001	青森県	三沢市	大字三沢字堀口164-65	
ミッドタウンクリニック有明	原 和 弘	135-0063	東京都	江東区	有明3丁目5番7号 TOC有明イーストタワー 5階	
南昌病院 (帰厚堂)	木 村 宗 孝	028-3621	岩手県	紫波郡矢巾町	大字広宮沢1-2-181	
三本柳かんのクリニック	菅 野 公 徳	020-0831	岩手県	盛岡市	三本柳23-10-5	
メディカルコート八戸西病院	清 水 澄	039-1103	青森県	八戸市	長苗代字中坪77	
本宮Cクリニック	千 葉 芳 久	020-0851	岩手県	盛岡市	向中野3丁目10-3	
もりおか胃腸科内科クリニック	佐 藤 邦 彦	020-0871	岩手県	盛岡市	中ノ橋通2-3-2	
盛岡駅前おおば脳神経内科クリニック	大 庭 英 樹	020-0034	岩手県	盛岡市	盛岡駅前通13番8号	
盛岡さくらクリニック	小 田 淳 一	020-0122	岩手県	盛岡市	みたけ4丁目36-32	
盛岡市立病院	加 藤 章 信	020-0866	岩手県	盛岡市	本宮5丁目15-1	
盛岡赤十字病院	久 保 直 彦	020-8560	岩手県	盛岡市	三本柳6-1-1	

	医療機関名	院長	郵便番号	住所		
ま	盛岡つなぎ温泉病院	関 博文	020-0055	岩手県	盛岡市	繫字尾入野64-9
	盛岡南病院	田中英治	020-0835	岩手県	盛岡市	津志田13-18-4
	盛岡友愛病院	佐々木 達哉	020-0834	岩手県	盛岡市	永井12-10
	守口医院	守口 尚	028-0521	岩手県	遠野市	材木町2番25号
	もりた整形外科	盛田 哲郎	020-0004	岩手県	盛岡市	山岸1-3-8
や	八角病院	八角 有紀	028-4125	岩手県	盛岡市	玉山区好摩字夏間木70-190
	やはば脳とカラダのいきいき健診センター	小笠原 邦昭	028-3695	岩手県	紫波郡矢巾町	医大通二丁目1番1号
	やまだ胃腸内科クリニック	山田 宏之	020-0838	岩手県	盛岡市	津志田中央2-18-31
	山田クリニック	山田 行夫	020-0021	岩手県	盛岡市	中央通1-13-8
	横浜市立大学附属 市民総合医療センター	榊原 秀也	232-0024	神奈川県	横浜市	南区浦舟町4-57
わ	わたなべおしりのクリニック	渡邊 陽太郎	020-0866	岩手県	盛岡市	本宮5-1-3
	わたなべ内科・脳神経内科クリニック	渡邊 活見	020-0114	岩手県	盛岡市	高松三丁目9-8
	渡辺内科医院	渡辺 立夫	028-3305	岩手県	紫波郡紫波町	日詰下丸森122-3



## 獲得研究費

### 科学研究費助成事業

- 1. 2020-2022 基盤研究 (C)**  
「消化器癌における症例特異的変異を用いた ctDNA モニタリングの臨床的意義の検討」  
研究代表者：岩谷 岳
- 2. 2020-2022 基盤研究 (C)**  
「高度肥満症に伴う非アルコール性脂肪性肝炎の病態解明と外科治療後の改善機序」  
研究代表者：佐々木 章 研究分担者：石垣 泰, 岩谷 岳, 梅邑 晃, 石田 和之
- 3. 2021-2022 若手研究**  
「ctDNA 検査を用いた食道癌の免疫チェックポイント阻害剤の適正使用の検討」  
研究代表者：二階 春香
- 4. 2021-2023 基盤研究 (C)**  
「臓器横断的観察研究による再発形式依存性腫瘍由来血中 DNA 動態の解明」  
研究代表者：西塚 哲 研究分担者：岩谷 岳, 開 勇人
- 5. 2022-2024 基盤研究 (C)**  
「ctDNA を用いた大腸癌化学療法効果判定法と転移巣切除適応症例層別化の確立」  
研究代表者：八重樫 瑞典 研究分担者：西塚 哲, 岩谷 岳
- 6. 2022-2024 基盤研究 (C)**  
「高度肥満患者の細菌叢変化とマルチオミックス解析による肝線維化メカニズムの探索」  
研究代表者：梅邑 晃 研究分担者：佐々木 章, 柿坂 啓介, 石垣 泰

### その他の外部資金（奨学寄附金）

- 1. 大鵬薬品**  
「肥満非アルコール性脂肪性肝炎に対する減量・代謝改善手術の効果と改善機序」  
研究代表者：佐々木 章
- 2. 科研製薬**  
「細径ポートより縫合針が挿入可能となる細径持針器の改良」  
研究代表者：鈴木 信
- 3. アボットジャパン**  
「胃癌に対する胃全摘術後の Oral Nutritional Supplements の安全性と有効性の検討」  
研究代表者：馬場 誠朗
- 4. 中外製薬**  
「慢性腎臓病合併高度肥満症患者に対する減量・代謝改善手術の意義とその改善機序に関わる研究」  
研究代表者：梅邑 晃
- 5. 日本外科学会 若手外科医のための臨床研究助成**  
「Digital PCR による ctDNA モニタリングを用いた大腸癌遠隔転移切除症例の予後予測因子の検討」  
研究代表者：八重樫 瑞典

## 英文論文

1. Umemura A, Nitta H, Suto T, Fujiwara H, Takahara T, Hasegawa Y, Katagiri H, Kanno S, Ando T, Sasaki A. Indocyanine green fluorescence imaging via endoscopic nasal biliary drainage during laparoscopic deroofting of liver cysts. *J Minim Access Surg* 2022 ; 17(1) : 131-134
2. Morota J, Ishige T, Suzuki M, Igarashi Y, Takizawa T. Non-occlusive mesenteric ischemia in a toddler with 6q25 microdeletion syndrome. *Pediatr Int* 2022 ; 64(1) : e14751
3. Sasaki A, Umemura A, Ishida K, Takahashi N, Nikai H, Nitta H, Takikawa Y, Kakisaka K, Abe T, Nishiya M, Sugai T. The Concept of Indeterminable NASH Inducted by Preoperative Diet and Metabolic Surgery: Analyses of Histopathological and Clinical Features. *Biomedicines* 2022 ; 10(2) : 453
4. Sugai T, Osakabe M, Niinuma T, Eizuka M, Tanaka Y, Yamada S, Yanagawa N, Otsuka K, Sasaki A, Matsumoto T, Suzuki H. Comprehensive analyses of microRNA and mRNA expression in colorectal serrated lesions and colorectal cancer with a microsatellite instability phenotype. *Genes Chromosomes Cancer* 2022 ; 61(3) : 161-171
5. Yoshimoto-Haramura T, Hidaka M, Hasegawa K, Suzumura K, Takemura N, Hama N, Mizuno T, Nomi T, Kobayashi T, Sano K, Yokomizo H, Nitta H, Kurata M, Hasegawa Y, Nagayama M, Tani M, Fukumoto T, Ohta M, Hayashi H, Taniguchi H, Ishino S, Aihara T, Murase T, Tsuchida A, Shimamura T, Marubashi S, Kaneko J, Hara T, Matsushima H, Soyama A, Endo T, Eguchi S. National survey of hepatobiliary and pancreatic surgery in hemophilia patients in Japan. *J Hepatobiliary Pancreat Sci* 2022 ; 29(3) : 385-393
6. Tanahashi Y, Sato H, Kawakami A, Sasaki S, Nishinari Y, Ishida K, Kojika M, Endo S, Inoue Y, Sasaki A. Difference between delayed anastomosis and early anastomosis in damage control laparotomy affecting the infusion volume and NPWT output volume: is infusion restriction necessary in delayed anastomosis? A single-center retrospective analysis. *Trauma Surg Acute Care Open* 2022 ; 7(1) : e000860
7. Umemura A, Nitta H, Katagiri H, Kanno S, Takeda D, Nagase H, Amano S, Kikuchi K, Yamada N, Sasaki A. Single-Port Laparoscopic Duodenojejunostomy Employing Semi-Kocherization for a Young Female with Superior Mesenteric Artery Syndrome. *Case Rep Gastroenterol* 2022 ; 16(1) : 171-178
8. Kogo R, Manako T, Iwaya T, Nishizuka S, Hiraki H, Sasaki Y, Idogawa M, Tokino T, Koide A, Komune N, Yasumatsu R, Nakagawa T. Individualized circulating tumor DNA monitoring in head and neck squamous cell carcinoma. *Cancer Med* 2022 ; 11(21) : 3960-3968
9. Hashimoto M, Uesugi N, Sugai M, Ito K, Yanagawa N, Otsuka K, Kajiwaraya Y, Ueno H, Sasaki A, Sugai T. Desmoplastic reactions and epithelial-mesenchymal transition proteins in stages II and III colorectal cancer: association with and prognostic value for disease-free survival. *Virchows Arch* 2022 ; 480(4) : 793-805
10. Kato H, Kamei K, Suto H, Misawa T, Unno M, Nitta H, Satoi S, Kawabata Y, Ohtsuka M, Rikiyama T, Sudo T, Matsumoto I, Okano K, Suzuki Y, Sata N, Isaji S, Sugiyama M, Takeyama Y. Incidence and risk factors of nonalcoholic fatty liver disease after total pancreatectomy: A first multicenter prospective study in Japan. *J Hepatobiliary Pancreat Sci* 2022 ; 29(4) : 428-438
11. Katagiri H, Nitta H, Takahara T, Hasegawa Y, Kanno S, Umemura A, Takeda D, Makabe K, Kikuchi K, Kimura T, Yanari S, Sasaki A. Standardized single-incision plus one-port laparoscopic left lateral sectionectomy: a safe alternative to the conventional procedure. *Langenbecks Arch Surg* 2022 ; 407(3) : 1277-1284
12. Watanabe Y, Yamaguchi T, Tanaka S, Sasaki A, Naitoh T, Matsubara H, Yokote K, Okazumi S, Ugi S, Yamamoto H, Ohta M, Ishigaki Y, Kasama K, Seki Y, Tsujino M, Shirai K, Miyazaki Y, Masaki T, Nagayama D, Saiki A, Tatsuno I. Characteristics of childhood onset and post-puberty onset obesity and weight regain after laparoscopic sleeve gastrectomy in Japanese subjects: a subgroup analysis of J-SMART. *Obes Facts* 2022 ; 15(4) : 498-507
13. Morise Z, Aldrighetti L, Belli G, Ratti F, Cheung TT, Lo CM, Tanaka S, Kubo S, Okamura Y, Uesaka K, Monden K, Sadamori H, Hashida K, Kawamoto K, Gotohda N, Chen K, Kanazawa A, Takeda Y, Ohmura Y, Ueno M, Ogura T, Suh KS, Kato Y, Sugioka A, Belli A, Nitta H, Yasunaga M, Cherqui D, Halim NA, Laurent A, Kaneko H, Otsuka Y, Kim KH, Cho HD, Lin CC, Ome Y, Seyama Y, Troisi RI, Berardi G, Rotellar F, Wilson GC, Geller DA, Soubrane O, Yoh T, Kaizu T, Kumamoto Y, Han HS, Ekmekcigil E, Dagher I, Fuks D, Gayet B, Buell JF, Ciria R, Briceno J, O'Rourke N, Lewin J, Edwin B, Shinoda M, Abe Y, Hilal MA, Alzoubi M, Tanabe M, Wakabayashi G. An International Retrospective Observational Study of Liver Functional Deterioration after Repeat Liver Resection for Patients with Hepatocellular Carcinoma. *Cancers (Basel)* 2022 ; 14(11) : 2598
14. Yanari S, Sasaki A, Umemura A, Ishigaki Y, Nikai H, Nishijima T, Sakurai S. Therapeutic effect of laparoscopic sleeve gastrectomy on obstructive sleep apnea and relationship of type 2 diabetes in Japanese patients with severe obesity. *J Diabetes Investig* 2022 ; 13(6) : 1073-1085
15. Umemura A, Nitta H, Takahara T, Hasegawa Y, Katagiri H, Kanno S, Takeda D, Sasaki A. Pure laparoscopic left lateral graft procurement with removing segment 3 employing Glissonean approach, indocyanine green fluorescence imaging and in situ splitting for a small infant. *J Minim Access Surg* 2022 ; doi: 10.4103/jmas.jmas\_290\_21. Online ahead of print.

16. Shinohara M, Suzuki M, Koyama R, Uchida Y, Ogushi K, Otake S, Yamamoto H, Ishige T, Shirabe K. Cavernous hemangioma of the small intestine diagnosed by capsule endoscopy in an 8-year-old girl. *J. Pediatric Surg. Case Rep.* 2022 ; 83(9) : 102337
17. Umemura A, Sasaki A, Nitta H, Katagiri H, Kanno S, Takeda D, Ando T, Amano S, Nishiya M, Uesugi N, Sugai T. A novel second-stage surgical strategy for severely obese patient with pancreatic neuroendocrine tumor: a case report. *Surg Case Rep* 2022 ; 8(1) : 125
18. Kumagai H, Umemura A, Nitta H, Katagiri H, Kanno S, Takeda D, Amano S, Kikuchi K, Takashimizu K, Nishiya M, Uesugi N, Sugai T, Sasaki A. Pure Laparoscopic Left Hepatectomy for Regrowth of Mucinous Cystic Neoplasm of the Liver after Laparoscopic Deroofing. *Case Rep Surg* 2022 ; 2022 (4829153) : 1-6
19. Ito Y, Osakabe M, Niinuma T, Uesugi N, Sugimoto R, Yanagawa N, Otsuka K, Sasaki A, Matsumoto T, Suzuki H, Sugai T. Genome-wide analysis of mRNA and microRNA expression in colorectal cancer and adjacent normal mucosa. *J Pathol Clin Res* 2022 ; 8(4) : 313-326
20. Kumagai H, Takehana K, Shioi Y, Tono C. Axillary schwannoma mimicking lymph node metastasis-associated breast cancer: a case report. *Surg Case Rep* 2022 ; 8(1) : 135
21. Kikuchi K, Katagiri H, Suzuki Y, Nitta H, Sasaki A. Mobilization of multilineage-differentiating stress-enduring cells into the peripheral blood in liver surgery. *PLoS One* 2022 ; 17(7) : e0271698
22. Sasaki A, Tachimori H, Akiyama Y, Oshikiri T, Miyata H, Kakeji Y, Kitagawa Y. Risk model for mortality associated with esophagectomy via a thoracic approach based on data from the Japanese National Clinical Database on malignant esophageal tumors. *Surg Today* 2022 ; 53(1) : 73-81
23. Kurihara H, Kumagai H, Kobayashi T, Wakimoto M, Katagiri H, Nitta H, Suzuki K. Factors influencing prolonged mechanical ventilation after liver transplantation: a retrospective cohort study. *JIMA* 2022 ; 74(4) : 153-164
24. Kikuchi K, Umemura A, Nitta H, Katagiri H, Nishiya M, Uesugi N, Sugai T, Imanari K, Sasaki A. A case of pathological complete response with Liposomal Irinotecan + 5-FU/LV for unresectable locally advanced pancreatic cancer: A case report. *Surg Case Rep* 2022 ; 8(1) : 192
25. Shiota H, Komine K, Takahashi M, Takahashi S, Miyauchi E, Niizuma H, Tada H, Shimada M, Niihori T, Aoki Y, Sugiyama I, Kawamura M, Yasuda J, Suzuki S, Iwaya T, Saito M, Saito T, Shibata H, Furukawa T, Ishioka C. Clinical decisions by the molecular tumor board on comprehensive genomic profiling tests in Japan: A retrospective observational study. *Cancer Med* 2022 ; doi: 10.1002/cam4.5349. Online ahead of print.
26. Kumagai H, Shioi Y, Tamura D, Shitomi T, Tono C. Geriatric nutritional risk index as a risk-factor for *Clostridioides difficile* infection relapse in elderly Japanese patients. *J Rural Med* 2022 ; 17(4) : 248-254
27. Nitta H, Sasaki A, Katagiri H, Kanno S, Umemura A. Is Laparoscopic Hepatectomy Safe for Giant Liver Tumors? Proposal from a Single Institution for Totally Laparoscopic Hemihepatectomy Using an Anterior Approach for Giant Liver Tumors Larger Than 10 cm in Diameter. *Curr Oncol* 2022 ; 29(11) : 8261-8268
28. Umemura A, Sasaki A, Nikai H, Yanari S, Ishioka H, Takahashi N, Katagiri H, Kanno S, Takeda D, Morishita T, Eizuka M, Oizumi T, Nitta H. Improvements of lung volumes and respiratory symptoms after weight loss through laparoscopic sleeve gastrectomy. *Langenbecks Arch Surg* 2022 ; 407(7) : 2747-2754
29. Takahashi N, Sasaki A, Umemura A. Identification of a Fatty Acid for Diagnosing Non-Alcoholic Steatohepatitis in Patients with Severe Obesity Undergoing Metabolic Surgery. *Biomedicines* 2022 ; 10(11) : 2920
30. Kumagai H, Yaegashi M, Okutsu M, Otsuka K, Iwasa T, Sasaki A. Bleeding ileal schwannoma resulting in severe anemia requiring massive blood transfusion: A rare case report. *Int J Surg Case Rep* 2022 ; doi: 10.1016/j.ijscr.2022.107820. Online ahead of print.

## 和文論文

1. 新田 浩幸. 手術の tips and pitfalls Clamp Crush 法による肝離断. 日本外科学会雑誌 2022 ; 123(2) : 195-199
2. 佐々木 章, 内藤 剛, 横手 幸太郎, 稲垣 暢也, 益崎 裕章, 綿田 裕孝, 小川 渉, 下村 伊一郎, 山内 敏正, 石垣 泰, 笠間 和典, 野崎 剛弘, 島袋 充生, 藤倉 純二, 宮塚 健, 庄嶋 伸浩, 西澤 均, 廣田 勇士, 卯木 智, 太田 正之, 岡住 慎一, 吉川 絵梨, 小山 英則, 齋木 厚人, 関 洋介, 辻野 元祥, 林 果林, 山口 崇, 龍野 一郎, 植木 浩二郎, 門脇 孝. 日本人の肥満 2 型糖尿病患者に対する減量・代謝改善手術に関するコンセンサスステートメント. 糖尿病 2022 ; 65(3) : 109-177
3. 片桐 弘勝, 新田 浩幸, 菅野 将史, 梅邑 晃, 武田 大樹, 佐々木 章. 【高難度肝胆膵外科手術アトラス 2022】 肝臓 腹腔鏡下肝葉切除. 手術 2022 ; 76(4) : 499-506
4. 伊藤 浩平, 石岡 秀基, 塩井 義裕, 佐々木 章. 上行結腸軸捻転に対して回盲部切除を行った 1 例. 岩手医学雑誌 2022 ; 74(1) : 31-36
5. 佐々木 章, 梅邑 晃, 石岡 秀樹, 高橋 真人, 二階 春香, 馬場 誠朗, 片桐 弘勝, 鈴木 信, 秋山 有史, 新田 浩幸. 減量・代謝改善手術によるメタボリック症候群治療. 消化器・肝臓内科 2022 ; 11(4) : 389-395
6. 八重樫 瑞典, 大塚 幸喜, 高清水 清治, 有吉 佑, 畑中 智貴, 佐々木 章. 【内視鏡手術からみえる 新しい解剖学】 下部消化管 腹腔鏡下結腸左半切除に必要な血管解剖と手術手技. 外科 2022 ; 84(5) : 473-479
7. 田村 明生, 向井田 瑛佑, 加藤 健一, 石田 和之, 西谷 匡央, 菅井 有, 新田 浩幸, 吉岡 邦浩. 【腹部の最新画像情報 2022】 浸潤性膵管癌を取り囲むように存在した自己免疫性膵炎の 1 例. 臨床放射線 2022 ; 67(5) : 451-455
8. 赤坂 理三郎, 鳥谷 洋右, 永塚 真, 大泉 智史, 梁井 俊一, 遠藤 昌樹, 秋山 有史, 山田 峻, 杉本 亮, 上杉 憲幸, 佐々木 章, 菅井 有, 松本 主之. 【特殊型胃癌 - 組織発生と内視鏡診断】 胃リンパ球浸潤癌の内視鏡診断 Epstein-Barr ウイルス関連胃癌を中心に. 胃と腸 2022 ; 57(7) : 922-930
9. 塩井 義裕, 石岡 秀基, 川島 到真, 遠野 千尋, 佐藤 一. 人工心肺の送脱血カニューレ挿入による鼠径部腹壁癒痕ヘルニアを TAPP 法で修復した 1 例. 日本内視鏡外科学会雑誌 2022 ; 27(4) : 171-175
10. 竹本 稔, 林 愛子, 田中 智洋, 全 泰和, 林 秀樹, 笠間 和典, 齋木 厚人, 佐々木 章, 岡住 慎一, 松原 久裕, 龍野 一郎, 高齢者肥満外科の適用委員会. 減量・代謝改善手術の適応年齢に関する検討 高齢者肥満外科の適用委員会ならびに高齢者肥満外科手術の適応のワーキンググループからの報告. 肥満症治療学展望 2022 ; 10(1) : 2-4
11. 小林 めぐみ, 矢内 俊裕, 田金 恵, 小野寺 千夏, 古川 ひろみ, 石川 健, 鈴木 信, 佐々木 章. 膀胱憩室切除および膀胱皮膚瘻造設が有用であった Menkes 病の 1 例. 日本小児泌尿器科学会雑誌 2022 ; 32(1)
12. 炭山 和毅, 相原 弘之, 梅邑 晃, 大城 崇司, 土橋 昭. 本邦における肥満 / 代謝異常に対する外科的・内視鏡的治療の意義と展望. 日本消化器病学会雑誌 2022 ; 119(10) : 916-928
13. 片桐 弘勝, 新田 浩幸, 菅野 将史, 梅邑 晃, 武田 大樹, 佐々木 章. 手術手技 下大静脈右縁での肝挙上操作を用いた前方アプローチによる腹腔鏡下肝右葉切除術. 手術 2022 ; 76(11) : 1723-1728
14. 武田 大樹, 新田 浩幸. 【術前画像の読み解きガイド - 的確な術式選択と解剖把握のために】 肝臓 腹腔鏡下肝中央二区域切除 解剖把握と術中所見. 臨床外科 2022 ; 77(11) : 230-235
15. 小林 めぐみ, 鈴木 信, 田金 恵, 畠山 元, 佐々木 章. 腹腔鏡併用で治療した小児大腿ヘルニアの 1 男児例. 岩手医学雑誌 2022 ; 74(5) : 185-190

## 著 書

1. 馬場 誠朗, 佐々木 章. 実践! 高齢者に対する消化器外科の minimal requirements 『高齢者の急性胆嚢炎に対する手術と周術期の工夫』. 2022 ; 1(1) : 126-134
2. 八重樫 瑞典, 大塚 幸喜. 結腸右半切除. ビジュアルサージカル 消化器腹腔鏡下手術 下部消化管 イラストと動画で理解する内視鏡外科解剖と手技のコツ 2022 ; 1(1) : 24-39

## 国際学会発表

The 43rd Annual Meeting of the Japan Society for the Study of Obesity International Satellite Symposium The 5Gs on Obesity and Diabetes Research, Okinawa, 2022/12/01

1. Umemura A, Sasaki A. Dynamic changes of the 5Gs by metabolic surgery and the 5Gs' important role for improving comorbidities. Session

## 国内学会発表

第 24 回・第 25 回日本病態栄養学会年次学術集会, 京都, 2022/01/28 ~ 01/30

1. 梅邑 晃, 新田 浩幸, 二階 春香, 屋成 信吾, 高橋 真人, 石岡 秀基, 片桐 弘勝, 菅野 将史, 武田 大樹, 石垣 泰, 佐々木 章. 減量・代謝改善手術を施行した日本人高度肥満症患者肝生検の病理組織学的検討から見た新たな知見とその意義. 一般口演
2. 天野 怜, 肥田 圭介, 佐々木 章. 高齢者胃癌術後患者の術後 QOL における補中益気湯の有用性. シンポジウム

第 94 回日本胃癌学会総会, 横浜, 2022/03/02 ~ 03/04

1. Chiba T, Yoshida E, Kyuno T, Kawagishi R, Sato K, Kono T, Kimura T, Yonezawa H, Funato O, Kobayashi M, Takagane A. Conversion surgery for unresectable advanced gastric cancer. Poster
  2. 遠藤 史隆, 秋山 有史, 馬場 誠朗, 二階 春香, 肥田 圭介, 佐々木 章. Nivolumab を含んだ化学療法により長期奏功を得られている高齢者の Stage IV 進行胃癌の 1 例. ポスター
  3. 秋山 有史, 馬場 誠朗, 遠藤 史隆, 二階 春香, 藤澤 良介, 佐々木 教之, 梅邑 晃, 片桐 弘勝, 岩谷 岳, 大塚 幸喜, 新田 浩幸, 肥田 圭介, 佐々木 章. ロボット支援下腹腔鏡下幽門側胃切除術の治療成績. ポスター
  4. 西成 悠, 佐々木 章. MALT リンパ腫に合併した早期胃癌の一例. ポスター
  5. 二階 春香, 秋山 有史, 遠藤 史隆, 馬場 誠朗, 肥田 圭介, 佐々木 章. Nivolumab 療法の長期奏功により Conversion Surgery を施行した切除不能進行胃癌の一例. 一般口演
  6. 馬場 誠朗, 秋山 有史, 遠藤 史隆, 藤澤 良介, 佐々木 教之, 二階 春香, 梅邑 晃, 片桐 弘勝, 岩谷 岳, 大塚 幸喜, 新田 浩幸, 肥田 圭介, 佐々木 章. Side-Overlap 法を用いた腹腔鏡下噴門側胃切除術の治療成績. 一般口演
- \* 肥田 圭介. 口演 47 高齢者胃癌 2. 座長

第 58 回日本腹部救急医学会総会, 東京, 2022/03/24 ~ 03/25

1. 川島 到真, 石黒 保直, 藤社 勉, 阿部 薫, 吉田 徹. 保存的治療で改善されなかった門脈気腫を伴う腸閉塞の術後吻合部狭窄に対しステロイドが有効であった 1 例. 一般口演
2. 梅邑 晃, 新田 浩幸, 片桐 弘勝, 菅野 将史, 武田 大樹, 天野 怜, 菊地 晃司, 佐々木 章. 単孔式腹腔鏡下十二指腸空腸吻合術を施行した上腸間膜動脈症候群の 1 例. 一般口演

第 42 回日本肥満学会・第 39 回日本肥満症治療学会学術集会, 横浜, 2022/03/26 ~ 03/27

1. 宇夫方 直子, 梅邑 晃, 佐々木 章. 減量・代謝改善手術後に妊娠し、多職種によるサポートを行った軽度知的障害合併高度肥満症の一例. 一般口演
  2. 屋成 信吾, 梅邑 晃, 高橋 真人, 石岡 秀基, 二階 春香, 片桐 弘勝, 鈴木 信, 秋山 有史, 岩谷 岳, 大塚 幸喜, 新田 浩幸, 佐々木 章. 減量・代謝改善手術が閉塞性睡眠時無呼吸と隣  $\beta$  細胞機能に及ぼす影響. 一般口演
  3. 高橋 真人, 梅邑 晃, 屋成 信吾, 石岡 秀基, 二階 春香, 片桐 弘勝, 鈴木 信, 秋山 有史, 岩谷 岳, 大塚 幸喜, 新田 浩幸, 佐々木 章. 減量・代謝改善手術が脂肪酸代謝に与える影響. 一般口演
  4. 佐々木 章, 梅邑 晃, 二階 春香, 屋成 信吾, 高橋 真人, 石岡 秀基, 八重樫 瑞典, 馬場 誠朗, 片桐 弘勝, 鈴木 信, 秋山 有史, 新田 浩幸. 減量・代謝改善手術の導入要件と適応基準. 合同特別企画
  5. 小田 知靖, 梅邑 晃, 佐々木 章, 石垣 泰. 糖負荷試験でみた減量・代謝改善手術後のインスリン分泌能および耐糖能の推移. 一般口演
  6. 石岡 秀基, 梅邑 晃, 屋成 信吾, 高橋 真人, 二階 春香, 片桐 弘勝, 鈴木 信, 秋山 有史, 岩谷 岳, 大塚 幸喜, 新田 浩幸, 佐々木 章. 腹腔鏡下スリーブ状胃切除術後の胸腔容積の変化と呼吸機能改善効果. ポスター
  7. 二階 春香, 梅邑 晃, 片桐 弘勝, 鈴木 信, 秋山 有史, 岩谷 岳, 大塚 幸喜, 新田 浩幸, 佐々木 章. 腹腔鏡下スリーブ状胃切除術における非アルコール性脂肪性肝炎の炎症改善効果. ポスター
  8. 梅邑 晃, 新田 浩幸, 二階 春香, 屋成 信吾, 高橋 真人, 鈴木 信, 秋山 有史, 岩谷 岳, 大塚 幸喜, 石垣 泰, 佐々木 章. リピドミクス解析から見た減量・代謝改善手術の治療効果と肥満関連健康障害改善のメカニズム. ポスター
- \* 佐々木 章. 合同シンポジウム 2 肥満症治療のトランジション (内科から外科へ、外科から内科へ). 座長
- \* 佐々木 章. ランチョンセミナー 11 腸内細菌・腸内環境と代謝疾患 ~腸管恒常性維持における乳酸菌の役割~. 座長
- \* 梅邑 晃. JSTO 一般演題 (口演 5) その他の肥満合併症. 座長

## 第 111 回日本病理学会総会，神戸，2022/04/14～04/16

1. 伊藤 一洋，刑部 光正，杉本 亮，橋元 麻生，山田 峻，上杉 憲幸，大塚 幸喜，柳川 直樹，佐々木 章，菅井 有．転移及び非転移 Microsatellite stable 型大腸癌の癌と癌周囲間質の網羅的 messenger RNA, micro RNA 解析．一般口演
2. 伊藤 勇馬，刑部 光正，杉本 亮，柳川 直樹，大塚 幸喜，佐々木 章，松本 主之，鈴木 拓，菅井 有．大腸癌および癌近傍正常粘膜の messenger RNA と micro RNA の網羅的解析．ポスター
3. 橋元 麻生，伊藤 一洋，伊藤 勇馬，山田 峻，山田 範幸，杉本 亮，刑部 光正，上杉 憲幸，柳川 直樹，菅井 有．大腸篩状腺癌の CAF および EMT 関連蛋白発現解析に基づく予後についての検討．一般口演
4. 杉本 亮，上杉 憲幸，刑部 光正，伊藤 一洋，橋元 麻生，秋山 有史，柳川 直樹，佐々木 章，菅井 有．2,3 期進行胃癌における癌周囲間質の免疫組織化学的特徴および予後との関連性の検討．一般口演

## 第 122 回日本外科学会定期学術集会，熊本，2022/04/14～04/16

1. 遠藤 史隆，秋山 有史，馬場 誠朗，二階 春香，佐々木 教之，藤澤 良介，梅邑 晃，片桐 弘勝，岩谷 岳，大塚 幸喜，新田 浩幸，肥田 圭介，佐々木 章．当科における食道癌に対する Nivolumab の治療成績．デジタルポスター
  2. 秋山 有史，岩谷 岳，藤澤 良介，佐々木 教之，二階 春香，遠藤 史隆，馬場 誠朗，梅邑 晃，片桐 弘勝，大塚 幸喜，新田 浩幸，木村 祐輔，肥田 圭介，佐々木 章．食道癌に対する多職種チーム介入による合併症予防の取り組み．デジタルポスター
  3. 清川 真緒，川岸 涼子，大塚 観喜，口田 脩太，吉田 瑛司，及能 拓朗，佐藤 慧，河野 剛，千葉 丈広，木村 聡元，米澤 仁志，船渡 治，早川 善郎，小林 慎，高金 明典．「若年発症、同時性多発乳癌、家族歴より遺伝性乳癌卵巣癌症候群が疑われた一例」．一般口演
  4. 西成 悠，棚橋 洋太，石橋 正久，高橋 真人，加藤 久仁之，新田 浩幸，佐々木 章．上部消化管穿孔における当院の成績と術後経過方針の検討．デジタルポスター
  5. 石田 和茂，橋元 麻生，小松 英明，二瓶 哲，工藤 賢三，佐々木 章．当院薬剤師の保険薬局に対する意識調査．デジタルポスター
  6. 藤澤 良介，秋山 有史，田金 恵，二階 春香，遠藤 史隆，馬場 誠朗，梅邑 晃，片桐 弘勝，鈴木 信，岩谷 岳，大塚 幸喜，新田 浩幸，肥田 圭介，佐々木 章．食道扁平上皮癌に対する放射線照射後の悪性狭窄への緩和的金属ステント留置の安全性の検討．デジタルポスター
  7. 二階 春香，秋山 有史，鳥谷 洋右，遠藤 史隆，馬場 誠朗，梅邑 晃，片桐 弘勝，鈴木 信，岩谷 岳，大塚 幸喜，新田 浩幸，肥田 圭介，佐々木 章．当院における胃粘膜下腫瘍に対する治療選択の現状と課題．デジタルポスター
  8. 馬場 誠朗，秋山 有史，遠藤 史隆，二階 春香，梅邑 晃，片桐 弘勝，岩谷 岳，大塚 幸喜，新田 浩幸，肥田 圭介，佐々木 章．胃癌に対する胃全摘術後早期の Oral Nutritional Supplements の安全性の検討．デジタルポスター
  9. 八重樫 瑞典．Digital PCR による ctDNA モニタリングを用いた大腸癌遠隔転移切除症例の予後予測因子の検討．日本外科学会臨床研究助成、及び若手外科医のための臨床研究助成：成果発表・授賞式
  10. 武田 大樹，新田 浩幸，片桐 弘勝，菅野 将史，天野 怜，菊地 晃司，秋山 有史，岩谷 岳，大塚 幸喜，佐々木 章．UR-LA 痔瘻に対する新たな治療戦略．デジタルポスター
  11. 片桐 弘勝，新田 浩幸，菅野 将史，梅邑 晃，武田 大樹，長瀬 勇人，天野 怜，菊地 晃司，秋山 有史，鈴木 信，岩谷 岳，大塚 幸喜，佐々木 章．肝臓手術における Multilineage-Differentiating Stress-Enduring Cells (Muse 細胞) 動態の解析．ワークショップ
  12. 高橋 智子，岩谷 岳，八重樫 瑞典，木村 聡元，高清水 清治，有吉 佑，藤澤 良介，小泉 優香，遠藤 史隆，大塚 幸喜，佐々木 章．Circulating Tumor DNA を用いた大腸癌術後サーベイランスにおける CT 検査削減の可能性に関する研究．シンポジウム
- \* 佐々木 章．サージカルフォーラム 食道-周術期管理．司会

## 第 65 回日本糖尿病学会年次学術集会，神戸，2022/05/12～05/14

1. 吉田 絵里子，長谷川 豊，佐藤 まりの，外館 祐介，千田 愛，半谷 真理，小田 知晴，長澤 幹，本間 博之，梅邑 晃，佐々木 章，石垣 泰．持続血糖モニタリングを用いたスリーブ状胃切除術前後での血糖プロファイルの評価．一般口演
2. 佐々木 章，梅邑 晃，石垣 泰．肥満 2 型糖尿病に対する減量・代謝改善手術の現状と今後の展望．シンポジウム
3. 山口 崇，齋木 厚人，佐々木 章，内藤 剛，松原 久裕，横手 幸太郎，岡住 慎一，卯木 智，山本 寛，太田 正之，石垣 泰，笠間 和典，関 洋介，辻野 元祥，白井 厚治，宮崎 安弘，正木 孝幸，永山 大二，龍野 一郎．スリーブ状胃切除術後の糖尿病再発の実態と寄与因子（多施設共同研究 J-SMART サブ解析）．一般口演
4. 竹本 稔，林 愛子，田中 智洋，全 泰和，林 秀樹，笠間 和典，齋木 厚人，佐々木 章，岡住 慎一，松原 久裕，龍野 一郎．高齢者高度肥満症患者の減量・代謝改善手術に関する検討．一般口演
5. 渡邊 康弘，山口 崇，田中 翔，齋木 厚人，佐々木 章，内藤 剛，松原 久裕，横手 幸太郎，岡住 慎一，卯木 智，山本 寛，太田 正之，石垣 泰，笠間 和典，関 洋介，辻野 元祥，白井 厚治，宮崎 安弘，正木 孝幸，永山 大二，龍野 一郎．小児期発症の高度肥満症患者の特徴と減量・代謝改善手術の成績に関する検討．一般口演

## 第 59 回日本小児外科学会学術集会，東京，2022/05/19～05/21

1. 小林 めぐみ，平井 みさ子，矢内 俊裕，田金 恵，鈴木 信，佐々木 章．指導医不在期間に行った小児外科指導医育成のための対策．ワークショップ
2. 小林 めぐみ，平井 みさ子，田金 恵，鳥谷 由貴子，松本 敦，鈴木 信，佐々木 章．口腔と咽頭喉頭腔が遮断されていた，稀な小顎症・喉頭低形成の一例．一般口演

## 第 37 回日本臨床栄養代謝学会学術集会，横浜，2022/05/31～06/01

1. 秋山 有史，馬場 誠朗，遠藤 史隆，二階 春香，藤澤 良介，佐々木 教之，梅邑 晃，鈴木 信，佐々木 章．食道癌術後の早期経口摂取の安全性の検討．要望演題

2. 梅邑 晃, 秋山 有史, 鈴木 信, 佐々木 章. 高度肥満症患者に対する腹腔鏡下スリーブ状胃切除術後の口腔内・腸内細菌 叢の変化と減量・代謝改善効果. シンポジウム

#### 第 64 回日本老年医学会学術集会, 大阪, 2022/06/02 ~ 06/04

1. 竹本 稔, 林 愛子, 田中 智洋, 全 泰和, 林 秀樹, 笠間 和典, 齋木 厚人, 佐々木 章, 岡住 慎一, 龍野 一郎. 減量・代謝改善手術の高齢者高度肥満症患者に対する適応に関する検討. 一般口演

#### 第 20 回日本ヘルニア学会学術集会, 横浜, 2022/06/03 ~ 06/04

1. 菊地 晃司, 梅邑 晃, 天野 怜, 長瀬 勇人, 武田 大樹, 菅野 将史, 片桐 弘勝, 新田 浩幸, 佐々木 章. 若手外科医にとっての腹腔鏡下鼠径ヘルニア手術 (TAPP 法). ポスター
  2. 川村 英伸, 佐々木 章. Kugel 法と教育の展望. スポンサーシップシンポジウム
  3. 大山 健一, 加藤 久仁久, 川上 亜紀子, 杉村 好彦, 新田 浩幸, 佐々木 章. 再発ソケイヘルニア症例に対する TAPP 法の検討. パネルディスカッション
  4. 梅邑 晃, 新田 浩幸, 川村 英伸, 須藤 隆之, 藤原 久貴, 片桐 弘勝, 菅野 将史, 武田 大樹, 天野 怜, 菊地 晃司, 佐々木 章. 再発鼠径ヘルニアに対する TAPP 法による REPAIR の実践. パネルディスカッション
- \* 佐々木 章. 学生・初期研修医セッション. 座長

#### 第 34 回日本肝胆膵外科学会・学術集会, 松山, 2022/06/10 ~ 06/11

1. Ando T, Amano S, Takeda D, Umemura A, Kanno S, Katagiri H, Nitta H. Pancreaticoduodenectomy for bile duct cancer in patient with situs inversus totalis: report of rare case. Poster
  2. Kanno S, Nitta H, Katagiri H, Umemura A, Takeda D, Nagase Y, Ando T, Amano S, Kikuchi K, Sasaki A. Treatment outcomes for stage 1 pancreatic cancer. Poster
  3. Nitta H. Learn from the Experts -How we Approach Challenging Laparoscopic Major Hepatectomies-. Luncheon Seminar
  4. Nitta H, Katagiri H, Kanno S, Umemura A, Takeda D, Amano S, Ando T, Akiyama Y, Otsuka K, Sasaki A. Tips and pitfalls for laparoscopic repeated hepatic resection. Video Symposium
  5. Nitta H, Katagiri H, Kanno S, Umemura A, Takeda D, Ando T, Sasaki A. Comparison of the perioperative outcomes between pure laparoscopic donor hepatectomy and laparoscopy-assisted donor hepatectomy. Video Symposium
  6. Takeda D, Nitta H, Katagiri H, Kanno S, Umemura A, Nagase H, Amano S, Sasaki A. The significance of multidisciplinary therapy for UR-LA pancreatic cancer. Poster
  7. Umemura A, Nitta H, Takahara T, Hasegawa Y, Katagiri H, Kanno S, Takeda D, Nagase H, Ando T, Amano S, Kikuchi K, Sasaki A. Benefits of second stage laparoscopic pancreatectomy for borderline tumors in patients after laparoscopic sleeve gastrectomy due to severe obesity. Poster
- \* Nitta H. Educational Videos 1. Moderators

#### 第 47 回日本外科系連合学会学術集会, 盛岡, 2022/06/15 ~ 06/17

1. Hashimoto M, Kiyokawa M, Amano S, Matsui Y, Ishida K, Komatsu H, Sasaki A. Status of sentinel lymph node after NAC in cNO breast cancer patients. Joint Session
2. Iwasa T, Nitta H, Sudo T, Fujiwara H, Katagiri H, Kanno S, Umemura A, Takeda D, Amano S, Kikuchi K, Baba S, Akiyama Y, Iwaya T, Suzuki M, Otsuka K, Sasaki A. Indocyanine green fluorescence imaging during laparoscopic deroofing. Joint Session
3. Iwasaki T, Sudo T, Fujiwara H, Amano S, Tanahashi Y, Ikeda K, Sasaki A. A case of Mirizzi syndrome with fistula treated by laparoscopy. Joint Session
4. Kikuchi K, Katagiri H, Kanno S, Umemura A, Takeda D, Nagase H, Amano S, Nitta H, Sasaki A. Dynamics of Muse Cells in Liver Surgery. Joint Session
5. Kumagai H, Umemura A, Yanari S, Takahashi N, Nikai H, Katagiri H, Suzuki M, Akiyama Y, Iwaya T, Otsuka K, Nitta H, Sasaki A. Laparoscopic sleeve gastrectomy impacts on respiratory system in obese patients. Joint Session
6. Naoto Takahashi, Hiroyuki Nitta, Hirokatsu Katagiri. Difficulty predictors of laparoscopic hepatectomy for posterior sector tumors. Joint Session
7. Okutsu M, Akiyama Y, Baba S, Nikai H, Endo F, Umemura A, Katagiri H, Suzuki M, Iwaya T, Nitta H, Yanagawa N, Uesugi N, Sugai T, Koeda K, Sasaki A. Intra-abdominal metastasis of squamous cell carcinoma of unknown primary. Joint Session
8. 宇夫方 直子, 氏家 志穂, 高橋 一枝, 梅邑 晃, 佐々木 章. 減量・代謝改善手術後 3 年における体重再増加患者の頻度と特徴. 優秀演題
9. 遠藤 史隆, 秋山 有史, 馬場 誠朗, 二階 春香, 高橋 真人, 奥津 美里, 橋本 博明, 安保 弘子, 岩谷 岳, 新田 浩幸, 板持 広明, 佐々木 章. 当院における特定行為研修と研修終了後の看護師の役割の現状と課題. ワークショップ
10. 塩井 義裕, 石岡 秀基, 遠野 千尋. 人工心肺の送脱血カニューレ挿入による鼠径部腹壁癒痕ヘルニアを TAPP 法で修復した 1 例. 一般口演
11. 屋成 信吾, 小鹿 雅博, 佐々木 秀策, 佐佐 友寛, 佐藤 寿穂, 石田 馨, 井上 義博, 佐々木 章. 胃石の胸腔穿破を伴った食道破裂の 1 例. 一般口演
12. 岩谷 岳, 遠藤 史隆, 八重樫 瑞典, 佐々木 智子, 西塚 哲. 食道癌および大腸癌における ctDNA モニタリングの意義. ワークショップ
13. 佐々木 章. 減量・代謝改善手術の可能性. スポンサーシップシンポジウム
14. 川島 到真, 石黒 保直, 藤社 勉, 阿部 薫, 吉田 徹. 頸部リンパ節生検で腎細胞癌の転移と鑑別を要した甲状腺髄様癌の 1 例. 一般口演

15. 天野 総, 石田 和茂, 清川 真緒, 橋元 麻生, 松井 雄介, 小松 英明, 佐々木 章. 間質性肺炎のため硬膜外麻酔併用局所麻酔で手術しえた乳癌の1例. 一般口演
16. 藤澤 良介, 川村 英伸, 中村 侑哉, 佐々木 秀策, 藤井 仁志, 皆川 幸洋, 佐々木 章. 当施設における腹壁ヘルニアに対する Rives-Stoppa 法の経験. 一般口演
17. 八重樫 瑞典. 腹腔鏡下大腸癌手術 技術伝承と手術教育法. ランチョンセミナー
18. 八重樫 瑞典, 大塚 幸喜, 高清水 清治, 有吉 佑, 畑中 智貴, 平田 勇一郎, 伊藤 浩平, 佐々木 智子, 梅邑 晃, 片桐 弘勝, 秋山 有史, 鈴木 信, 岩谷 岳, 新田 浩幸, 佐々木 章. 当科における腹腔鏡下結腸右半切除を安全に行うための手術手技. ビデオシンポジウム
19. 文永 徹, 棚橋 洋太, 西成 悠, 石橋 正久, 新田 浩幸, 佐々木 章. ストレス多血症に起因する上腸間膜静脈血栓症の一例. 一般口演
20. 梅邑 晃. 腹腔鏡下スリーブ状胃切除術後の口腔内・腸内細菌叢の変化と減量・代謝改善効果. ランチョンセミナー
21. 梅邑 晃, 新田 浩幸, 片桐 弘勝, 菅野 将史, 武田 大樹, 天野 怜, 馬場 誠朗, 秋山 有史, 岩谷 岳, 鈴木 信, 大塚 幸喜, 佐々木 章. さまざまな他疾患で手術を要する高度肥満症患者に対する治療戦略. ワークショップ
22. 梅邑 晃, 新田 浩幸, 片桐 弘勝, 菅野 将史, 武田 大樹, 天野 怜, 須藤 隆之, 藤原 久貴, 菊地 晃司, 馬場 誠朗, 秋山 有史, 岩谷 岳, 鈴木 信, 大塚 幸喜, 佐々木 章. 教室における臓器横断的な reduced port surgery の実践. ビデオシンポジウム
23. 梅邑 晃, 新田 浩幸, 高橋 真人, 熊谷 秀基, 棚橋 洋太, 片桐 弘勝, 菅野 将史, 武田 大樹, 安藤 太郎, 天野 怜, 石垣 泰, 佐々木 章. 腹腔鏡下スリーブ状胃切除術の治療効果の妥当性をどこに求めるか?. シンポジウム
24. 天野 怜, 菊地 晃司, 長瀬 勇人, 武田 大樹, 梅邑 晃, 菅野 将史, 片桐 弘勝, 鈴木 信, 秋山 有史, 岩谷 岳, 大塚 幸喜, 新田 浩幸, 佐々木 章. 腹腔動脈圧迫症候群併存の膵頭十二指腸切除術後出血の一例. 一般口演
25. 秋山 有史, 馬場 誠朗, 二階 春香, 遠藤 史隆, 八重樫 瑞典, 梅邑 晃, 片桐 弘勝, 鈴木 信, 岩谷 岳, 新田 浩幸, 肥田 圭介, 佐々木 章. T4 食道癌に対する DCF による導入化学療法後の胸腔鏡下 conversion surgery. ビデオシンポジウム
26. 二階 春香, 梅邑 晃, 屋成 信吾, 高橋 真人, 片桐 弘勝, 鈴木 信, 秋山 有史, 岩谷 岳, 大塚 幸喜, 新田 浩幸, 佐々木 章. 腹腔鏡下スリーブ状胃切除術が閉塞性睡眠時無呼吸と膵β細胞に及ぼす効果. シンポジウム
27. 馬場 誠朗, 秋山 有史, 鳥谷 洋右, 二階 春香, 八重樫 瑞典, 遠藤 史隆, 梅邑 晃, 片桐 弘勝, 鈴木 信, 岩谷 岳, 大塚 幸喜, 新田 浩幸, 肥田 圭介, 佐々木 章. 教室における内視鏡を併用した腹腔鏡手術の現状と今後の可能性. ワークショップ
- \* 八重樫 瑞典. 一般口演 18 結腸・直 3. 座長
- \* 鈴木 信, 石橋 広樹. ディベート セッション 4 「小児鼠径ヘルニアの手術」. 座長

## 第 22 回日本抗加齢医学会総会, 大阪, 2022/06/17 ~ 06/19

1. 佐々木 章. 肥満 2 型糖尿病の外科的治療の新展開. シンポジウム

## 日本睡眠学会第 47 回定期学術集会, 京都, 2022/06/30 ~ 07/01

1. 山口 貴之, 細川 敬輔, 細川 里絵, 西村 愛由美, 浅沼 和枝, 千葉 利江, 豊巻 世津子, 佐藤 光穂, 佐藤 光奈穂, 西島 嗣生, 梅邑 晃, 佐々木 章. 高度肥満に合併する閉塞性睡眠時無呼吸症候群に対する減量・代謝改善手術 2 年後の有効性に関する検討. 一般口演

## 第 30 回日本乳癌学会学術総会, 横浜, 2022/06/30 ~ 07/02

1. 小松 英明, 石田 和茂, 松井 雄介, 天野 総, 橋元 麻生, 清川 真緒, 佐々木 章. 当院におけるホルモン受容体陽性転移再発乳癌に対する CDK4/6 阻害薬の治療成績. e-Poster
2. 有末 篤弘, 玉澤 佳之. 乳腺扁平上皮癌の 1 例. e-Poster
3. 橋元 麻生, 天野 総, 石田 和茂, 小松 英明, 佐々木 章. 乳癌術前化学療法における効果予測因子としての白血球数および分画の臨床的意義の検討. e-Poster
4. 石田 和茂, 橋元 麻生, 天野 総, 小松 英明, 二瓶 哲, 工藤 健三, 佐々木 章. 当院薬剤師の保険薬局に対する意識調査. e-Poster
5. 天野 総, 小松 英明, 橋元 麻生, 石田 和茂, 佐々木 章. 腋窩リンパ節転移の有無と臨床病理学的特徴の検討. e-Poster

## 第 77 回日本消化器外科学会総会, 横浜, 2022/07/20 ~ 07/22

1. 菊地 晃司, 片桐 弘勝, 菅野 将史, 梅邑 晃, 武田 大樹, 長瀬 勇人, 天野 怜, 新田 浩幸, 佐々木 章. 肝臓手術における Muse 細胞動態. 一般口演
2. 橋元 麻生, 山田 範幸, 上杉 憲幸, 刑部 光正, 柳川 直樹, 八重樫 瑞典, 大塚 幸喜, 佐々木 章, 菅井 有. 大腸癌転移リンパ節での癌微小環境下におけるタンパク発現に関する病理学的検討. 一般口演
3. 秋山 有史, 馬場 誠朗, 遠藤 史隆, 二階 春香, 鈴木 信, 岩谷 岳, 大塚 幸喜, 新田 浩幸, 肥田 圭介, 佐々木 章. 食道切除術に対する術後肺炎予防のための周術期管理. 一般口演
4. 天野 怜, 菊地 晃司, 長瀬 勇人, 武田 大樹, 梅邑 晃, 菅野 将史, 片桐 弘勝, 新田 浩幸, 佐々木 章. Covered Stent が有効であった膵頭十二指腸切除術後出血の一例. 一般口演
5. 武田 大樹, 新田 浩幸, 片桐 弘勝, 菅野 将史, 梅邑 晃, 長瀬 勇人, 天野 怜, 菊地 晃司, 屋成 信吾, 佐々木 章. 当科の UR-LA 膵癌に対する治療戦略. 一般口演
6. 片桐 弘勝, 新田 浩幸, 菅野 将史, 梅邑 晃, 武田 大樹, 長瀬 勇人, 天野 怜, 菊地 晃司, 屋成 信吾, 佐々木 章. 当科における生体肝移植後胆道狭窄に対する現状と対策. 一般口演
- \* 新田 浩幸. 一般演題 109 肝臓: 転移性肝癌 1. 座長



#### 第 76 回日本食道学会学術集会, 東京, 2022/09/24 ~ 09/26

1. 馬場 誠朗, 秋山 有史, 遠藤 史隆, 藤澤 良介, 佐々木 教之, 二階 春香, 岩谷 岳, 新田 浩幸, 肥田 圭介, 佐々木 章. 食道癌に対する Nivolumab の使用経験. ポスター
2. 秋山 有史, 馬場 誠朗, 遠藤 史隆, 二階 春香, 佐々木 教之, 藤澤 良介, 梅邑 晃, 岩谷 岳, 肥田 圭介, 佐々木 章. 当科におけるロボット支援下食道切除術の安全性の検討. ポスター
3. 岩谷 岳, 遠藤 史隆, 藤澤 良介, 西塚 哲. 食道癌患者における Nonactionable 変異を用いた ctDNA モニタリング. ワークショップ
4. 奥津 美里, 秋山 有史, 馬場 誠朗, 二階 春香, 遠藤 史隆, 佐々木 教之, 藤澤 良介, 岩谷 岳, 肥田 圭介, 佐々木 章. 若年男性に発生した Killian Jamieson 憩室の 1 例. ポスター
5. 遠藤 史隆, 岩谷 岳, 秋山 有史, 馬場 誠朗, 二階 春香, 木村 祐輔, 佐々木 章, 板持 広明. Nivolumab 投与後 Hyper progression disease を呈した食道癌の一症例. ポスター

#### 第 81 回日本癌学会学術総会, 横浜, 2022/09/29 ~ 2022/10/01

1. 岩谷 岳, 佐々木 智子, 八重樫 瑞典, 西塚 哲. 高感度 ctDNA 検査を用いた大腸癌術後サーベイランスシステム. 一般口演

#### 第 14 回日本 AcuteCareSurgery 学会学術集会, 宮崎, 2022/09/30 ~ 10/01

1. 片桐 弘勝, 新田 浩幸, 菅野 将史, 梅邑 晃, 武田 大樹, 安藤 太郎, 天野 怜, 佐々木 章. 肝胆膵領域手術における出血制御. 一般口演

#### 第 44 回日本臨床栄養学会総会・第 43 回日本臨床栄養協会総会 第 20 回大連合大会, 盛岡, 2022/10/07 ~ 10/09

1. 宇夫方 直子, 秋山 有史, 馬場 誠朗, 二階 春香, 遠藤 史隆, 佐々木 章. 胃癌術後 6 か月の体重減少率と食事・間食の摂取エネルギー量との検討. 一般口演
  2. 佐々木 章. 外科と栄養 未来のために今何をすべきか. 学会会長講演
  3. 小田 知靖, 石垣 泰, 八代 諭, 長澤 幹, 武部 典子, 梅邑 晃, 佐々木 章. 減量・代謝改善手術後 3 年目までの糖負荷試験によるインスリン分泌能および耐糖能の推移. 一般口演
  4. 西成 悠. エドルミズ使用における切除不能進行胃癌患者の栄養状態の変化. 一般口演
  5. 大山 健一, 加藤 久仁之, 川上 亜紀子, 杉村 好彦, 新田 浩幸, 佐々木 章. 閉塞性左側結腸癌に対する経肛門イレウス管留置と大腸ステント留置の比較. 一般口演
  6. 田金 恵, 秋山 有史, 馬場 誠朗, 二階 春香, 遠藤 史隆, 田村 明生, 家子 義郎, 八重樫 瑞典, 梅邑 晃, 片桐 弘勝, 鈴木 信, 岩谷 岳, 新田 浩幸, 佐々木 章. CT 値を用いた骨格筋の脂肪浸潤解析による食道癌術前化学療法中のサルコペニアの評価. 一般口演
  7. 馬場 誠朗, 秋山 有史, 宇夫方 直子, 二階 春香, 遠藤 史隆, 八重樫 瑞典, 梅邑 晃, 片桐 弘勝, 鈴木 信, 岩谷 岳, 新田 浩幸, 肥田 圭介, 佐々木 章. 胃癌に対する腹腔鏡下噴門側胃切術後の体重減少率と摂取エネルギー量の検討. 一般口演
  8. 八代 諭, 小田 知靖, 長澤 幹, 武部 典子, 梅邑 晃, 佐々木 章, 石垣 泰. マジンドールによる体重減少効果と臨床パラメーター、安全性に関する検討. 一般口演
  9. 片桐 弘勝, 新田 浩幸, 菅野 将史, 梅邑 晃, 武田 大樹, 安藤 太郎, 天野 怜, 平田 勇一郎, 口田 脩太, 佐々木 章. 当科における術前重症例に対する肝移植の栄養管理. シンポジウム
- \* 佐々木 章. SP 特別企画 感染症研究におけるメタボロミクス. 座長
  - \* 新田 浩幸. JS3 ジョイントシンポジウム 3. 座長
  - \* 梅邑 晃. 一般演題 1 術前・術後の栄養管理. 座長
  - \* 片桐 弘勝. 一般演題 11 肥満症・メタボリックシンドローム. 座長

#### 第 58 回日本移植学会総会, 名古屋, 2022/10/13 ~ 10/15

1. 片桐 弘勝, 新田 浩幸, 菅野 将史, 梅邑 晃, 武田 大樹, 安藤 太郎, 天野 怜. ABO 不適合生体肝移植における脾臓摘出・血漿交換を施行しないリツキシマブと高用量γグロブリンによる免疫抑制管理. 一般口演
2. 武田 大樹, 新田 浩幸, 片桐 弘勝, 菅野 将史, 梅邑 晃, 安藤 太郎, 天野 怜, 佐々木 章. 脳死肝移植 18 年後に発症した肝細胞癌に対し胸腔鏡下に切除した 1 例. 一般口演
3. 梅邑 晃, 新田 浩幸, 高原 武志, 片桐 弘勝, 菅野 将史, 武田 大樹, 安藤 太郎, 天野 怜, 菊地 晃司, 木村 拓, 佐々木 章. 特発性門脈圧亢進症を合併した肝外門脈閉塞症に対して生体肝移植術と二期脾摘術を施行した一例. 一般口演

#### 第 60 回日本癌治療学会学術集会, 神戸, 2022/10/20 ~ 10/22

1. 武田 大樹, 新田 浩幸, 片桐 弘勝, 菅野 将史, 梅邑 晃, 安藤 太郎, 天野 怜, 岩佐 友寛, 琴畑 洋介, 八重樫 瑞典, 馬場 誠朗, 石田 和茂, 秋山 有史, 佐々木 章. やむなく導入した 2nd line 治療が著効した膵臓癌 2 症例の経験. 一般口演
- \* 新田 浩幸. 一般口演 17 肝臓 手術療法 1. 座長
  - \* 鈴木 信, 米田 光宏. 臓器別ワークショップ 22 「小児がんに対する免疫療法の現状」. 座長

#### 第 38 回日本小児外科学会秋季シンポジウム, 岡山, 2022/10/27 ~ 10/29

1. 小山 亮太, 田金 恵, 小林 めぐみ, 鈴木 信, 佐々木 章. 当院で経験した先天性嚢胞性肺疾患の経過と治療方針. 一般口演
2. 小林 めぐみ, 田金 恵, 小山 亮太, 鈴木 信, 佐々木 章. 腹腔鏡補助下胃瘻造設術の定型化と技術継承. 一般口演
3. 田金 恵, 小山 亮太, 小林 めぐみ, 鈴木 信, 佐々木 章. 当院で経験した Covered cloacal exstrophy の一男児例. 一般口演

## 第 30 回日本消化器関連学会週間 (JDDW2022), 福岡, 2022/10/27 ~ 10/30

1. Kikuchi K, Katagiri H, Amano S, Nagase H, Takeda D, Umemura A, Kannno S, Nitta H, Sasaki A. Mobilization of Multilineage-Differentiating Stress-Enduring Cells into the peripheral blood in Liver Surgery. Digital Poster
  2. 秋山 有史, 馬場 誠朗, 遠藤 史隆, 二階 春香, 八重樫 瑞典, 梅邑 晃, 片桐 弘勝, 鈴木 信, 岩谷 岳, 新田 浩幸, 肥田 圭介, 佐々木 章. ロボット支援下腹腔鏡下幽門側胃切除術の短期治療成績. デジタルポスター
  3. 菅野 将史, 新田 浩幸, 片桐 弘勝, 梅邑 晃, 武田 大樹, 安藤 太郎, 天野 怜, 菊地 晃司, 佐々木 章. 当科における十二指腸腫瘍に対する治療戦略. デジタルポスター
  4. 馬場 誠朗, 秋山 有史, 遠藤 史隆, 藤澤 良介, 佐々木 教之, 二階 春香, 八重樫 瑞典, 梅邑 晃, 片桐 弘勝, 鈴木 信, 岩谷 岳, 新田 浩幸, 肥田 圭介, 佐々木 章. 食道癌に対するロボット支援胸腔鏡下食道切除術の導入期における成績. デジタルポスター
  5. 梅邑 晃, 佐々木 章, 新田 浩幸, 滝川 康裕, 柿坂 啓介, 阿部 珠美, 二階 春香, 高橋 真人, 西谷 匡央, 石田 和之, 菅井 有. 術前減量とメタボリックサージェリーによって明らかとなったIndeterminable-NASHの概念と病理組織学的及び臨床的特徴について. デジタルポスター
  6. 八重樫 瑞典, 高清水 清治, 畑中 智貴, 平田 勇一郎, 馬場 誠朗, 梅邑 晃, 片桐 弘勝, 秋山 有史, 新田 浩幸, 佐々木 章. 当科における憩室炎に伴う S 状結腸膀胱瘻に対する腹腔鏡下手術の治療戦略. 一般口演
- \* 佐々木 章. 胃 (代謝・栄養)2. 座長
  - \* 新田 浩幸. 肝臓 (内視鏡下手術 (悪性))1. 座長

## 第 60 回全国自治体病院学会 in 沖縄, 那覇, 2022/11/10 ~ 11/11

1. 塩井 義裕, 熊谷 秀基, 田村 大地, 神崎 成子, 小野寺 淳, 佐藤 正子, 伊勢 克枝, 部 寿樹, 佐藤 一. 岩手県南の小規模県立病院における救急応需率向上への取り組み~救急車応需率 9 割、救急車受け入れ年間 1000 台への道~. ポスター

## 第 84 回日本臨床外科学会総会, 福岡, 2022/11/24 ~ 11/26

1. 秋山 有史, 馬場 誠朗, 二階 春香, 佐々木 教之, 藤澤 良介, 遠藤 史隆, 八重樫 瑞典, 梅邑 晃, 片桐 弘勝, 鈴木 信, 岩谷 岳, 新田 浩幸, 肥田 圭介, 佐々木 章. 胃癌に対するロボット支援下幽門側胃切除術の定型化と治療成績. 要望演題
  2. 秋山 有史, 馬場 誠朗, 二階 春香, 佐々木 教之, 藤澤 良介, 遠藤 史隆, 八重樫 瑞典, 梅邑 晃, 片桐 弘勝, 鈴木 信, 岩谷 岳, 新田 浩幸, 肥田 圭介, 佐々木 章. 食道癌術後期における多職種介入による ERAS 管理の取り組み. 要望演題
  3. 川村 英伸, 小林 裕司, 橋元 麻生, 瀬川 武紀, 藤社 勉, 阿部 薫, 佐々木 章. 成人鼠径部ヘルニア再発例に対する TAPP 法の有用性. ワークショップ
  4. 馬場 誠朗, 秋山 有史, 烏谷 洋右, 二階 春香, 八重樫 瑞典, 遠藤 史隆, 梅邑 晃, 片桐 弘勝, 鈴木 信, 岩谷 岳, 新田 浩幸, 肥田 圭介, 佐々木 章. 教室における胃粘膜下腫瘍に対する LECS の手術成績. ワークショップ
  5. 馬場 誠朗, 秋山 有史, 宇夫方 直子, 二階 春香, 遠藤 史隆, 八重樫 瑞典, 梅邑 晃, 片桐 弘勝, 鈴木 信, 岩谷 岳, 新田 浩幸, 肥田 圭介, 佐々木 章. 術後食事摂取状況からみた腹腔鏡下噴門側胃切除術後の体重減少率の検討. ワークショップ
  6. 梅邑 晃, 佐々木 章, 新田 浩幸, 二階 春香, 高橋 真人, 熊谷 秀基, 棚橋 洋太, 片桐 弘勝, 菅野 将史, 武田 大樹, 安藤 太郎, 八重樫 瑞典, 馬場 誠朗, 秋山 有史, 鈴木 信. 減量・代謝改善手術後の縦隔内脂肪量変化と心機能改善効果について. パネルディスカッション
  7. 八重樫 瑞典, 高清水 清治, 畑中 智貴, 熊谷 秀基, 菅野 正紀, 馬場 誠朗, 梅邑 晃, 片桐 弘勝, 秋山 有史, 鈴木 信, 新田 浩幸, 佐々木 章. 当科の腹腔鏡下直腸癌手術における偶発症の経験. ワークショップ
  8. 鈴木 信, 田金 恵, 小山 亮太, 小林 めぐみ, 八重樫 瑞典, 馬場 誠朗, 梅邑 晃, 片桐 弘勝, 秋山 有史, 新田 浩幸, 佐々木 章. Reduced Port Surgery へのこだわりと牽引糸を用いた術野展開の工夫. ワークショップ
- \* 新田 浩幸. ビデオワークショップ 04 腹腔鏡下再肝切除の工夫と治療成績. 司会
  - \* 馬場 誠朗. 一般演題 (示説)123 十二指腸:悪性腫瘍②. 座長
  - \* 梅邑 晃. 一般演題 (示説)133 大腸 手術・腸重積. 座長
  - \* 片桐 弘勝. 一般演題 (示説)55 肝⑥. 座長
  - \* 鈴木 信. 一般示説 253 「小児:術後機能・その他」. 座長

## 第 43 回日本肥満学会・第 40 回日本肥満症治療学会学術集会, 那覇, 2022/12/02 ~ 12/03

1. 宇夫方 直子, 梅邑 晃, 依 万里子, 及川 由奈, 高橋 一枝, 佐々木 章. 減量・代謝改善手術において管理栄養士に求められる役割. シンポジウム
  2. 金野 寛史, 八代 諭, 小田 知靖, 長澤 幹, 梅邑 晃, 佐々木 章, 石垣 泰. マジンドールによる体重減少効果と臨床パラメーター、安全性に関する検討. シンポジウム
  3. 熊谷 秀基, 梅邑 晃, 二階 春香, 高橋 真人, 八重樫 瑞典, 馬場 誠朗, 片桐 弘勝, 鈴木 信, 秋山 有史, 新田 浩幸, 佐々木 章. 腹腔鏡下スリープ状胃切除術前後における血清タンパク質の変動ープロテオーム解析を用いた検討ー. オンデマンド
  4. 高橋 真人, 佐々木 章, 梅邑 晃, 二階 春香. 減量・代謝改善手術が脂肪酸代謝に与える影響. 一般口演
  5. 佐々木 章. 減量・代謝改善手術における診療・研究の新展開. シンポジウム
- \* 佐々木 章. イブニングセミナー 5. 座長
  - \* 佐々木 章. シンポジウム 1 高度肥満症に対するチームアプローチ:各職種の立場から. 座長
  - \* 梅邑 晃. 一般演題 (口演 8) ホルモン・その他. 座長

## 第 35 回日本内視鏡外科学会総会, 名古屋, 2022/12/08 ~ 12/10

1. 塩井 義裕, 熊谷 秀基, 川島 到真, 遠野 千尋, 佐藤 一. 結腸癌に対する体内吻合を用いた腹腔鏡下バイパス手術の導入. ミニオーラル

2. 奥津 美里, 八重樫 瑞典, 高清水 清治, 畑中 智貴, 熊谷 秀基, 梅邑 晃, 馬場 誠朗, 片桐 弘勝, 鈴木 信, 秋山 有史, 新田 浩幸, 肥田 圭介, 佐々木 章. 腹腔鏡下横行結腸切除後間膜欠損による内ヘルニアの一例. ミニオーラル
  3. 高清水 清治, 八重樫 瑞典, 奥津 美里, 熊谷 秀基, 畑中 智貴, 馬場 誠朗, 梅邑 晃, 片桐 弘勝, 鈴木 信, 秋山 有史, 新田 浩幸, 肥田 圭介, 佐々木 章. サクションボール・コアギュレーターを駆使した腹腔鏡下大腸癌手術. 一般口演
  4. 秋山 有史, 馬場 誠朗, 二階 春香, 佐々木 教之, 藤澤 良介, 遠藤 史隆, 八重樫 瑞典, 梅邑 晃, 片桐 弘勝, 鈴木 信, 岩谷 岳, 新田 浩幸, 肥田 圭介, 佐々木 章. 腹腔鏡下胃全摘術後 Overlap 再建法の工夫と手術成績. ミニオーラル
  5. 秋山 有史, 馬場 誠朗, 二階 春香, 佐々木 教之, 藤澤 良介, 遠藤 史隆, 八重樫 瑞典, 梅邑 晃, 片桐 弘勝, 鈴木 信, 岩谷 岳, 新田 浩幸, 肥田 圭介, 佐々木 章. ロボット支援下食道切除術の手術成績の検討. ミニオーラル
  6. 新田 浩幸, 片桐 弘勝, 菅野 将史, 梅邑 晃, 武田 大樹, 天野 怜, 安藤 太郎, 秋山 有史. 腹腔鏡下肝切除術の適応と手術手技の変遷. シンポジウム
  7. 菅野 将史, 新田 浩幸, 片桐 弘勝, 梅邑 晃, 武田 大樹, 安藤 太郎, 天野 怜, 佐々木 章. 胆嚢癌に対する腹腔鏡手術を中心とした治療アルゴリズム. ワークショップ
  8. 川島 到真, 熊谷 秀基, 塩井 義裕, 遠野 千尋, 佐藤 一. メッシュプラグを用いた腹腔鏡下閉鎖ヘルニア修復術 6 例の短期治療成績. ミニオーラル
  9. 馬場 誠朗, 秋山 有史, 鳥谷 洋右, 二階 春香, 八重樫 瑞典, 遠藤 史隆, 梅邑 晃, 片桐 弘勝, 鈴木 信, 岩谷 岳, 新田 浩幸, 肥田 圭介, 佐々木 章. 教室における胃粘膜下腫瘍に対する腹腔鏡下手術の現状. 一般口演
  10. 梅邑 晃, 佐々木 章, 新田 浩幸, 二階 春香, 高橋 真人, 熊谷 秀基, 棚橋 洋太, 片桐 弘勝, 菅野 将史, 武田 大樹, 安藤 太郎, 天野 怜, 鈴木 信, 馬場 誠朗, 秋山 有史. 中長期的な糖尿病寛解予測スコアリングシステムの比較. シンポジウム
  11. 畑中 智貴, 八重樫 瑞典, 高清水 清治, 熊谷 秀基, 奥津 美里, 馬場 誠朗, 梅邑 晃, 片桐 弘勝, 鈴木 信, 秋山 有史, 新田 浩幸, 肥田 圭介, 佐々木 章. 腹腔鏡下回盲部切除のポート挿入時に膀胱損傷を来した尿膜間遺残を認めた 1 例. ミニオーラル
  12. 八重樫 瑞典, 高清水 清治, 畑中 智貴, 熊谷 秀基, 菅野正紀, 馬場 誠朗, 梅邑 晃, 片桐 弘勝, 秋山 有史, 鈴木 信, 新田 浩幸, 佐々木 章. 当科におけるロボット支援手術と腹腔鏡手術の術者教育の現状と地方特有の問題. ワークショップ
  13. 武田 大樹, 新田 浩幸, 片桐 弘勝, 菅野 将史, 梅邑 晃, 安藤 太郎, 天野 怜, 岩佐 友寛, 琴畑 洋介, 八重樫 瑞典, 馬場 誠朗, 秋山 有史, 鈴木 信, 佐々木 章. 膵癌における初期治療前の審査腹腔鏡の意義. ミニオーラル
  14. 片桐 弘勝, 新田 浩幸, 菅野 将史, 梅邑 晃, 武田 大樹, 安藤 太郎, 天野 怜, 琴畑 洋介, 岩佐 友寛, 八重樫 瑞典, 馬場 誠朗, 秋山 有史, 鈴木 信, 佐々木 章. 術前肝床側 T1b 胆嚢癌疑い症例における腹腔鏡下胆嚢床切除術. 一般口演
  15. 鈴木 信, 田金 恵, 小山 亮太, 小林 めぐみ, 八重樫 瑞典, 馬場 誠朗, 梅邑 晃, 片桐 弘勝, 秋山 有史, 新田 浩幸, 佐々木 章. 高難度小児内視鏡外科手術の導入の現状と問題点. 一般口演
- \* 佐々木 章. シンポジウム 1 減量・代謝改善手術におけるエビデンス. 司会
  - \* 新田 浩幸. パネルディスカッション 21 腹腔鏡肝亜区域切除の至適アプローチ: 肝門アプローチ vs 肝内アプローチ. 司会
  - \* 梅邑 晃. ワークショップ 26 腹腔鏡スリーブ状胃切除術: 手技の工夫と成績. 司会

## 講演会・研究会・セミナー

### 第 96 回大腸癌研究会, 東京, 2022/01/20 ~ 01/21

1. 橋元 麻生, 上杉 憲幸, 刑部 光正, 柳川 直樹, 大塚 幸喜, 梶原 由規, 上野 秀樹, 佐々木 章, 菅井 有. Stage II 大腸癌浸潤先進部癌間質における CAF および EMT 関連蛋白発現に関する病理学的検討. 一般口演
  2. 大塚 幸喜. モーニングセミナー A 腹腔鏡下結腸切除術における苦手分野の克服. セミナー
- \* 大塚 幸喜. 示説Ⅲ-4 直腸高難度手術 (ESD, TaTME, ISR, 側方郭清, TPE など) の適応と手技. 座長

### 第 212 回日本消化器病学会東北支部例会・第 167 回日本消化器内視鏡学会東北支部例会, 仙台, 2022/02/04 ~ 02/05

1. 奥津 美里, 馬場 誠朗, 秋山 有史, 二階 春香, 杉本 亮, 遠藤 史隆, 石田 和茂, 小松 英明, 岩谷 岳, 新田 浩幸, 大塚 幸喜, 上杉 憲幸, 杉村 好彦, 菅井 有, 肥田 圭介, 佐々木 章. 消化管転移をきたした乳癌の 2 例. 一般口演
  2. 梅邑 晃, 新田 浩幸, 片桐 弘勝, 菅野 将史, 武田 大樹, 長瀬 勇人, 天野 怜, 菊地 晃司, 屋成 信吾, 佐々木 章. 減量・代謝改善手術後に腹腔鏡下膵体尾部切除術を施行した膵内分泌腫瘍の 1 例. 一般口演
  3. 片桐 弘勝, 新田 浩幸, 菅野 将史, 梅邑 晃, 武田 大樹, 長瀬 勇人, 天野 怜, 菊地 晃司, 佐々木 章. 下大静脈右縁肝掌上操作を用いた前方アプローチによる腹腔鏡下肝右葉切除. 一般口演
- \* 新田 浩幸. 合同シンポジウム 1 消化器外科低侵襲手術の最前線. 司会
  - \* 馬場 誠朗. 一般演題 38 「胃 8」. 座長
  - \* 梅邑 晃. 一般演題 膵臓 2. 座長

## 第 25 回アディボサイエンスシンポジウム, 大阪, 2022/02/11

\* 佐々木 章. スポンサーシンポジウム 消化管制御によるエネルギー代謝調節と減量 (代謝) 手術. 座長

## 第 19 回日本乳癌学会東北地方会, Live-Web 開催, 2022/03/01 ~ 03/06

1. 橋元 麻生, 天野 総, 石田 和茂, 小松 英明, 上杉 憲幸, 菅井 有, 佐々木 章. 診断に苦慮し、急速な臨床経過をとった巨大左乳房腫瘍の一例. 一般口演
2. 石田 和茂, 橋元 麻生, 天野 総, 松井 雄介, 小松 英明, 宇佐美 伸, 大貫 幸二, 佐々木 章. Germline PALB2 mutation を有する ER 陽性 HER2 陽性進行再発乳癌の late line で Gemcitabine + Carboplatin 療法が奏功した 1 例. 一般口演
3. 天野 総, 橋元 麻生, 松井 雄介, 石田 和茂, 小松 英明, 佐々木 章. 当院における de novo Stage IV 乳癌の原発巣切除についての検討. 一般口演
4. 有末 篤弘, 玉澤 佳之. 乳腺神経内分泌癌の 1 例. 一般口演

## 東北小児消化器病研究会, 宮城, 2022/03/19

1. 小林 めぐみ, 田金 恵, 鈴木 信, 佐々木 章. 難治性便秘症に対し人工肛門を造設し排泄指導にて改善し得た 1 例. 一般口演

## 第 13 回肥満症総合治療セミナー, 千葉, 2022/05/07 ~ 05/08

\* 佐々木 章. 外科治療を考えると. 司会

## 第 33 回内視鏡外科フォーラム in 仙台, 仙台, 2022/05/21

1. 新田 浩幸. 内視鏡外科手術の最前線~エキスパートに学ぶデバイス選択~. ランチョンセミナー
- \* 佐々木 章. ランチョンセミナー. 座長

## 技術情報協会セミナー, Web 開催, 2022/06/10

1. 佐々木 章. 腹腔鏡下手術におけるトラブルシューティング. 講演

## 第 96 回日本小児外科学会東北地方会, 仙台, 2022/06/18

1. 小山 亮太, 田金 恵, 小林 めぐみ, 鈴木 信, 佐々木 章. 異所性低形成腎および尿管異所開口による遺尿の 1 女児例. 一般口演

## 第 181 回東北外科集談会, 仙台, 2022/06/18

1. 大塚 観喜, 八重樫 瑞典, 高清水 清治, 畑中 智貴, 菅野 正紀, 奥津 美里, 片桐 弘勝, 鈴木 信, 秋山 有史, 新田 浩幸, 佐々木 章. 腹腔鏡下結腸切除後間膜欠損による内ヘルニアの一例. 一般口演
2. 清川 真緒, 石田 和茂, 天野 総, 川崎 朋範, 上杉 憲幸, 菅井 有, 佐々木 章. 画像診断と病理診断の解難を理由に再生検を行い手術回避し得た乳腺症の 1 例. 一般口演
3. 菅野 正紀, 八重樫 瑞典, 大塚 観喜, 奥津 美里, 熊谷 秀基, 畑中 智貴, 高清水 清治, 秋山 有史, 新田 浩幸, 佐々木 章. 大腸癌化学療法中に人工肛門拳上部が穿孔した 1 例. 一般口演
4. 口田 脩太, 佐藤 慧, 吉田 瑛司, 川岸 涼子, 千葉 丈広, 木村 聡元, 船渡 治, 小林 慎, 高金 明典, 佐々木 章. 胃 MALT リンパ腫が併存した胃癌と下行結腸癌を腹腔鏡下に切除した 1 例. 一般口演
5. 琴畑 洋介, 新田 浩幸, 片桐 弘勝, 菅野 将史, 梅邑 晃, 武田 大樹, 安藤 太郎, 天野 怜, 岩佐 友寛, 八重樫 瑞典, 馬場 誠朗, 秋山 有史, 佐々木 章. 脂肪肉腫再発と鑑別が困難であった小腸魚骨穿孔による類上皮細胞性肉芽腫の 1 例. 一般口演
6. 岩佐 友寛, 片桐 弘勝, 新田 浩幸, 菅野 将史, 梅邑 晃, 武田 大樹, 安藤 太郎, 天野 怜, 琴畑 洋介, 佐々木 章. 高度な胃局所浸潤を伴い肝転移を有した悪性膵 Solid pseudopapillary neoplasm の 1 例. 一般口演
7. 秋山 有史. 上部消化管手術の最前線. アフタヌーンセミナー

## 第 14 回いわて肥満症治療セミナー, 盛岡, 2022/06/29

\* 佐々木 章. 特別講演 肥満外科はメタボリックサージェリーに. 座長

## 日本消化器病学会東北支部第 213 回例会, 山形, 2022/07/01

\* 佐々木 章. 特別企画 目指せ! 消化器病専門医一専攻医からの報告. 司会

## The 9th Summer Seminar in Okinawa, 沖縄, 2022/07/02

1. 天野 怜, 新田 浩幸, 岩佐 友寛, 琴畑 洋介, 安藤 太郎, 武田 大樹, 梅邑 晃, 菅野 将史, 片桐 弘勝, 佐々木 章. 肝静脈根部に挟まれるように近接する腫瘍に対する腹腔鏡下肝切除の有用性・安全性に関する検討. 一般口演
2. 武田 大樹, 新田 浩幸, 片桐 弘勝, 菅野 将史, 梅邑 晃, 安藤 太郎, 天野 怜, 岩佐 友寛, 琴畑 洋介, 佐々木 章. 完全大血管転位術後、うっ血肝に発症した若年発症肝細胞癌に対する 腹腔鏡下肝切除術の経験. 一般口演
3. 片桐 弘勝, 菅野 将史, 梅邑 晃, 武田 大樹, 安藤 太郎, 天野 怜, 新田 浩幸, 佐々木 章. 胆管狭窄症減少を目指した生体肝移植手術手技. 一般口演
- \* 新田 浩幸. 肝臓セッション 1・ミニレクチャー. コメンテーター

## 第 60 回日本消化器がん検診学会東北地方会, 山形, 2022/07/02

1. 菅原 将人, 齊藤 裕美, 川又 健一, 中居 賢司, 神谷 亮一, 村上 晶彦, 馬場 誠朗, 佐々木 章. 施設健診にて経験した Killian-Jamieson 憩室の一例. 一般口演

**Surgeons Open Seminar in Tohoku, 仙台, 2022/07/06**

1. 八重樫 瑞典. Surgeons Open Seminar in Tohoku. セミナー

**第 28 回侵襲とサイトカイン研究会, つくば, 2022/07/07**

- \* 佐々木 章. 会長講演 救急・集中治療・災害医療を科学する. 座長

**第 1 回東北 LAC 教室, web 開催 (盛岡), 2022/07/08**

- \* 八重樫 瑞典. 東北 LAC 教室. 座長

**第 24 回岩手内視鏡外科研究会, 盛岡, 2022/07/09**

- \* 佐々木 章. 特別講演「日本内視鏡外科学会大上賞受賞者 次世代育成事業」上部消化管外科におけるロボット支援手術の現状と将来展望. 座長

**第 18 回岩手甲状腺研究会, 盛岡, 2022/07/15**

- \* 佐々木 章. 特別講演 震災後 11 年を経た福島での甲状腺検査について. 座長

**第 73 回北日本小児科学会, 盛岡, 2022/09/09 ~ 09/10**

1. 小林 めぐみ, 平井 みさ子, 田金 恵, 小山 亮太, 鳥谷 由貴子, 松本 敦, 鈴木 信, 佐々木 章. 隣県より搬送された重症心疾患および食道閉鎖症の極低出生体重児における治療戦略. 一般口演

**第 5 回日本蛍光ガイド手術研究会, 東京, 2022/09/16 ~ 09/17**

1. 安藤 太郎, 新田 浩幸, 天野 怜, 武田 大樹, 梅邑 晃, 菅野 将史, 片桐 弘勝, 佐々木 章. 移植ドナー肝摘出術時における ICG 蛍光法の有用性. シンポジウム

**日本消化器病学会東北支部 第 87 回市民公開講座, 宮古, 2022/10/22**

1. 鈴木 信. 知っておきたい子どものおなかの病気. 講演

**日本小児神経学会 医療的ケア研修セミナー, 盛岡・Web ハイブリッド, 2022/11/03**

1. 鈴木 信. 小児外科医が関わる医療的ケア. 教育講演

**第 52 回胃外科・術後障害研究会, 沼津, 2022/11/18 ~ 11/19**

1. 佐々木 章. 噴門側胃切除後 valvuloplasty への挑戦~旗福哲彦先生を偲んで~. 特別企画
2. 馬場 誠朗, 秋山 有史, 遠藤 史隆, 二階 春香, 八重樫 瑞典, 梅邑 晃, 片桐 弘勝, 岩谷 岳, 新田 浩幸, 肥田 圭介, 佐々木 章. 早期胃癌に対する腹腔鏡下噴門側胃切除術後術後の食事摂取からみた体重減少率の検討. 一般口演

**第 16 回肝臓内視鏡外科研究会・第 14 回膵臓内視鏡外科研究会, 福岡, 2022/11/23**

1. 新田 浩幸, 片桐 弘勝, 菅野 将史, 梅邑 晃, 武田 大樹, 安藤 太郎, 天野 怜, 佐々木 章. 腹腔鏡下外側区域グラフト採取術の手術手技と成績. パネルディスカッション
2. 新田 浩幸, 佐々木 章, 片桐 弘勝, 菅野 将史, 梅邑 晃, 武田 大樹, 安藤 太郎, 天野 怜. 腹腔鏡補助下肝葉切除術の役割. シンポジウム
3. 片桐 弘勝, 新田 浩幸, 菅野 将史, 梅邑 晃, 武田 大樹, 天野 怜, 安藤 太郎, 秋山 有史, 佐々木 章. 10cm を超える肝腫瘍に対して腹腔鏡下肝葉切除術は安全に施行できるか?. 要望演題
4. 木村 拓, 新田 浩幸, 片桐 弘勝, 菅野 将史, 梅邑 晃, 武田 大樹, 安藤 太郎, 天野 怜, 佐々木 章. 腹腔鏡下肝切除術における外科専攻医スコーピストに対する採点式評価表の効果. 一般口演

**第 14 回東北ヘルニア研究会, 盛岡, 2022/12/17**

1. 西成 悠, 棚橋 洋太, 石橋 正久, 新田 浩幸, 佐々木 章. 当院における鼠径部ヘルニアに対し腹腔鏡下ヘルニア根治術の術者別検討. 一般口演
2. 安藤 太郎, 梅邑 晃, 天野 怜, 武田 大樹, 菅野 将史, 片桐 弘勝, 新田 浩幸, 佐々木 章. 整形外科術に生じた後腹膜ヘルニアに対し IPOM にて治療し得た 1 例. 一般口演

## 岩手医科大学 外科学講座 スタッフ

役職	名前	卒業年	診療・研究チーム	認定資格・高度技能医
教授	佐々木 章	1988	内分泌代謝	JSES 技術認定（食道）、消化器外科専門医、内分泌外科専門医
	新田 浩幸	1993	肝胆膵	JSES 技術認定（肝臓）、JHBPS 高度技能指導医、消化器外科専門医
准教授	鈴木 信	2000	小児外科	小児外科専門医、小児泌尿器専門医、小児がん認定外科医、新生児認定外科医
	片桐 弘勝	2004	肝胆膵	JHBPS 高度技能専門医、消化器外科専門医
	梅邑 晃	2005	肝胆膵・内分泌代謝	JSES 技術認定（胆道）、消化器外科専門医
講師	馬場 誠朗	2004	上部消化管	消化器外科専門医
	八重樫瑞典	2009	下部消化管	JSES 技術認定（大腸）、消化器外科専門医
助教	菅野 将史	2004	肝胆膵	消化器外科専門医、JHBPS 高度技能専門医
	石田 和茂	2005	乳腺	乳腺専門医
	小林めぐみ	2007	小児外科	小児外科専門医
	武田 大樹	2008	肝胆膵	消化器外科専門医
	高清水清治	2010	下部消化管	消化器外科専門医、JSES 技術認定（大腸）
	二階 春香	2011	上部消化管	消化器外科専門医
	安藤 太郎	2012	肝胆膵	消化器外科専門医
	天野 怜	2014	肝胆膵	消化器外科専門医
	畑中 智貴	2014	下部消化管	消化器外科専門医
助教(任期付)	石田 馨	2006	救急	
	天野 総	2013	乳腺	
	小山 亮太	2015	小児外科	
専門研修医	平田勇一郎	2015		
	橋元 麻生	2016	乳腺	
	菅野 正紀	2017		
	川上亜紀子	2017		
大学院 4年	伊藤 浩平	2017		
	高橋 真人	2017	内分泌代謝	
3年	熊谷 秀基	2015	内分泌代謝	
	岩崎 崇文	2018		
	岩佐 友寛	2020		
	大塚 観喜	2020		
	口田 脩太	2020		

役職	名前	卒業年	診療・研究チーム	認定資格・高度技能医
大学院 2年	棚橋 洋太	2015		
	奥津 美里	2019		
1年	清川 真緒	2020		
	琴畑 洋介	2020		

### 非常勤医師

客員教授	寺島 雅典	静岡県静岡がんセンター 副院長
非常勤講師	阿部 正	岩手県予防医学協会
	大森 浩明	栗石大森クリニック 院長
	川村 英伸	岩手県立宮古病院 院長
	笠原 群生	国立成育医療研究センター 院長
	富澤 勇貴	とみさわ甲状腺・乳腺のクリニック盛岡 院長
非常勤医師	島袋 誠守	東京ミッドタウンクリニック 先端医療研究所副所長 / がん診療部長兼部門幹事 / 外来診療部門幹事
	大塚 幸喜	藤田医科大学 先端ロボット・内視鏡手術学講座 教授
	高原 武志	藤田医科大学 総合消化器外科 教授
	長谷川 康	慶應義塾大学医学部 一般・消化器外科 専任講師
	小松 英明	信州上田医療センター 乳腺内分泌外科 乳腺内分泌外科医長
	有末 篤弘	八戸赤十字病院
	松井 雄介	県立二戸病院
	中村 侑哉	県立久慈病院
	木村 拓	県立釜石病院
	藤澤 良介	県立久慈病院
	佐々木教之	県立二戸病院
	有吉 佑	かづの厚生病院
	田金 恵	北上済生会病院
	菊地 晃司	八戸赤十字病院
	屋成 信吾	かづの厚生病院
	佐々木智子	盛岡赤十字病院
	小泉 優香	県立釜石病院

---

## 編集後記

---

2023年も岩手医科大学外科学講座教室年報を無事に発刊することができました。2019年12月に報告された新型コロナウイルス感染症により、依然として皆さまのご苦勞も多いものと拝察いたしております。入院や手術の制限を受け、コロナ患者への対応とお忙しいなか、本年も多くの先生方よりご寄稿いただくことができ、充実した内容となっております。ご執筆および編集に関わっていただいた皆様に深く感謝いたします。

研究会や学会がWebやHybrid形式での開催が主流となっておりますが、同門の諸先輩方、医局員の皆様のご支援により、2022年には盛岡で第44回日本臨床栄養学会総会と第47回日本外科系連合学会学術集会を現地開催することができました。今後は、以前のような現地での学会開催が戻ってくることを祈願し、皆様との交流の場が少しずつ増えてくることを楽しみにしております。

末筆ながら同門会の先生方、ご執筆いただいた先生方、秘書の皆様、ヤマダプランニングの方々、ご協賛いただきました各社の皆様にこの場を借りて厚くお礼申し上げます。

編集委員長 馬場 誠朗



# OLYMPUS

# VISERA ELITE III



製造販売元 オリンパスメディカルシステムズ株式会社

販売名

医療機器番号

VISERA ELITE III ビデオシステムセンター OLYMPUS OTV-S700

13B1X00277000699

VISERA ELITE III 画像伝送装置 OLYMPUS GLL-S700

13B1X00277000700

4Kカメラヘッド OLYMPUS CH-S700-XZ-EA

13B1X00277000701

## 4K/3D/IR 観察の機能を統合した オールインワンビデオプロセッサ

VISERA ELITE IIIは、従来のオリンパスの外科用内視鏡システムの利点を統合した内視鏡プラットフォームです。異なる診療科での機器共有を可能にするとともに、お客様のニーズに応じて機能をカスタマイズすることができます。またVISERA ELITE / VISERA ELITE IIシリーズのスコープとの高い互換性とソフトウェアアップグレードによる機能拡張により、効率的な機器投資に貢献します。



### より精密な臨床画像を実現する True 4K 画質

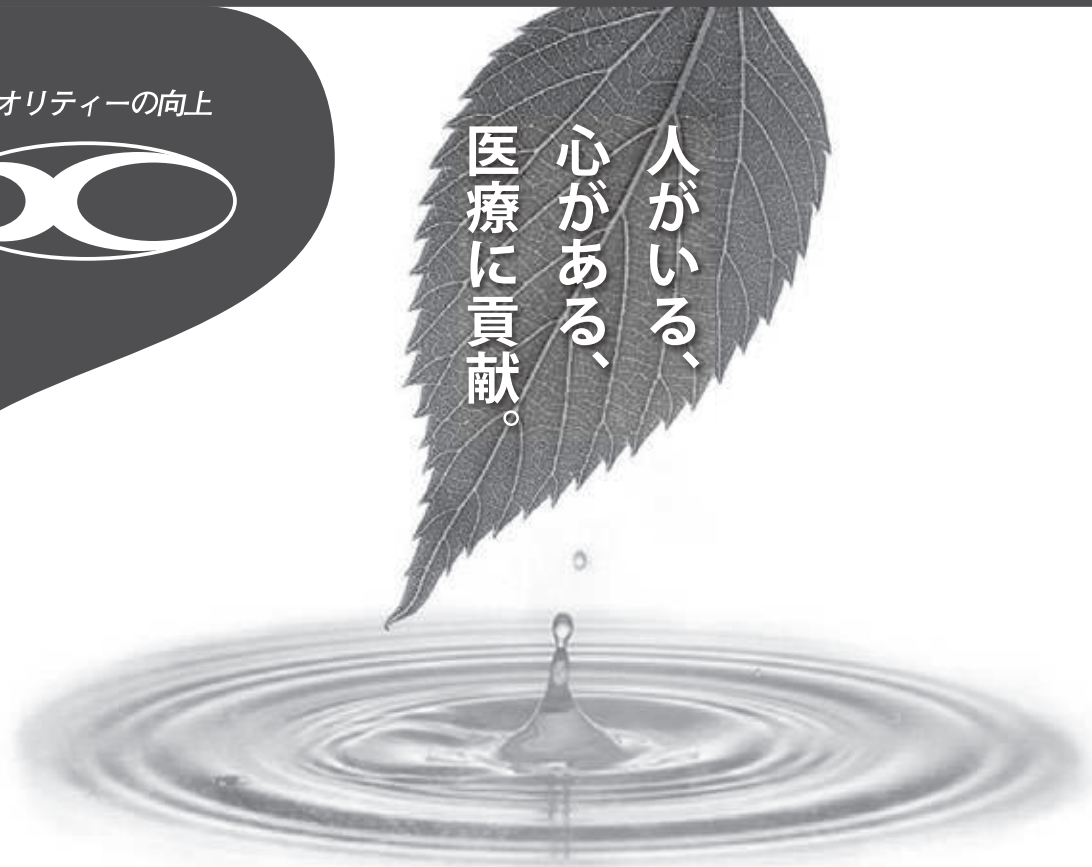
4Kカメラヘッド CH-S700-XZ-EA



クオリティーの向上



人がいる、  
心がある、  
医療に貢献。



誠実・医療に奉仕

# 共立医科器械株式会社

●本社 〒020-0013 岩手県盛岡市愛宕町15-9 TEL (019) 623-1205 (代) FAX (019) 653-5301

医療情報システム営業部(本社内)

水沢支店 〒023-0826 岩手県奥州市水沢中田町4-38 TEL (0197) 25-6221 (代) FAX (0197) 25-6223

さんりく営業所 〒026-0046 岩手県釜石市桜木町1-6-41 TEL (0193) 23-0491 (代) FAX (0193) 23-0976

矢巾営業所 〒028-3609 岩手県紫波郡矢巾町医大通2-1-12 TEL (019) 613-6771 FAX (019) 613-6772

八戸支店 〒039-1166 青森県八戸市根城3-18-3 TEL (0178) 43-2923 (代) FAX (0178) 44-1957

弘前営業所 〒036-8062 青森県弘前市大字青山4-20-3 TEL (0172) 55-5081 FAX (0172) 55-5082

青森営業所 〒030-0811 青森県青森市青柳1-8-19 TEL (017) 718-3205 FAX (017) 718-3206

秋田営業所 〒010-0041 秋田県秋田市広面字川崎107-3 TEL (018) 884-7464 FAX (018) 884-7465

共立サポートセンター



★ISO 9001  
認証取得

〒020-0813 岩手県盛岡市東山2-3-12

TEL (019) 652-8988 FAX (019) 623-4161

- 医療機器 ■医療情報システム ■病・医院諸設備 ■理化学分析機器
- バイオテクノロジー機器 ■環境分析機器 ■実験動物機器

<http://www.kmic.co.jp/>

ENDOPATH<sup>®</sup>  
XCEL Trocar series



PDS PLUS<sup>®</sup>



STRATAFIX<sup>®</sup>  
Spiral PDS Plus<sup>®</sup>



Powered ECHELON FLEX<sup>®</sup>+  
GST<sup>®</sup> System



# Reimagining how we heal™

ENSEAL<sup>®</sup>  
X1 Curved Jaw Tissue Sealer



DERMABOND PRINEO<sup>®</sup>



SURGIFLO<sup>®</sup>



HARMONIC<sup>®</sup> 1100



SURGICEL<sup>®</sup> Powder  
Absorbable Hemostat



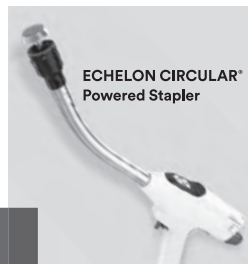
HARMONIC  
FOCUS<sup>®</sup>+

SURGICEL SNoW<sup>®</sup>  
Absorbable Hemostat



SURGICEL<sup>®</sup>  
ABSORBABLE HEMOSTAT

ECHELON CIRCULAR<sup>®</sup>  
Powered Stapler



# ETHICON

Johnson & Johnson SURGICAL TECHNOLOGIES

製造販売元：ジョンソン・エンド・ジョンソン株式会社 メディカルカンパニー  
〒101-0065 東京都千代田区西神田 3-5-2 TEL.0120-160-834

231371-221031  
©J&JKK 2022

販売名：エンドスコピック パワード リニヤー カッター 認証番号：22500BZX00396000  
販売名：GST カートリッジ 承認番号：22700BZX00155000  
販売名：エシェロン サークュラー パワードスティプレー 承認番号：30100BZX00156000  
販売名：エンドパス トロッカーシステム 認証番号：21900BZX00882000  
販売名：ハーモニック 1100 シアーズ 承認番号：30300BZX00138000  
販売名：エンシール X1 ティッシュシーラー 承認番号：30200BZX00391000  
販売名：ハーモニック FOCUS プラス 承認番号：22700BZX00411000

販売名：STRATAFIX Spiral PDS プラス 承認番号：22900BZX00123000  
販売名：PDS プラス 承認番号：22300BZX00333000  
販売名：ダーマボンドプリネオ 届出番号：1381X00204ME0010  
販売名：サージフロ<sup>®</sup> 承認番号：23100BZX00112000  
販売名：サージセル<sup>®</sup>・パウダー・アブソーパブル・ヘモスタット 承認番号：30200BZX00082000  
販売名：サージセル スノー・アブソーパブル・ヘモスタット 承認番号：30300BZX00042000  
販売名：サージセル・アブソーパブル・ヘモスタット 医薬品承認番号：14700AMY00205000

販売名：STRATAFIX Spiral PDS プラス 承認番号：22900BZX00123000  
販売名：PDS プラス 承認番号：22300BZX00333000  
販売名：ダーマボンドプリネオ 届出番号：1381X00204ME0010  
販売名：サージフロ<sup>®</sup> 承認番号：23100BZX00112000  
販売名：サージセル<sup>®</sup>・パウダー・アブソーパブル・ヘモスタット 承認番号：30200BZX00082000  
販売名：サージセル スノー・アブソーパブル・ヘモスタット 承認番号：30300BZX00042000  
販売名：サージセル・アブソーパブル・ヘモスタット 医薬品承認番号：14700AMY00205000

# Creating for Tomorrow

昨日まで世界になかったものを。

私たち旭化成グループの使命。

それは、いつの時代でも世界の人びとが“いのち”を育み、

より豊かな“くらし”を実現できるよう、最善を尽くすこと。

創業以来変わらぬ人類貢献への想いを胸に、次の時代へ大胆に伝えていくために一。

私たちは、“昨日まで世界になかったものを”創造し続けます。

## AsahiKASEI

旭化成ファーマ株式会社

まだないくすりを  
創るしごと。

世界には、まだ治せない病気があります。

世界には、まだ治せない病気とたたかう人たちがいます。

明日を変える一錠を創る。

アステラスの、しごとです。

[www.astellas.com/jp/](http://www.astellas.com/jp/)

明日は変えられる。

 **astellas**

アステラス製薬株式会社

治療用電気手術器

# erbe エルベVIO3/APC3 高周波手術装置 自動排煙装置IES3



VIO3に搭載可能な  
自動排煙装置が登場しました。

## IES3の特長

- 場所を取らないビルトイン設計
- ULPA15と高密度活性炭フィルターなど性質の異なる5層フィルター構造で確実に粒子を除去
- 二つのタービンによりレスポンスの速い吸引効率を実現
- ラパロモードを搭載
- VIOシリーズはもちろん他社電気メスとも連動

## VIO3/APC3の特長

- 毎秒25,000,000回転の組織抵抗フィードバックにより、切開、凝固の再現性が向上
- 最大6個までのリモートプログラム設定可能
- 設定はエフェクトのみの調整でシンプルに
- Wi-Fi機能搭載により、ワイヤレスでPCやiPadとのコミュニケーションが可能

承認番号：23000BZX00353000

アムコ ライブラリー

検索

会員登録頂くと、製品に関するケースレポート、講演会やセミナー動画、学会・セミナー記録集などの情報がご覧頂けます。  
医療関係者の方を対象としております。

●製造販売元



株式会社 アムコ

www.amco.co.jp

本社 〒102-0072 東京都千代田区飯田橋4-9-7 TEL 03 (3265) 4263 FAX 03 (3265) 2796



抗悪性腫瘍剤 / FGFR 阻害剤

薬価基準収載

# ペマジール<sup>®</sup>錠 4.5mg

Pemazyre<sup>®</sup> tablets

(ペミガチニブ錠)

劇薬、処方箋医薬品 注意—医師等の処方箋により使用すること

●効能又は効果、用法及び用量、警告・禁忌を含む使用上の注意等については添付文書をご参照ください。



製造販売元 (文献請求先及び問い合わせ先)  
インサイト・バイオサイエンス・ジャパン合同会社  
〒100-0006 東京都千代田区有楽町1-1-2 東京ミッドタウン日比谷

【メディカルインフォメーションセンター】

TEL: 0120-094-139

(受付時間：9:00-17:30、土・日・祝日・当社休日除く)

PEM028P-01  
2022年3月作成

効能・効果、用法・用量、禁忌を含む使用上の注意等については製品添付文書をご参照ください。

処方箋医薬品：注意—医師等の処方箋により使用すること

薬価基準収載

膵消化酵素補充剤

**リパクレオン**® 顆粒300mg分包  
カプセル150mg

〈バンクレリパーゼ製剤〉 **LipaCreon**®

製造販売元 **マイランEPD合同会社**  
東京都港区虎ノ門5丁目11番2号  
〔資料請求先〕くすり相談室 フリーダイヤル 0120-938-837

**VIATRIS**  
Mylan is a Viatris group company

2021年1月作成

患者様の想いを見つめて、  
薬は生まれる。

顕微鏡を覗く日も、薬をお届けする日も、見つめています。  
病気とたたかう人の、言葉にできない痛みや不安。生きることへの希望。  
私たちは、医師のように普段からお会いすることはできませんが、  
そのぶん、患者様の想いにまっすぐ向き合っていたいと思います。  
治療を続けるその人を、勇気づける存在であるために。  
病気を見つめるだけでなく、想いを見つめて、薬は生まれる。  
「ヒューマン・ヘルスケア」。それが、私たちの原点です。

ヒューマン・ヘルスケア企業 エーザイ

AFUTURE REEOPLE  
Global Alliance  
エーザイはWHOのリンパ系フィラリア病制圧活動を支援しています。

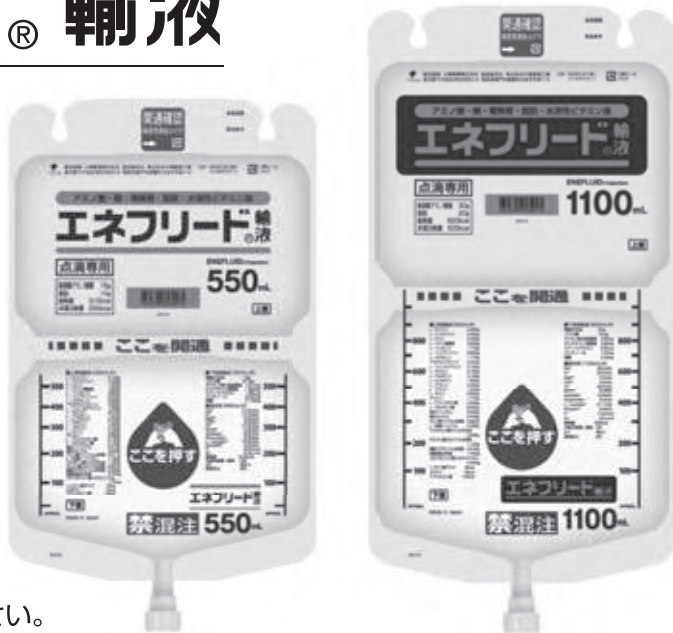
処方箋医薬品\* 薬価基準収載

アミノ酸・糖・電解質・脂肪・水溶性ビタミン液

# エネフリード® 輸液

## ENEFLUID® Injection

\*注意—医師等の処方箋により使用すること



◇効能又は効果、用法及び用量、禁忌を含む  
使用上の注意等は、製品添付文書をご参照ください。



製造販売元 株式会社大塚製薬工場 徳島県鳴門市撫養町立岩字芥原115  
販売提携 大塚製薬株式会社 東京都千代田区神田司町2-9

文献請求先及び問い合わせ先  
株式会社大塚製薬工場 輸液DIセンター  
〒101-0048 東京都千代田区神田司町2-2

<'21.03作成>



承認番号20900BZY00790000

高度管理医療機器 | 保険適用

癒着防止吸収性バリア

# セプラフィルム®

ヒアルロン酸ナトリウム/カルボキシメチルセルロース癒着防止吸収性バリア

●禁忌・禁止を含む使用上の注意等については  
電子化された添付文書をご参照ください。

製造販売元(輸入) バクスター株式会社  
東京都中央区晴海一丁目8番10号

発売元  
文献請求先  
及び問い合わせ先



科研製薬株式会社

〒113-8650 東京都文京区本駒込二丁目28番8号  
医薬品情報サービス室

JP-AS30-220649 V1.0  
SPF06CP (2023年1月作成)

# Medtronic

Engineering the extraordinary



## 1秒に2人

人々の生活を毎時間、毎日、  
変え続けています

メドトロニックは、人生を  
変えるようなテクノロジーで  
70種類以上の健康課題に対する  
治療法を提供してきました。

私たちの製品、サービス、  
そしてソリューションによって、  
年間7,200万人の患者さんが、  
世界のどこかで意義のある  
生活を取り戻しています。



詳しくはこちら

メドトロニック 検索

[medtronic.co.jp](https://medtronic.co.jp)

© 2022 Medtronic. Medtronic、メドトロニック及びMedtronicロゴマークは、Medtronicの商標です。  
COMMS-2022-0060

## SunnyHealth

### 食事制限や減量が必要な方に。

# MICRODIET

## フォーミュラ食 マイクロダイエット

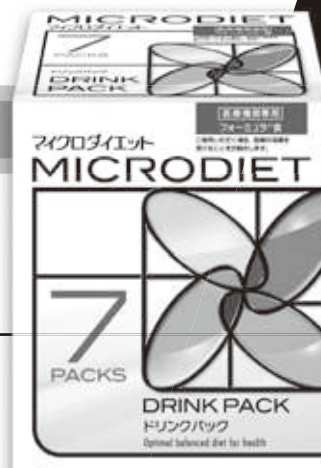
30年以上にわたる使用実績と豊富な臨床エビデンス!

お問い合わせ先 **サニーヘルス株式会社** メディカルチーム

〒104-6124 東京都中央区晴海1丁目8番11号 晴海アイランドトリトンスクエア オフィスタワーY24階(南側)  
Phone 03-6701-3010 Fax 03-6701-3020

サンプル・資料のご用命は

通話料 無料 **0120-308-270** 受付時間/平日9:00~17:30  
info-mdmedical@sunnyhealth.co.jp



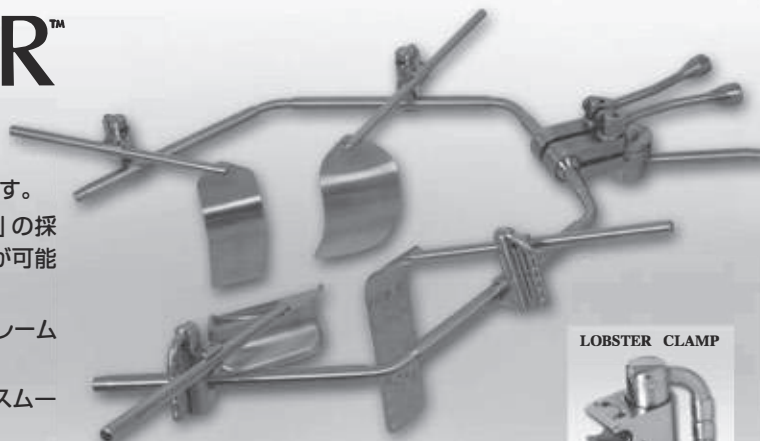


簡単なセットアップと優れた操作性で  
レトラクターシステムの革新をもたらした

**BOSS**  
INSTRUMENTS, LTD.  
For the Art of Surgery™

# THE LOBSTER™

- 術者の手間を取らせない最速のセットアップが可能です。
- 左右独立調整を出来る「ウィッシュボーン・フレーム」の採用により、患者の体位、体形に合わせてセッティングが可能です。
- 独自のスナップインブレード方式の採用でクランプのフレームへの着脱が可能です。
- 鉤の交換時の着脱もスナップ方式で側方から可能し、スムーズな術野での展開操作が可能です。



LOBSTER CLAMP



製造販売業者

**MERA 泉工医科工業株式会社** (平成20年11月より国内販売元になりました。)

■問い合わせ先: 本社商品企画: TEL.03-3812-3254 FAX.03-3815-7011

■営業拠点: 札幌支店・東北支店・青森・盛岡・福島・関東支店・松本・新潟・東京支店・つくば・横浜・中部支店・静岡・金沢・関西支店・中四国支店・岡山・四国・九州支店・鹿児島

製造業者: Boss Instruments Ltd. 国名: 米国



抗悪性腫瘍剤-抗HER2\*抗体  
トポイソメラーゼI阻害剤複合体

薬価基準収載



**エンハーツ®** 点滴静注用100mg

一般名/トラスツスマブ テルクステカン(遺伝子組換え)  
(Trastuzumab Deruxtecan (Genetical Recombination))  
生物由来製品、劇薬、処方箋医薬品: 注意-医師等の処方箋により使用すること  
\*HER2: Human Epidermal Growth Factor Receptor Type 2  
(ヒト上皮増殖因子受容体2型、別称: c-erbB-2)

- 「効能又は効果」、「用法及び用量」、「警告・禁忌を含む使用上の注意」等については添付文書をご参照ください。

製造販売元(文献請求先及び問い合わせ先を含む)



Daiichi-Sankyo

**第一三共株式会社**

東京都中央区日本橋本町3-5-1

2021年4月作成



**選択的NK<sub>1</sub>受容体拮抗型制吐剤**

ホスネツピタント塩化物塩酸塩注射剤

劇薬、処方箋医薬品（注意—医師等の処方箋により使用すること）

**アロカリス® 点滴静注 235mg**  
**Arokaris. I.V. infusion**

薬価基準収載



効能又は効果、用法及び用量、禁忌を含む注意事項等情報は電子添文をご確認ください。



文献請求先及び問い合わせ先

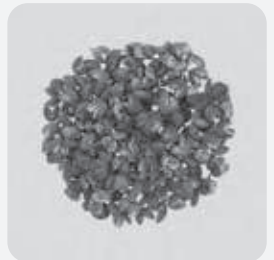
**大鵬薬品工業株式会社**  
 〒101-8444 東京都千代田区神田錦町1-27  
 TEL.0120-20-4527 <https://www.taiho.co.jp/>

提携先 **HEL SINN** スイス

2022年5月作成



生薬には、  
個性がある。



漢方製剤にとって「良質」とは何か。その答えのひとつが「均質」である、とツムラは考えます。自然由来がゆえに、ひとつひとつに個性がある生薬。漢方製剤にとって、その成分のばらつきを抑え、一定に保つことが「良質」である。そう考える私たちは、栽培から製造にいたるすべてのプロセスで、自然由来の成分のばらつきを抑える技術を追求。これからもあるべき「ツムラ品質」を進化させ続けます。現代を生きる人々の健やかな毎日のために。自然と健康を科学する、漢方のツムラです。

**良質。均質。ツムラ品質。**



株式会社ツムラ <https://www.tsumura.co.jp/> 資料請求・お問合せは、お客様相談窓口まで。

医療関係者の皆様 tel.0120-329-970 患者様・一般のお客様 tel.0120-329-930 受付時間 9:00~17:30(土・日・祝日は除く)

2021年4月制作 (審)

**TEIJIN**

Human Chemistry, Human Solutions

# 患者さんの Quality of Lifeの向上が 私たちの理念です。



帝人ファーマ株式会社 帝人ヘルスケア株式会社 〒100-8585 東京都千代田区霞が関3丁目2番1号

PAD003-TB-2103-1

**TERUMO**



解熱鎮痛剤  
アセトアミノフェン静注液

薬価基準収載

**アセリオ<sup>®</sup> 静注液 1000mg**  
acelio<sup>®</sup> Intravenous Injection 1000mg

劇薬 処方箋医薬品 注意—医師等の処方箋により使用すること

※「効能又は効果」、「用法及び用量」、「警告・禁忌を含む使用上の注意」等については、製品添付文書をご参照下さい。

製造販売元:テルモ株式会社 〒151-0072 東京都渋谷区幡ヶ谷2-44-1 www.terumo.co.jp

資料請求先:テルモ株式会社 コールセンター ☎0120-12-8195(平日9:00-17:45受付)

TERUMOはテルモ株式会社の商標です。 acelio、アセリオはテルモ株式会社の登録商標です。 ©テルモ株式会社 2016年6月 2016年6月作成

# CYRAMZA® (ramucirumab)

抗悪性腫瘍剤 ヒト型抗VEGFR-2<sup>注1</sup>モノクローナル抗体  
生物由来製品、劇薬、処方箋医薬品\*

**サイラムザ®** 点滴静注液 100mg  
点滴静注液 500mg

CYRAMZA® Intravenous Injection ラムシルマブ(遺伝子組換え)注射液

注) VEGFR-2: Vascular Endothelial Growth Factor Receptor-2(血管内皮増殖因子受容体2)

\*注意—医師等の処方箋により使用すること

薬価基準収載

「効能又は効果」、「用法及び用量」、「警告・禁忌を含む注意事項等情報」等については電子添文をご参照ください。

PP-RB-JP-7143  
2022年10月作成

製造販売元(文献請求先及び問い合わせ先)  
**日本イーライリリー株式会社**  
〒651-0086 神戸市中央区磯上通5丁目1番28号

Lilly Answers リリーアンサーズ (医療関係者向け)  
日本イーライリリー 医薬情報問合せ窓口  
[www.lillymedical.jp](http://www.lillymedical.jp)  
**0120-360-605**<sup>※1</sup>  
受付時間 月曜日～金曜日 8:45～17:30<sup>※2</sup>  
※1 通話料は無料です。携帯電話からでもご利用いただけます。  
※2 祝祭日および当社休日を除きます。

Lilly



抗悪性腫瘍剤/抗VEGF<sup>注1</sup> ヒト化モノクローナル抗体  
ベバシズマブ(遺伝子組換え) [ベバシズマブ後続4] 製剤

薬価基準収載

**ベバシズマブ® BS** 点滴静注 100mg 「CTNK」  
**ベバシズマブ® BS** 点滴静注 400mg 「CTNK」

Bevacizumab BS for I.V. Infusion 100mg・400mg 「CTNK」

生物由来製品、劇薬、処方箋医薬品<sup>注2</sup>

注1) VEGF: Vascular Endothelial Growth Factor (血管内皮増殖因子)

注2) 注意—医師等の処方箋により使用すること



文献請求先及び問い合わせ先  
日本化薬 医薬品情報センター  
0120-505-282  
日本化薬 医療従事者向け情報サイト  
<https://mink.nipponkayaku.co.jp/>

製造販売元  
(資料請求先) **日本化薬株式会社**  
東京都千代田区丸の内二丁目1番1号

提携先 **セルトリオン・ヘルスケア・ジャパン株式会社**  
東京都中央区新川一丁目16番3号住友不動産茅場町ビル3階

'22.11作成

※効能又は効果、用法及び用量、警告・禁忌を含む注意事項等情報は電子添文をご参照ください。

血液凝固阻止剤

# アコアラン<sup>®</sup> 静注用 600 1800

600国際単位、1800国際単位／バイアル  
ACOALAN<sup>®</sup> Injection アンチトロンビン ガンマ(遺伝子組換え)静注用

生物由来製品 処方箋医薬品<sup>注</sup> 薬価基準収載  
(注意:医師等の処方箋により使用すること)

※効能・効果、用法・用量、禁忌を含む使用上の注意等については、添付文書をご参照ください。

製造販売元  
**協和キリン株式会社**  
東京都千代田区大手町1-9-2

販売元  
**JB 日本血液製剤機構**  
東京都港区芝浦3-1-1

ACO-202007

[文献請求先及び問い合わせ先]  
日本血液製剤機構 くすり相談室 〒108-0023 東京都港区芝浦3-1-1 医療関係者向け製品情報サイト <https://www.jbpo.or.jp/med/di/>

抗悪性腫瘍剤 / キナーゼ阻害剤

# スチバーガ錠 40mg

Stivarga<sup>®</sup> tablets 40 mg

レゴラフェニブ錠

薬価基準収載

劇薬、処方箋医薬品<sup>注</sup>

注)注意—医師等の処方箋により使用すること

効能又は効果、用法及び用量、警告・禁忌を含む注意事項等情報の詳細については最新の電子添文をご参照ください。



Bayer

製造販売元 [文献請求先及び問い合わせ先]

バイエル薬品株式会社

大阪市北区梅田2-4-9 〒530-0001

<https://pharma.bayer.jp>

[コンタクトセンター] 0120-106-398

<受付時間> 9:00~17:30

(土日祝日・当社休日を除く)

(2022年10月作成) PP-STI-JP-0463-26-09



抗悪性腫瘍剤 (CDK4/6阻害剤)

# イブランス® カプセル錠

25mg・125mg

IBRANCE® 25mg・125mg Capsules / Tablets パルボシクリブカプセル / 錠

劇薬 | 処方箋医薬品 | 注意—医師等の処方箋により使用すること

薬価基準収載

「効能又は効果」、「用法及び用量」、「警告・禁忌を含む使用上の注意」等は、製品添付文書をご参照ください。

製造販売元

ファイザー株式会社

〒151-8589 東京都渋谷区代々木3-22-7

文献請求先及び製品の問い合わせ先:

製品情報センター 学術情報ダイヤル 0120-664-467

販売情報提供活動に関するご意見:

0120-407-947

2021年6月作成  
IBN72K005B

患者さん自らが持つ免疫力を、  
がん治療に大きく生かすことはできないだろうか——。  
小野薬品とブリストル・マイヤーズ スクイブは、  
従来のがん治療とは異なる  
「新たながん免疫療法」の研究・開発に取り組んでいます。

**ONO** 小野薬品工業株式会社


**BSI** ブリストル・マイヤーズ スクイブ 株式会社

2021年4月作成



Immuno-Oncology

未来をひらくがん免疫療法



MARUKIは、  
最新の情報と質の高いサービスの提供を通して  
地域医療の発展に貢献して参ります



丸木医科器械株式会社  
Maruki Medical Systems Inc.

■ 仙台支店  
〒981-1105 宮城県仙台市太白区西中田3-20-7  
TEL 022-242-6001 (代)

■ 山形支店  
〒990-2338 山形県山形市蔵王松ヶ丘2-2-22  
TEL 023-695-3000 (代)

■ 岩手支店  
〒028-3621 岩手県紫波郡矢巾町大字広宮沢第五地割313番  
TEL 019-698-1567 (代)

■ 八戸営業所  
〒039-1165 青森県八戸市石堂2-29-6-102  
TEL 0178-21-8009 (代)

■ 仙台SPDセンター  
〒984-0015 宮城県仙台市若林区卸町4-5-14  
TEL 022-253-6895 (代)

■ 庄内営業所  
〒998-0875 山形県酒田市東町1-26-8  
TEL 0234-23-7566 (代)

■ 水沢営業所・水沢SPDセンター  
〒023-0003 岩手県奥州市水沢佐倉河字竈神2-7  
TEL 0197-25-7703 (代)

■ 気仙沼出張所  
〒988-0053 宮城県気仙沼市田中前3丁目6-8 メイプルハイツB号  
FAX 0226-22-0880

■ 泉SPDセンター  
〒981-3117 宮城県仙台市泉区市名坂権町173-8  
TEL 022-771-2471 (代)

■ 鶴岡営業所  
〒997-0046 山形県鶴岡市みどり町12-10 コアビル202  
TEL 0235-29-1377 (代)

■ 秋田南営業所  
〒013-0043 秋田県横手市安田字越廻37  
TEL 0182-33-4751 (代)

## 教室年報

岩手医科大学医学部外科学講座

---

発行年月日／令和5年3月30日

発行責任者／佐々木 章

発行行／岩手医科大学医学部外科学講座同門会

〒028-3695 紫波郡矢巾町医大通2丁目1-1

TEL 019-613-7111 (6220)

FAX 019-907-7344

編集者／馬場 誠朗

制作／有限会社ヤマダプランニング

---



## 第34回内視鏡外科フォーラム in 盛岡の開催のお知らせ

佐々木 章

この度、「第34回内視鏡外科フォーラム in 盛岡」を2023年5月20日（土）に盛岡市で開催させていただくことになりました。歴史と伝統ある本フォーラム会長の名誉を賜り、機会を与えていただきました前理事長の徳村弘実先生と会員の皆様方に心より感謝申し上げます。

内視鏡外科フォーラムは、東北およびその他の地区における内視鏡外科手術の進歩と発展のために医療関係者が集まり、互いに知識を深めあうための会を目的に、1992年に設立されました。今回は、2022年度理事会で徳村弘実先生の後任として理事長に選任いただき、多くの理事が改選となった新体制での開催となります。内視鏡外科における新技術の検証や本フォーラムの今後の展望などを議論したいと考え、テーマは「Rethinking endoscopic

surgery: The next step?」といたしました。東北における各領域のロボット支援下手術を若手医師たちにどのように教育して普及させていくのか、安全性を担保しつつ内視鏡外科手術のメリットを最大限に生かし、患者へ真の利点を還元できる手技・技術は何であるかなどを考えるセッションを企画する予定です。

新型コロナウイルス感染症の影響で医療従事者の働き方や学びの場が変化している現状ですが、少しでもポスト・コロナを感じられるようなフォーラムを目指して、岩手医科大学外科学講座一丸となって準備に邁進してまいります。多くの皆様方にご参加いただけますようよろしくお願い申し上げます。

## 第29回侵襲とサイトカイン研究会の開催のお知らせ

佐々木 章

この度、「第29回侵襲とサイトカイン研究会」を2023年7月6日（木）にシェーンバッハ・サポーで開催させていただくことになりました。歴史と伝統のある本研究会会長の名誉を賜り、機会を与えていただきました代表世話人の花崎和弘先生、小谷穰治先生と会員の皆様方に心より感謝申し上げます。

本研究会は、外科侵襲とサイトカインに関する研究発表、意見交換、新しいアイデアの開発や進歩に貢献することを目的に設立され、2016年から日本外科代謝栄養学会と合同開催しています。今回は、日本外科代謝栄養学会第60回学術集会とアジア代謝栄養学会との合同開催にジョイントして同会場で現地開催の予定です。

研究会のテーマは「Bridging the research-patient benefit gap」といたしました。外科治療、救急、集中

治療、麻酔、感染など広い意味での侵襲学に関する基礎研究から臨床研究への発展、研究を研究だけで終わらせず、研究成果の患者還元を目指したご発表いただき、議論を深めたいと思います。今回は、一般演題の他に優秀演題セッションを企画しました。抄録から4～5題を選考し、本セッションの発表内容から優秀な2演題に表彰並びに副賞を贈呈しますので、奮って応募くださいようお願いいたします。

新型コロナウイルス感染症の影響で医療従事者の働き方や学びの場が変化している現状ですが、少しでもポスト・コロナを感じられるような研究会を目指して、岩手医科大学外科学講座一丸となって準備に邁進してまいります。多くの皆様方にご参加いただけますようよろしくお願い申し上げます。

### 表紙説明

冬も終わり春が近づくと、上空から鳴き声と共に大きなV字の隊列を組んで、澄んだ岩手の青空を横切って白鳥たちは北へと帰ります。このV字飛行は、前の鳥が羽ばたく際に、後方に上向きの気流が発生し、後続の鳥はその上昇気流を利用し、少ない力で飛ぶことでエネルギーの消耗を減らします。一番風の抵抗を受ける先頭は、時々交代しているそうです。数千キロもの長い旅路を切り抜ける、渡り鳥のチームワークの術といえます。

**巖刀会** (がんとうかい: 岩手山別称(巖鷲山)から1字とり、岩手の外科医の象徴の意)

# 第34回 内視鏡外科 フォーラム in 盛岡

The 34th Annual Meeting of Endoscopic Surgery Forum in Morioka

Rethinking endoscopic surgery: The next step ?

2023年(令和5年) **5.20** 土

会 長 佐々木 章 (岩手医科大学医学部外科学講座 教授)

会 場 アイーナ(いわて県民情報交流センター)

住所: 〒020-0045 岩手県盛岡市盛岡駅西通1丁目7番1号

<https://site2.convention.co.jp/34esf-tohoku>

第29回

## 侵襲とサイトカイン研究会

29th Annual Conference on Cytokine Research in Surgery and Critical Care

テーマ | Bridging the research-  
patient benefit gap

会 期 2023年7月6日(木)

会 場 シェーンバッハ・サボー

〒102-0093 東京都千代田区平河町2-7-4 砂防会館別館  
TEL: 03-3261-8386(代)

会 長 佐々木 章 (岩手医科大学医学部外科学講座 教授)

URL <http://cytokine29.umin.jp>

事務局 岩手医科大学医学部外科学講座  
〒028-3695 岩手県紫波郡矢巾町医大通2-1-1